

**「医薬品副作用被害救済制度に関する認知度調査」
調査報告書
<<一般国民>>**

平成22年12月24日

独立行政法人医薬品医療機器総合機構 健康被害救済部



1. 調査概要	2-3
2. 回答者の概要	4
3. 結果の要約	5-12
4. 調査結果	13-62
1 医療機関への受診経験	14
1-1 (医療機関受診者) 利用形態	15
1-2 (医療機関受診者) 利用した医療機関の規模	16
1-3 (医療機関受診者) 過去1年以内に最も多く利用した病院	17
2 医薬品の使用経験	18
3 医薬品の入手先	19-20
4 健康被害救済制度の認知	21-28
5 医薬品副作用被害救済制度の内容理解	29-36
6 医薬品副作用被害救済制度の認知経路	37-41
7 広告の認知	42-43
8 広告の認知経路	44-45
9 広告の評価	46-47
10 医薬品副作用被害救済制度に対する関心	48-49
11 医薬品副作用被害救済制度に関する情報入手経路	50-51
12 副作用の経験	52-53
13 副作用で治療を受けた経験	54
14 医薬品副作用被害救済制度の利用経験	55-56
15 医薬品副作用被害救済制度の利用しなかった理由	57-58
16 医薬品副作用被害救済制度の利用意向	59-60
17 医薬品副作用被害救済制度の利用意向の理由	61
18 医薬品副作用被害救済制度の周知方法	62
5. 考察	63-65
巻末資料(WEB調査票)	66

1. 調査概要

ü 調査目的

- 一般国民の医薬品副作用被害救済制度の認知度、認知経路、利用意向等を把握し、今後の広報展開の参考とする。

ü 調査対象

- 20歳代以上の男女

ü 調査方法

- インターネット調査
- 調査企画管理・実施機関が保有するインターネットアンケートサイト「アイリサーチ」のシステムを利用した登録モニターへのWEBアンケート方式

ü 調査期間

- 2010年7月29日(木)～8月5日(木)

ü 調査設計

- 21,000s (7地域に分け、1地域あたり3,000s)

7地域：北海道（北海道）

東北地域（青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県）

関東信越地域（茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・新潟県・山梨県・長野県）

東海北陸地域（富山県・石川県・岐阜県・静岡県・愛知県・三重県）

近畿地域（福井県・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県）

中国・四国地域（鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県）

九州地域（福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県）

ü 調査企画管理・実施機関

- 株式会社メディアインタラクティブ

1. 調査概要

ü その他

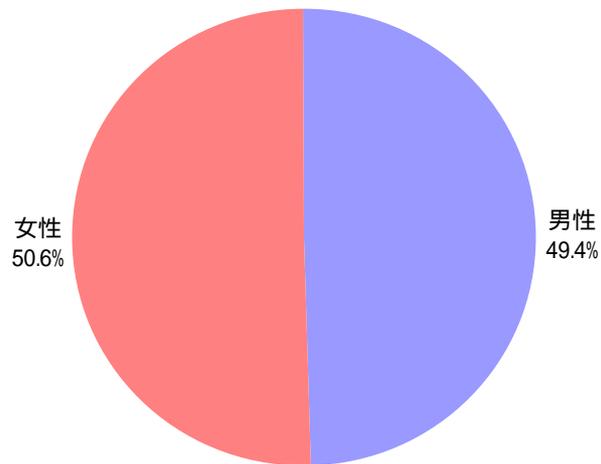
- 本調査においては、複数回答が可能な設問について、選択肢ごとの回答率(%)を算出する場合、回答者数(有効回収数)を全体数(母数)としているため、合計値が100%を超えることがある。
- 回答率(%)は、少数第2位を四捨五入しているため、選択肢から1つのみを回答する場合でも回答率の表示数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- クロス集計の分析軸によって、サンプル数が少ない場合、回答傾向として十分な精度を持たない場合もあるため注意が必要である。

<21年度との比較について>

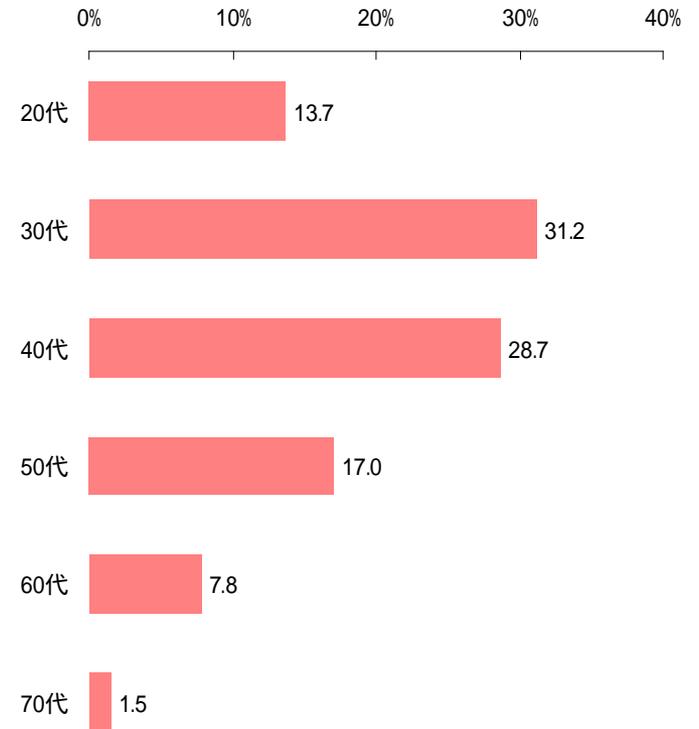
22年度調査においては、調査対象者を増やすとともに、調査内容等についても見直しを行っているため、21年度調査結果と単純に比較することはできないが、両年度の比較については、参考として記載した。

2. 回答者の概要

性別 全体【N=21000】



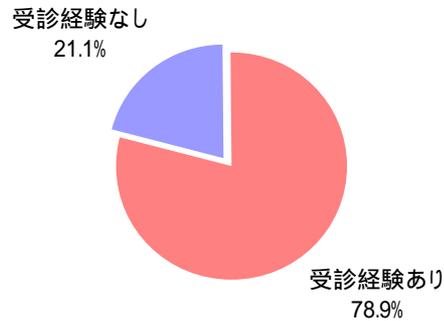
年代 全体【N=21000】



3. 結果の要約 - 過去1年以内の受診経験者及び利用実態〔参照：14-17頁〕

- 過去1年以内の医療機関の受診経験者は78.9%である。
- 受診経験者のうち「通院のみ」は91.7%。利用した医療機関の規模は、「診療所、クリニック、医院など」が70.9%、「病院」が29.1%。利用した病院の種類は、「その他」以外では「自治体病院」が23.8%で最も高い。

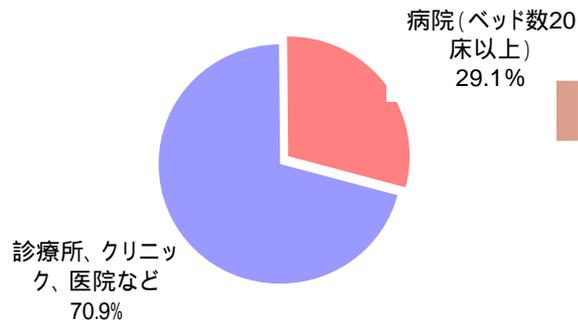
受診経験 (N=21000)



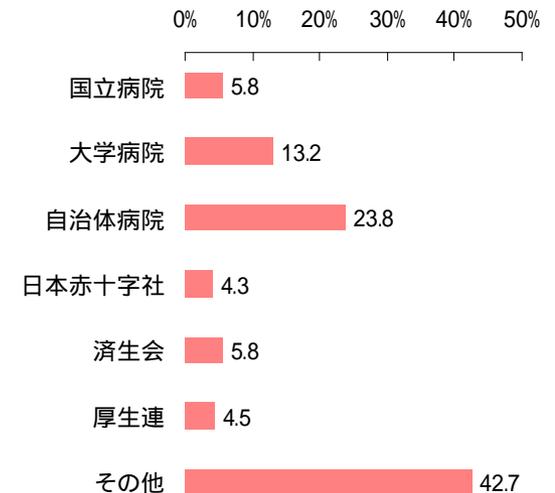
利用目的 (N=16574)



医療機関の規模 (N=16574)



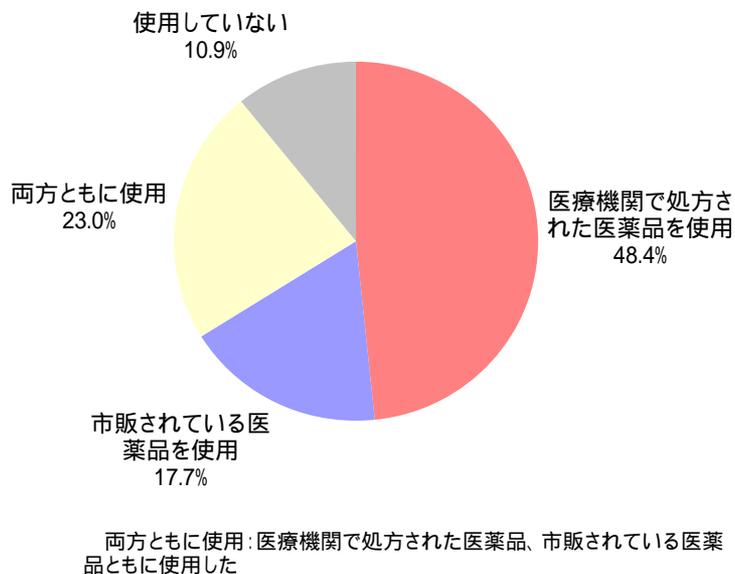
病院の種類 (N=4822)



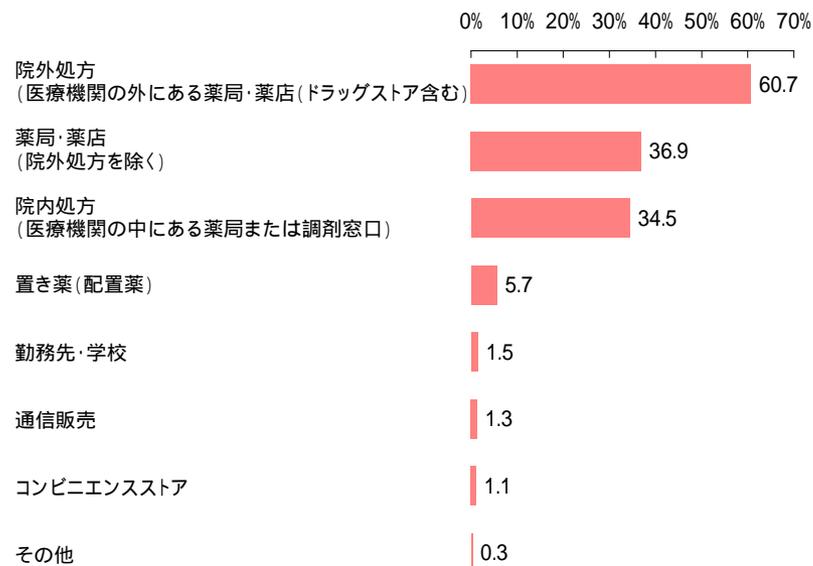
3. 結果の要約 - 医薬品の使用実態〔参照：18-20頁〕

- 医薬品の使用経験は、「処方された医薬品」使用48.4%、「市販されている医薬品」使用17.7%、「両方ともに使用」23.0%で、合計89.1%に上る。
- 医薬品使用者の医薬品の入手先は、「院外処方」60.7%が最も高く、「薬局・薬店」36.9%、「院内処方」34.5%と続く。

医薬品の使用経験(N=21000)



医薬品の入手先(N=18719)

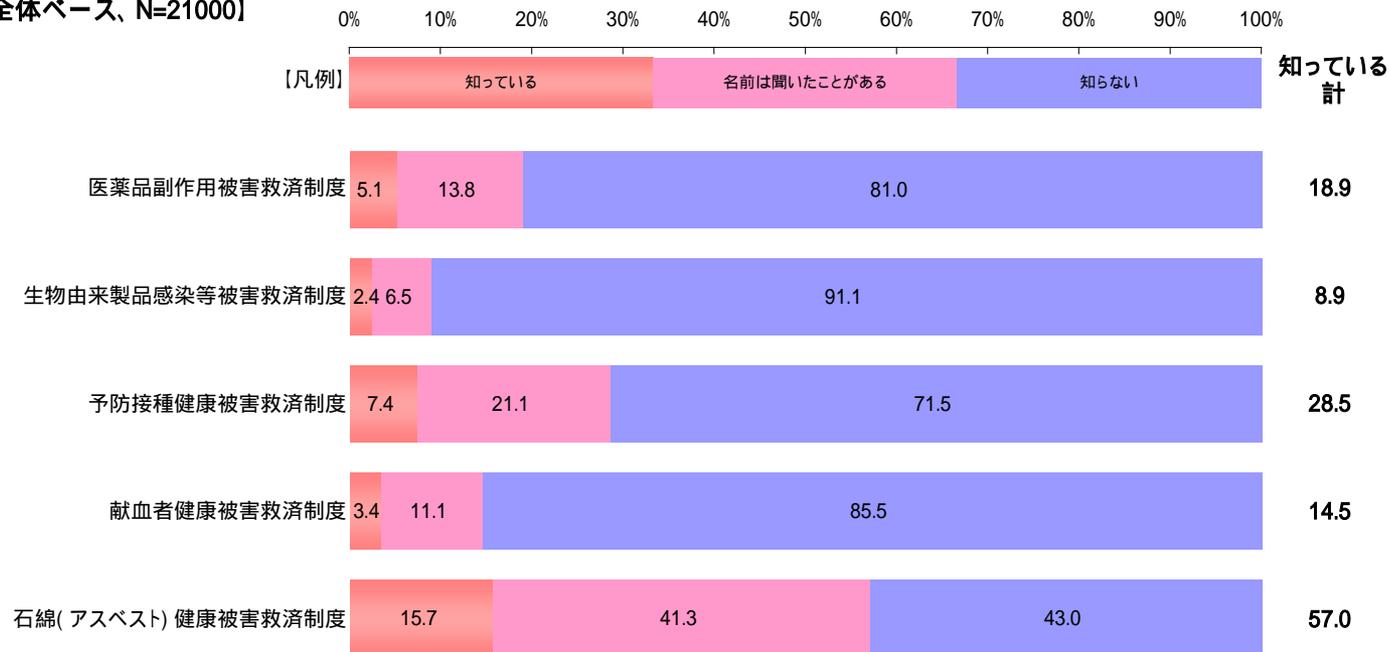


3. 結果の要約 - 健康被害救済制度の認知〔参照：21-28頁〕

健康被害救済制度の認知(知っている + 名前は聞いたことがある)は、「石綿健康被害救済制度」が57.0%と最も高く、「予防接種健康被害救済制度」28.5%、「医薬品副作用被害救済制度」18.9%と続く。

健康被害救済制度の認知(N=21000)

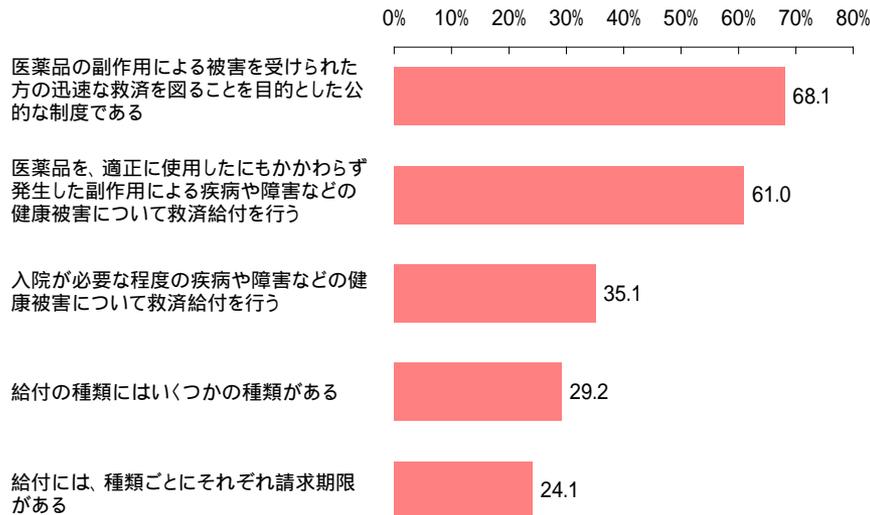
【全体ベース、N=21000】



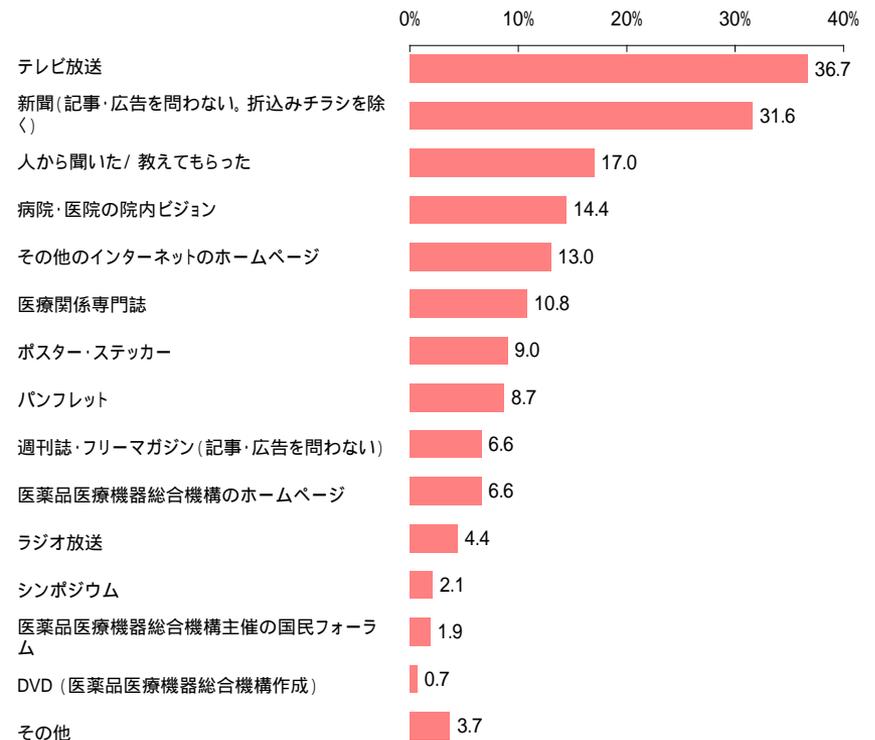
3. 結果の要約 - 医薬品副作用被害救済制度の内容理解 / 認知経路 [参照 : 29-41頁]

- 「医薬品副作用被害救済制度」認知者の制度内容に対する理解は、「公的な制度である」が68.1%と最も高く、「副作用による健康被害について救済給付する」61.0%と続く。
- 「医薬品副作用被害救済制度」の認知経路は、「テレビ放送」36.7%、「新聞」31.6%で、上位二つをマスメディアで占めている。3位は「人から聞いた」17.0%で、口コミによる認知も比較的高い。

内容理解 (知っている人ベース (N=3985))



認知経路 (知っている人ベース (N=3985))

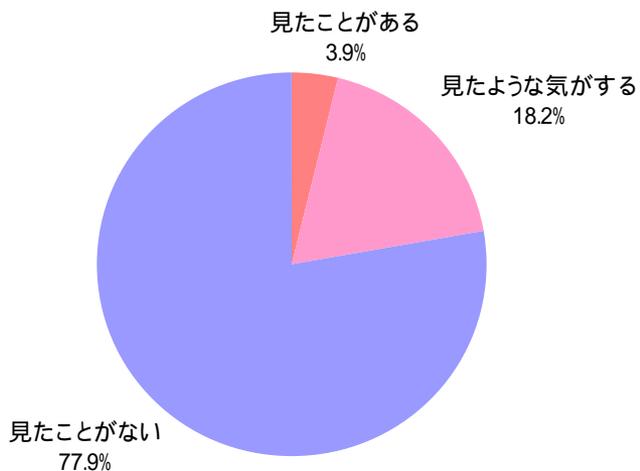


全体を降順にソート

3. 結果の要約 - 広告の認知 / その経路 [参照: 42-45頁]

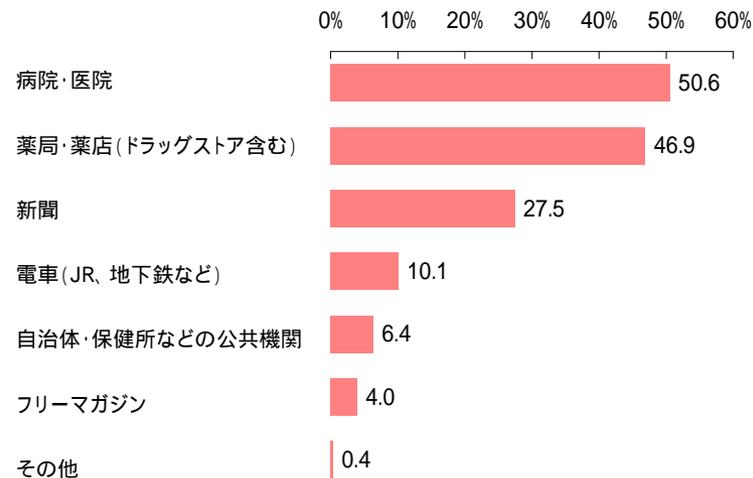
- 広告の認知者(見たことがある + 見たような気がする)は、22.1%である。
- 広告の認知経路は、「病院・医院」が50.6%と最も高く、「薬局・薬店」46.9%と続く。医療関係機関での認知が上位を占めている。

広告の認知(N=21000)



認知者: 22.1%

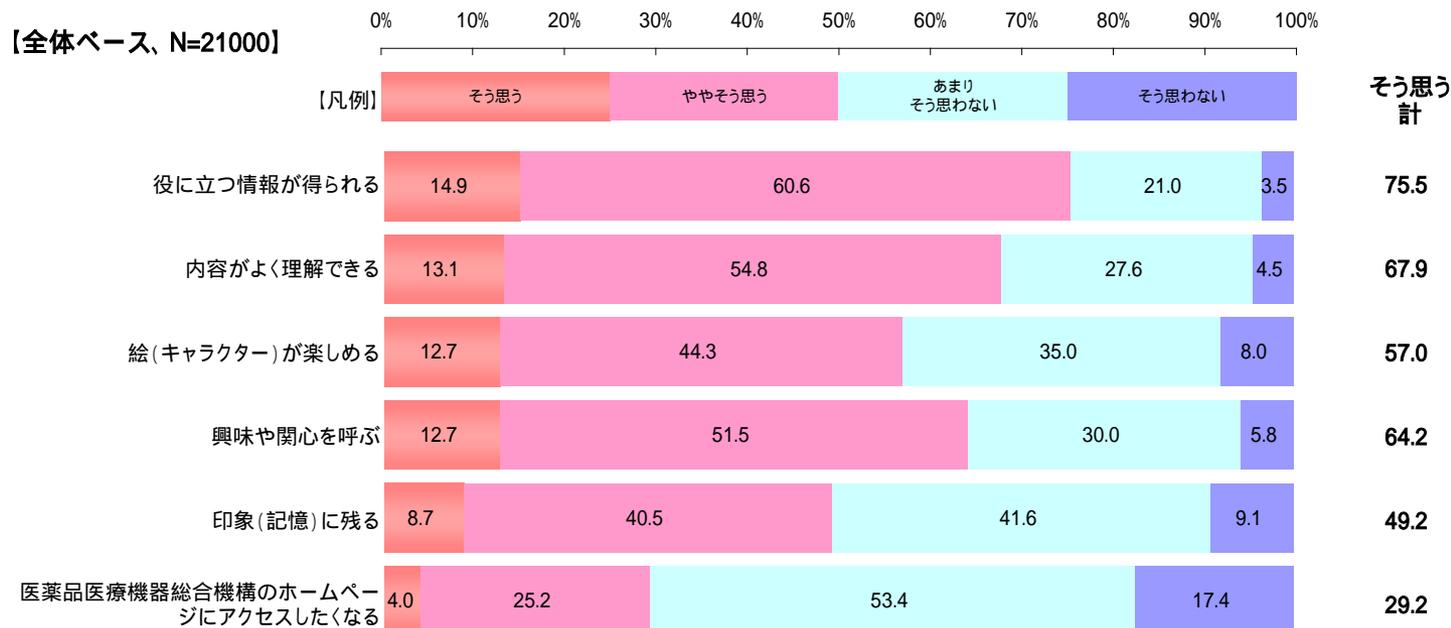
認知経路(N=4638)



3. 結果の要約 - 広告の印象 [参照: 46-47頁]

- 広告に対する評価は、高かった順に「役に立つ情報が得られる」75.5%、「内容がよく理解できる」67.9%、「興味や関心と呼ぶ」64.2%。
- 一方で、「印象(記憶)に残る」は49.2%、「医薬品医療機器総合機構のホームページにアクセスしたくなる」は29.2%だった。

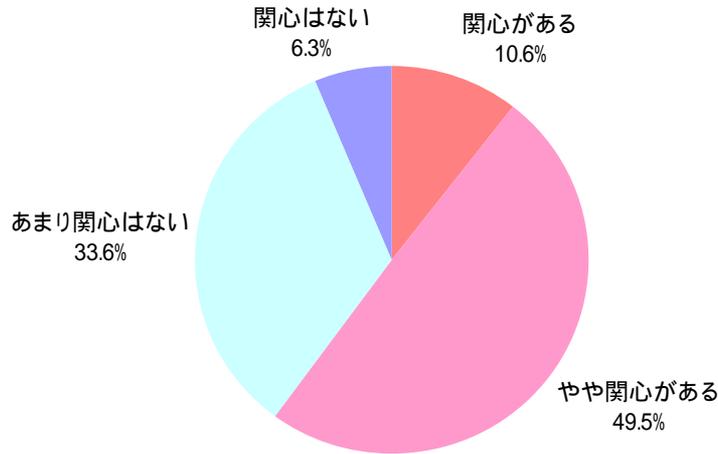
広告の印象(N=21000)



3. 結果の要約 - 医薬品副作用被害救済制度に対する関心 / 情報入手経路 [参照: 48-51頁]

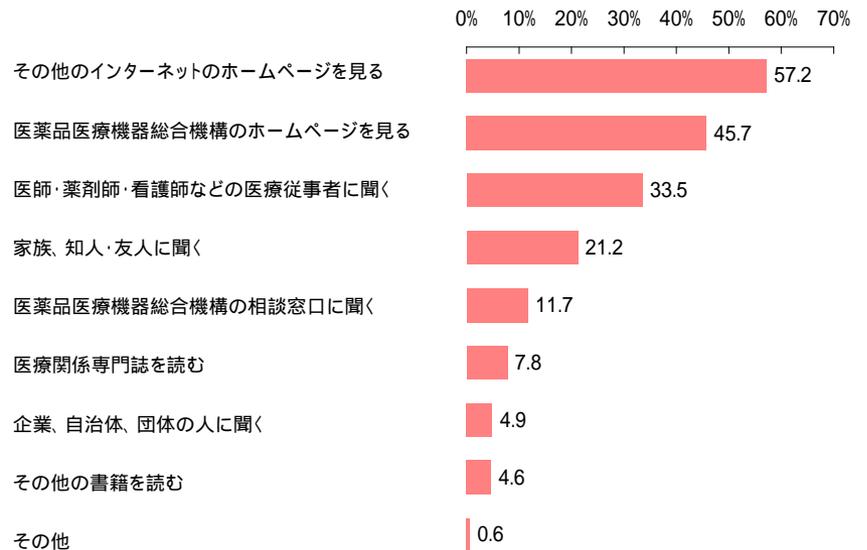
- 医薬品副作用被害救済制度に関心がある人(関心がある + やや関心がある)は、60.1%。
- 同制度の情報入手方法は、「(機構以外の)インターネットのホームページを見る」が57.2%と最も高く、「機構のホームページを見る」45.7%と続く。ネットからの入手傾向が高いが、「医師等に聞く」33.5%、「家族、知人に聞く」21.2%など、口コミによる入手もそれに続いている。

医薬品副作用被害救済制度に対する関心(N=21000)



関心ある人: 60.1%

情報入手経路(N=21000)

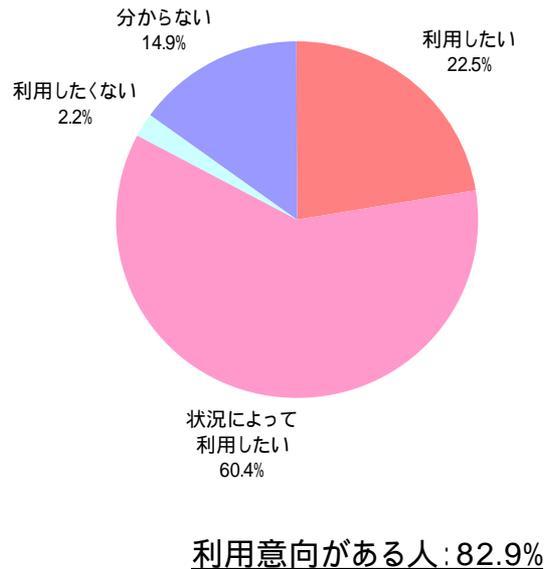


全体を降順にソート

3. 結果の要約 - 医薬品副作用被害救済制度の利用意向〔参照：59-61頁〕

- 医薬品副作用被害救済制度の利用意向者(利用したい+状況によって利用したい)は、82.9%。
- 医薬品副作用被害救済制度の利用意向者に対する利用意向理由は、副作用の程度次第による理由が最多である。

医薬品副作用被害救済制度の利用意向(N=21000)



利用意向者の理由(N=12685、自由回答)

性年代	利用意向理由(一部抜粋)	性年代	利用意向理由(一部抜粋)
20代 男性	あきらかに副作用と認められる症状が出た場合、このような制度があって利用しないのは損であるから。	40代 女性	その時になってみないとわからない
20代 男性	何かあったときには利用したい	40代 女性	医師が処方した薬品の副作用で医療費がかかるのは納得できないから。
20代 女性	あまり医薬品の副作用がどのようなものかというのがわからない	40代 女性	医薬品の知識がないから
20代 女性	いつ副作用が出るか分からないので	40代 女性	公的な制度の安心感
20代 女性	子供がいるので 何かあったときには利用したい	40代 女性	通院しているので、薬の副作用があった場合に利用したい
20代 女性	入院するほどの重篤な副作用が出たなら、利用したい。	40代 女性	入院するほどの副作用があれば是非利用したい。
30代 男性	その後の生活が困らないようにするため	50代 男性	このアンケートでこの情報を知って有効な対応策と判断できたから。
30代 男性	救済されるのであれば利用したい	50代 男性	ジェネリック医薬品がどんどん増えてくると思うが、機能や効果の面で不安がある。副作用が増えると思う。
30代 男性	個人負担が軽減されるので	50代 男性	救済制度はあってしかるべきと思う。
30代 男性	子供の予防接種などに利用できたらと思いましたが、詳しく知ると興味が沸きました	50代 男性	泣き寝入りしなくていいので利用したい。
30代 女性	副作用の重さによって、必要であれば利用したいと思う。	50代 男性	当然の権利だと思う
30代 女性	家族が副作用になったときに、ぜひ利用したい	50代 女性	あるべき制度は利用すべきだと思うので
30代 女性	あまりにひどく、実費が沢山かかるなら考えたい。	50代 女性	いろんな情報が手に入りそうなので。
30代 女性	ひどい副作用なら利用したい	50代 女性	せっかくある制度だからぜひ利用したい
30代 女性	ひどい副作用の時には助かる制度だと思ったから。	50代 女性	医療費が高いので
30代 女性	副作用によって金銭的に困る場合は頼りたい。	50代 女性	副作用についての正しい知識が、よくわかると思うから。
40代 男性	2ヶ所以上から処方を受けている時。	60代以上 男性	この制度はあって当然。今までなかったことが不思議である。
40代 男性	いざというときの保障があると助かるから。	60代以上 男性	どの様な症状が副作用なのか判らないから。
40代 男性	お金がかかりそうだから、救済されたい。	60代以上 男性	10年来の通院治療で、医薬品と切っても切れない繋がりがある為です。
40代 男性	経済的に助かるから	60代以上 男性	救済されるのであれば受けたい
40代 女性	症状がひどく(大変な場合は利用すると思う)	60代以上 男性	経済的負担の軽減のため
40代 女性	「医薬品副作用被害救済制度」というものを知らなかったの、よく理解した上で、自分が副作用にあった場合利用したいと思いました。	60代以上 男性	軽度の副作用であれば利用しないが、重度の場合は利用したい。
40代 女性	あまり手続きが難しければ 利用したくないが 簡単な手続きなら利用してみようかと	60代以上 男性	原因をつかむため
40代 女性	アレルギー体質で、いつ薬の副作用被害に合うかわからないから。	60代以上 男性	個人では処理できないときがあるから
40代 女性	いい制度だと思う	60代以上 男性	手続きが簡単であれば使用する
40代 女性	このような制度があることを知ったので、相談できる窓口として利用したい。	60代以上 女性	あまり薬を使用しないので状況に応じて対処したい

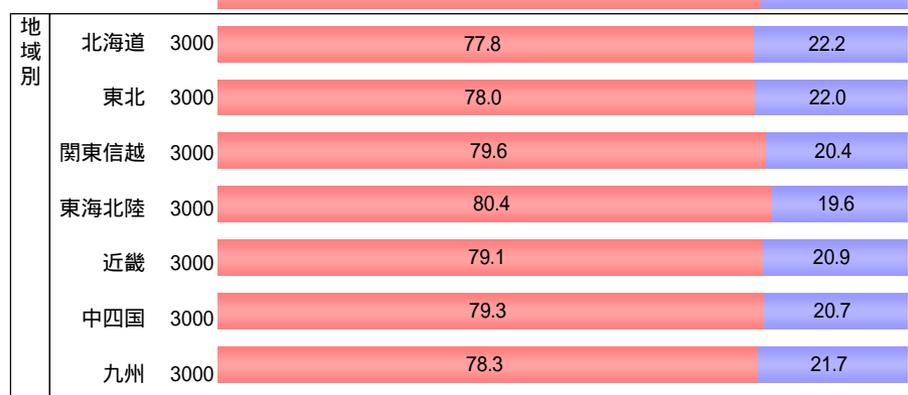
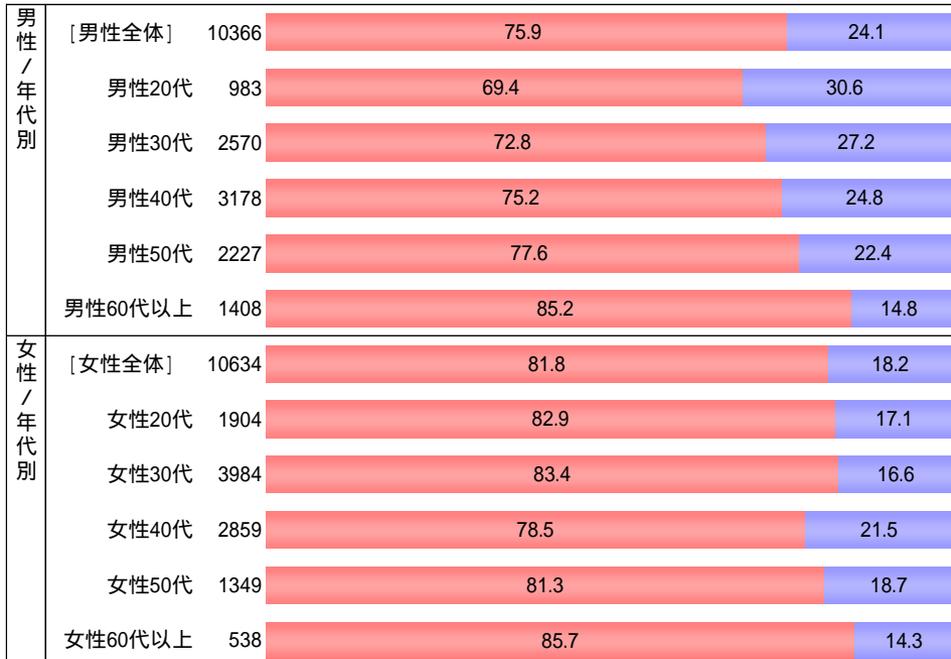
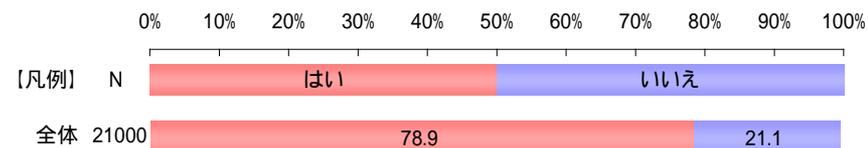
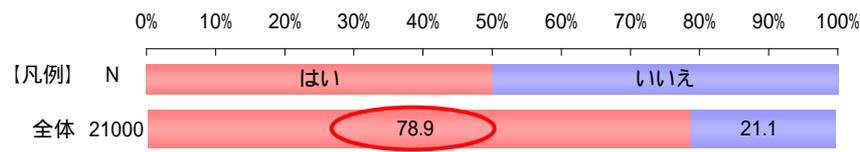
利用意向者: 利用したい+状況によって利用したい, N=12685

4. 調査結果

1. 医療機関への受診経験

- 過去1年以内の医療機関の受診経験者は78.9%である。
- 性別では、男性よりも女性のほうが受診経験が高い。最も受診経験が少ないのは「男性20代」69.4%、最も高いのは「女性60代以上」85.7%。
- 地域別では、いずれも大きな差が見られない。

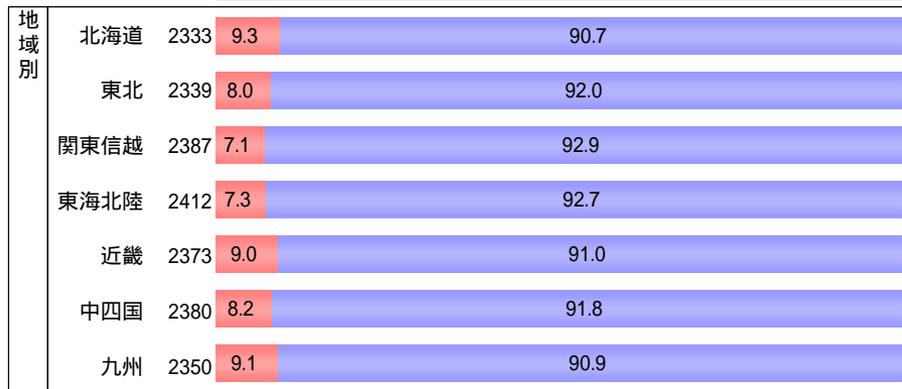
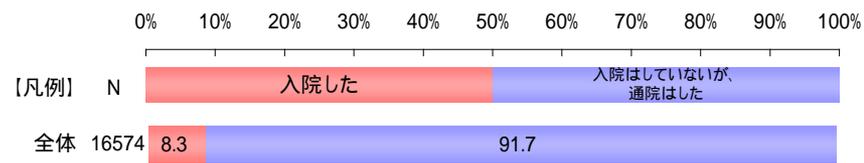
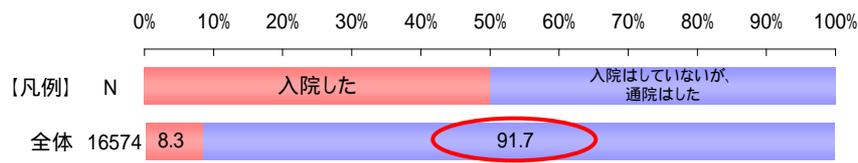
Q1 あなたは、過去1年以内に医療機関にかかりましたか。（単一回答）



1-1. (医療機関受診者) 利用形態

- 過去1年以内の医療機関の受診経験者のうち、「入院した」は8.3%、「通院した」は91.7%である。
- 性別では、女性のほうが男性に比べて入院経験者が1.1ポイント高い。性年代別では、入院経験者が多いのは、「男性60代以上」12.5%、「女性20代」12.3%。少ないのは、「男性30代」5.7%、「女性50代」4.6%。
- 地域別では、いずれも大きな差が見られない。

Q2 あなたは、過去1年以内に医療機関をどのように利用（入院・通院）しましたか。（単一回答）

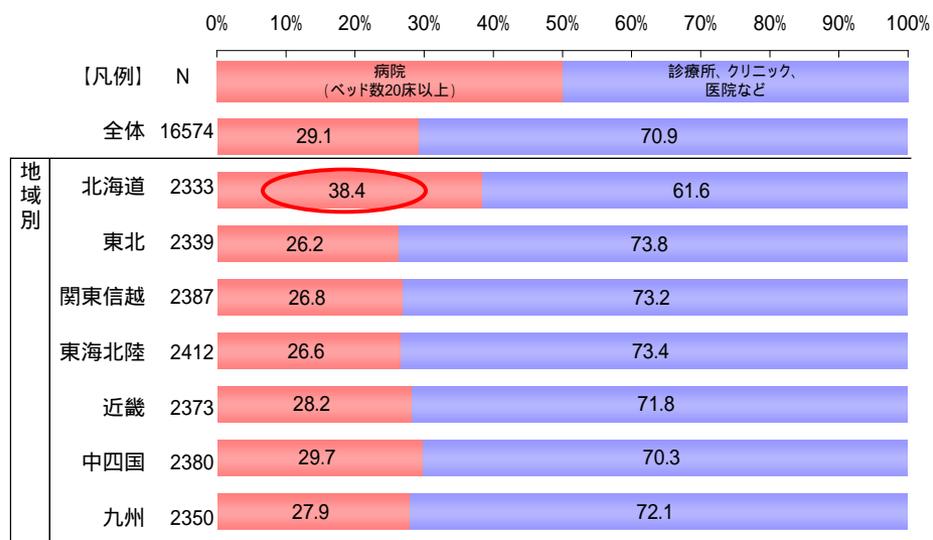
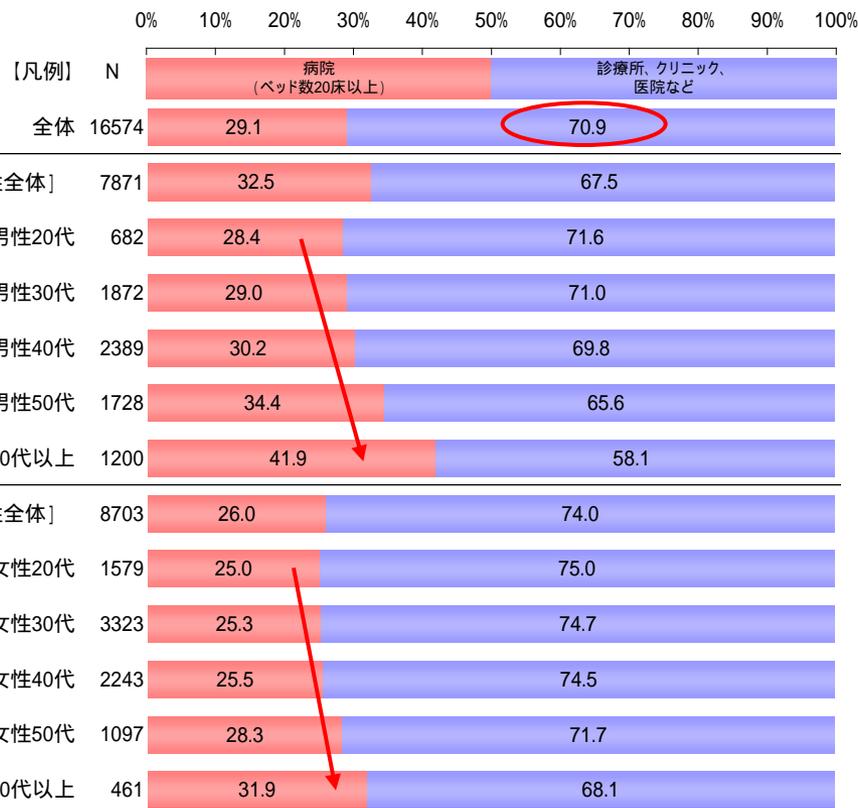


1-2. (医療機関受診者) 利用した医療機関の規模

過去1年以内に利用した医療機関の規模は、「診療所、クリニック、医院など」が70.9%、「病院」が29.1%。

- 性別では、男性のほうが女性に比べ「病院」利用者が6.5ポイント高い。性年代別では、男女ともに年代が上がるにつれ「病院」利用者が増加する傾向にある。
- 地域別では、「北海道」で「病院」利用者が高い(38.4%)。他の地域は、いずれも大きな差が見られない。

Q3 あなたは、過去1年以内にどのような規模の医療機関をもっとも多く利用しましたか。医療機関をもっとも多く利用とは、利用頻度をもっとも多いことを指します。(単一回答)



1-3. (医療機関受診者) 過去1年以内に最も多く利用した病院

- 過去1年以内に最も多く利用した病院の種類は、「その他」(47.2%)を除くと、「自治体病院」23.8%、「大学病院」13.2%が、比較的高い。
- 性別では、男性のほうが女性に比べ「その他」の利用者が7.2ポイント高い。性年代別では、男女ともに「20代」の「自治体病院」の利用者が30%超と高い。また、「男性20代」の「国立病院」利用者が12.9%と高い。
- 地域別では、「北海道」で「その他」利用者が高く(52.7%)、関東信越で「大学病院」利用者が高い(24.9%)傾向にある。

Q4 あなたが、過去1年以内にもっとも多く利用された病院はどこですか。(単一回答)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

【凡例】 N 国立病院 大学病院 自治体病院 日本赤十字社 済生会 厚生連 その他

全体 4822 5.8 13.2 23.8 4.3 5.8 4.5 42.7

男性
/
年代別

[男性全体] 2556 5.1 11.9 22.1 3.7 6.4 4.8 46.1

男性20代 194 12.9 14.9 32.5 2.8 6.2 3.0 32.0

男性30代 542 4.2 10.3 23.6 3.9 7.4 4.6 45.9

男性40代 722 4.7 11.8 21.7 3.7 6.6 5.7 45.7

男性50代 595 3.5 12.1 20.0 3.7 6.6 5.4 48.7

男性60代以上 503 5.6 12.1 19.3 4.0 5.8 4.2 49.1

女性
/
年代別

[女性全体] 2266 6.5 14.7 25.8 4.9 5.1 4.2 38.9

女性20代 395 8.4 16.7 31.1 3.5 4.3 3.0 33.2

女性30代 842 6.8 14.3 26.5 5.6 4.4 4.3 38.2

女性40代 572 5.4 15.6 23.6 4.5 5.9 4.4 40.6

女性50代 310 5.5 12.3 21.6 5.2 6.5 4.5 44.5

女性60代以上 147 6.1 12.9 24.5 5.4 5.4 6.1 39.5

3ポイント未満は非表示

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

【凡例】 N 国立病院 大学病院 自治体病院 日本赤十字社 済生会 厚生連 その他

全体 4822 5.8 13.2 23.8 4.3 5.8 4.5 42.7

地域別

北海道 897 4.7 8.4 20.0 3.9 2.7 7.7 52.7

東北 613 4.7 13.9 30.7 4.7 5.2 7.7 33.1

関東信越 639 6.3 24.9 18.5 3.1 5.9 2.8 38.5

東海北陸 641 5.8 12.2 31.8 3.6 4.1 6.7 35.9

近畿 669 5.1 12.7 26.8 4.2 9.6 1.0 40.7

中四国 708 8.1 9.9 23.6 6.6 7.2 2.7 41.9

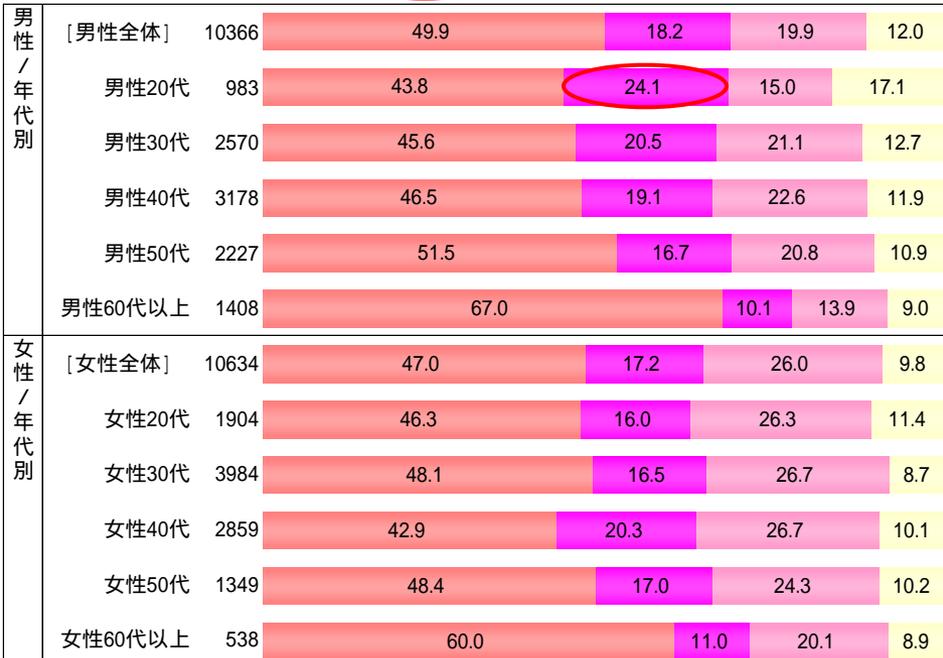
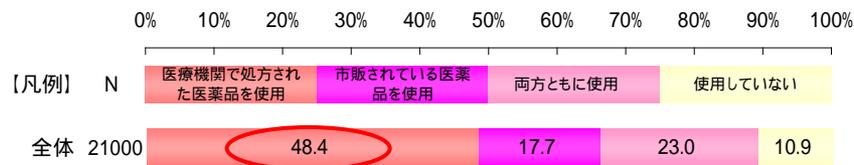
九州 655 6.0 12.7 17.3 3.5 6.6 2.4 51.6

3ポイント未満は非表示

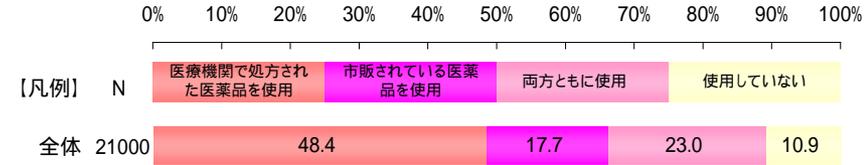
2. 医薬品の使用経験

- 過去1年以内の医薬品の使用経験は、「処方された医薬品を使用」が48.4%と最も高く、「処方された医薬品、市販されている医薬品ともに使用」23.0%、「市販されている医薬品を使用」17.7%を加えると、89.1%に上る。
- 性別では、女性のほうが男性に比べ「医薬品の使用」(処方+市販+双方)が2.2ポイント高い。性年代別では、男女ともに「60代以上」が「処方された医薬品」の使用が高く(60%超)、「男性20代」は「市販されている医薬品」の使用が高い(24.1%)。
- 地域別では、いずれも大きな差は見られないが、東海北陸以西では若干「処方された医薬品」の使用が他地域に比べて高い。一方、北海道、東北で若干「市販されている医薬品」の使用が他地域に比べて高い。

Q5 あなたは、過去1年以内に医薬品(薬)を使用しましたか。(単一回答)



両方ともに使用: 医療機関で処方された医薬品、市販されている医薬品ともに使用した

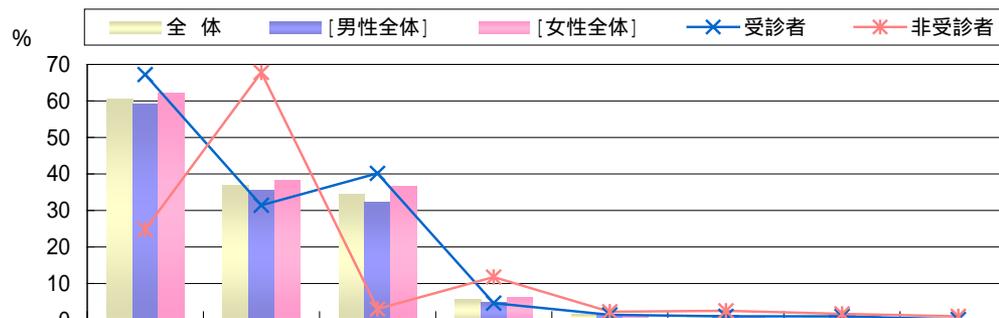


両方ともに使用: 医療機関で処方された医薬品、市販されている医薬品ともに使用した

3. 医薬品の入手先

- 医薬品の入手先は、「院外処方」が60.7%と最も高く、「薬局・薬店」36.9%、「院内処方」34.5%と続く。
- 性年代別では、「院外処方」「薬局・薬店」「院内処方」の中で最もポイントの高かったのは「男性60代以上」「女性30代以上」の「院外処方」63.5%。男女ともに「60代以上」の「薬局・売店」のポイントは20%台と低い。
- 受診者別にみると、受診者のうちでは「院外処方」が67.2%と高く、一方で非受診者のうちでは「薬局・薬店」が67.8%と高い。

Q6 あなたは、その医薬品をどこで購入（入手）しましたか。あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答）



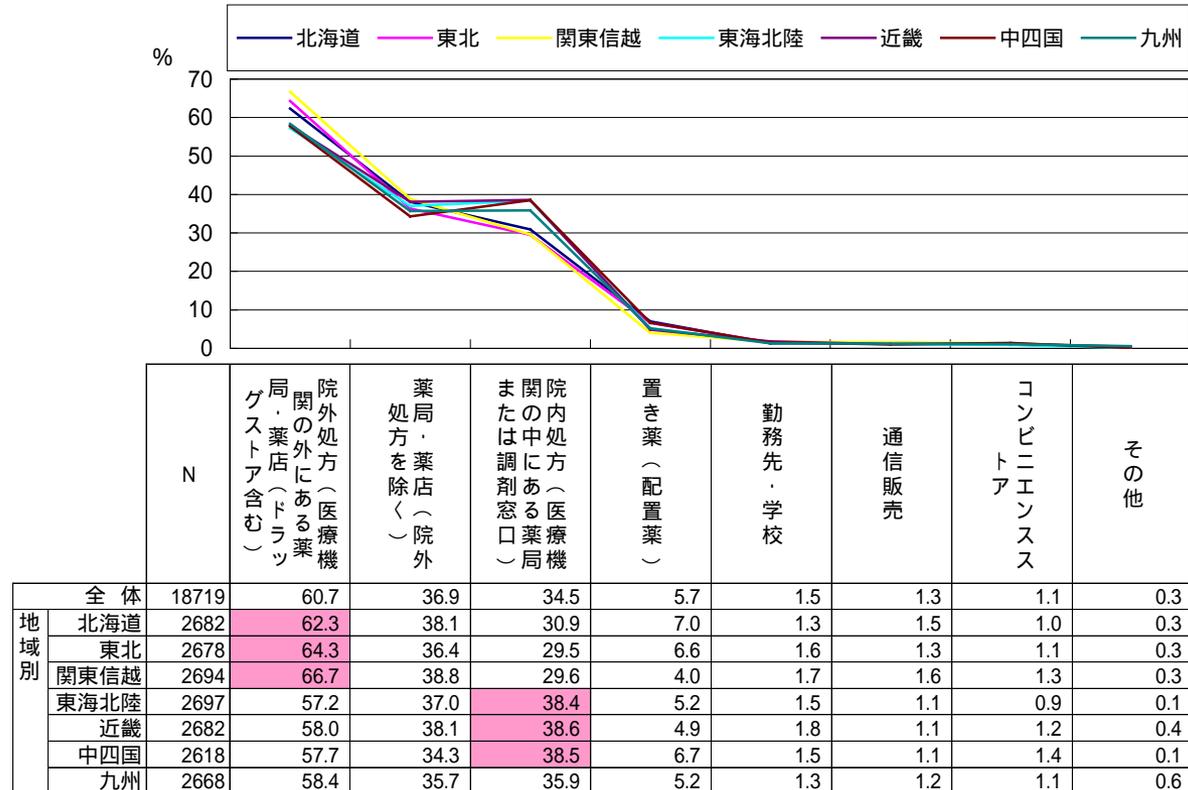
	N	院外処方 (薬局・薬店 グストア含む)	院外処方 (医療機 関の外にある薬 局・薬店を除く)	院内処方 (医療機 関の中にある薬 局)	置き薬 (配置薬)	勤務先・学校	通信販売	コンビニエ ンス ストア	その他
全体	18719	60.7	36.9	34.5	5.7	1.5	1.3	1.1	0.3
男性	[男性全体] 9125	59.2	35.6	32.3	5.0	1.7	1.4	1.3	0.2
男性 / 年代別	男性20代 815	48.2	39.1	36.4	5.0	1.6	1.2	2.6	0.1
男性30代 2244	57.5	40.1	32.6	5.7	2.6	1.4	1.8	0.3	
男性40代 2801	61.2	38.4	30.0	5.6	2.1	1.9	1.0	0.2	
男性50代 1984	60.2	33.4	31.6	4.5	1.3	1.2	1.0	0.3	
男性60代以上 1281	63.5	23.0	35.2	3.0	0.2	0.7	0.8	0.3	
女性	[女性全体] 9594	62.1	38.2	36.6	6.3	1.3	1.2	1.0	0.3
女性 / 年代別	女性20代 1686	58.2	40.8	44.2	7.0	2.4	1.3	1.5	0.5
女性30代 3637	63.5	38.0	37.1	5.7	1.5	1.1	0.9	0.2	
女性40代 2570	61.9	41.1	32.6	7.6	1.0	1.3	0.8	0.4	
女性50代 1211	63.1	34.2	32.8	5.6	0.5	1.2	1.0	0.6	
女性60代以上 490	63.3	24.9	36.3	3.9	0.0	0.6	1.0	0.4	
受診者	15853	67.2	31.4	40.2	4.6	1.4	1.0	1.0	0.2
非受診者	2866	24.8	67.8	3.0	11.8	2.3	2.5	1.7	1.0

全体を降順にソート

3. 医薬品の入手先

④ 地域別にみると、いずれに地域においても、「院外処方」では北海道から関東信越で6割超と高い傾向である。「院内処方」については東海北陸から中四国にかけての各地域で4割近くと高い傾向である。

Q6 あなたは、その医薬品をどこで購入（入手）しましたか。あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答）



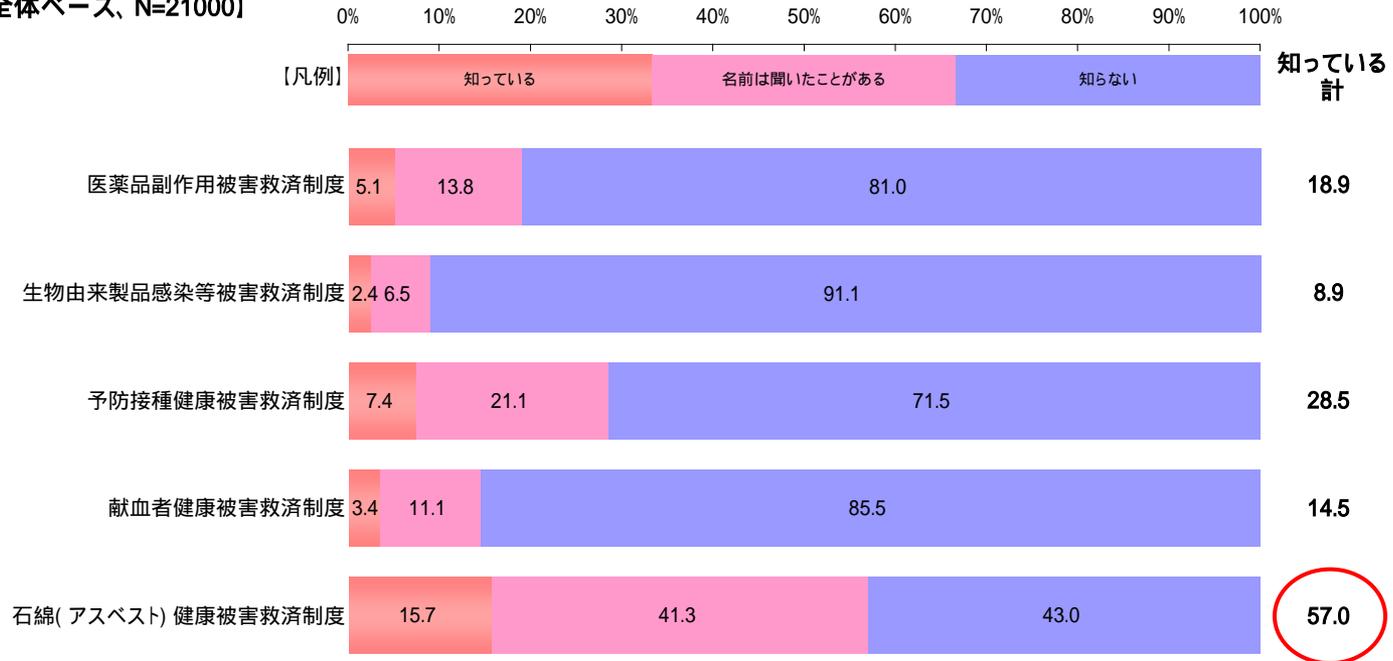
全体を降順にソート

4. 健康被害救済制度の認知（全体ベース）

健康被害救済制度の認知（知っている + 名前は聞いたことがある）は、「石綿健康被害救済制度」が57.0%と最も高く、「予防接種健康被害救済制度」28.5%、「医薬品副作用被害救済制度」19.0%と続く。

Q7-1 あなたは、下記に挙げた健康被害救済制度をご存じですか。（単一回答）

【全体ベース、N=21000】

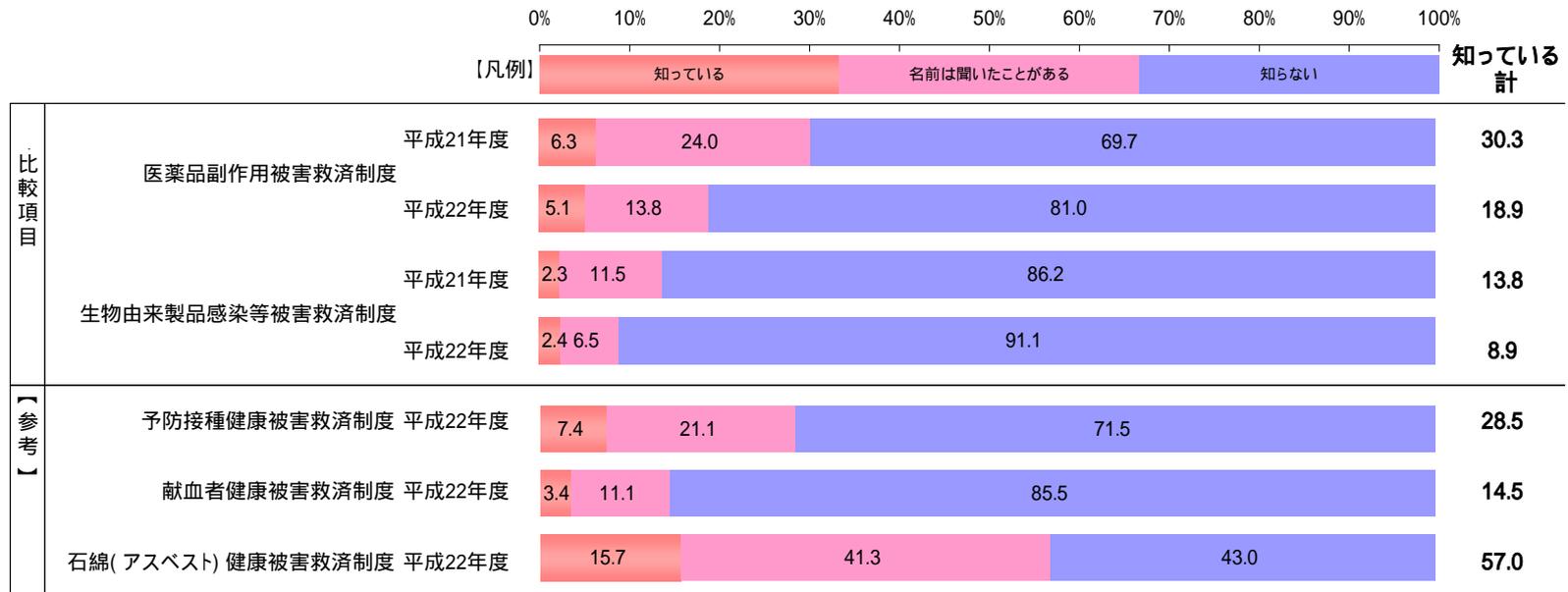


4. 健康被害救済制度の認知（全体ベース）

- 21年度との比較でみると、医薬品副作用被害救済制度においては(知っている人+名前は聞いたことがある)人が21年度調査で30.3%と高い。
- なお、22年度調査においては健康被害救済制度に関する諸制度の項目が「医薬品副作用被害救済制度」の他、4項目に対する認知度を採用したのに対して、21年度調査では「生物由来製品感染等被害救済制度」のみの調査項目であったため、同制度以外の健康被害がすべて医薬品副作用被害救済制度に反映された回答結果であることがうかがえる。

Q7-1 あなたは、下記に挙げた健康被害救済制度をご存じですか。（単一回答）

【全体ベース、平成21年度：N=3119、平成22年度：N=21000】

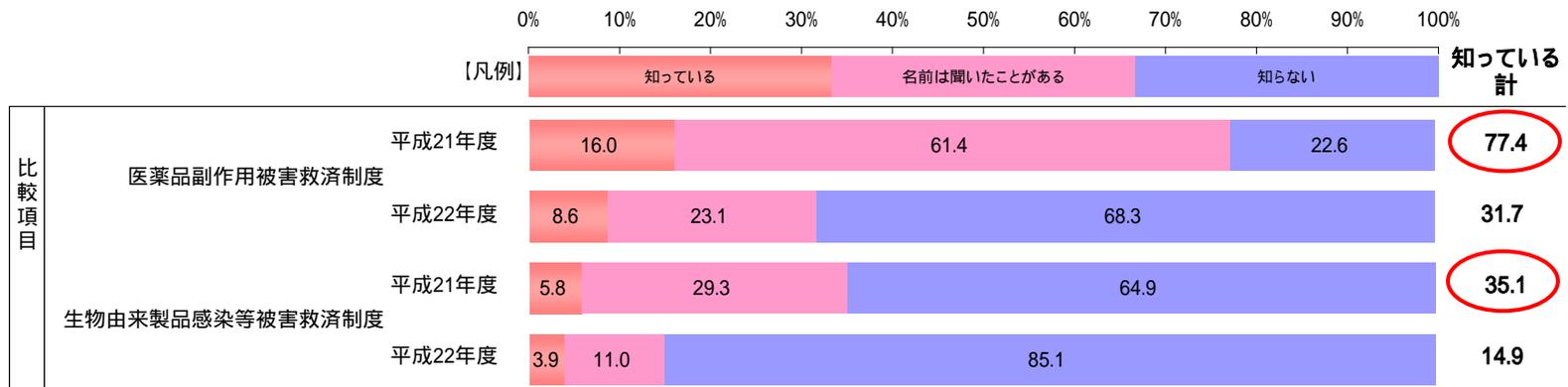


4. 健康被害救済制度の認知（認知者ベース）

- 健康被害救済制度の認知者ベースでみると、いずれの制度も21年度調査で高い傾向にある。
- 医薬品副作用被害救済制度では、(知っている + 名前は聞いたことがある)人が21年度調査でと77.4%と高い。また、知らない人の割合が22年度調査は21年度比で3倍超の差である。

Q7-1 あなたは、下記に挙げた健康被害救済制度をご存じですか。（単一回答）

【健康被害救済制度の認知者ベース、平成21年度：N=1221、平成22年度：N=1257】

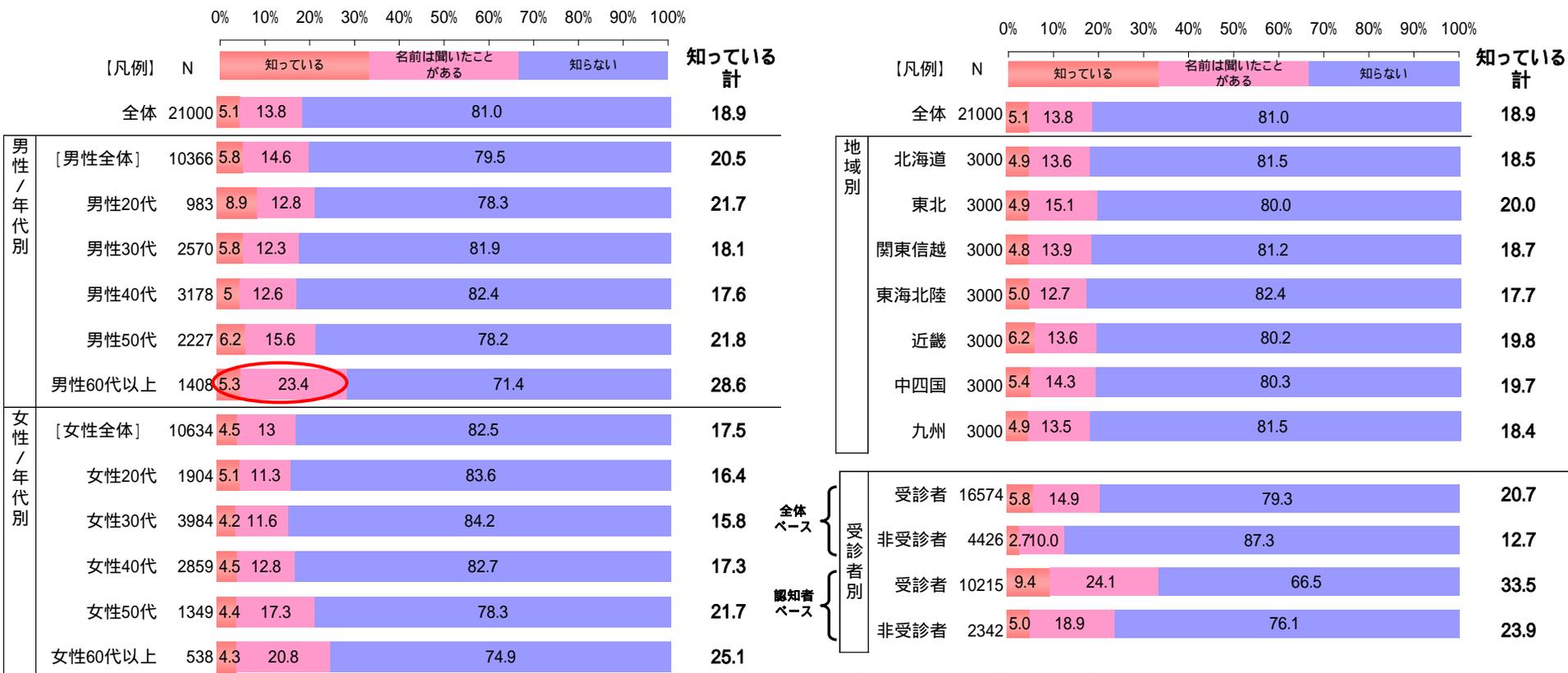


制度認知者ベースとは、平成22年度調査の対象者数は、調査対象者21000人のうち各救済制度を1つでも「知っている」または「名前は聞いたことがある」人の総数に当たる。（以下頁、同）

4-1. 医薬品副作用被害救済制度の認知

- 医薬品副作用被害救済制度の認知は、「知っている」5.1%、「名前は聞いたことがある」13.8%で、合わせて18.9%である。
- 性別では、男性のほうが女性に比べて認知率(知っている + 名前は聞いたことがある)が3ポイント高い。
- 性年代別では、男女ともに「60代以上」の認知率(知っている + 名前は聞いたことがある)が25%超と高い。确实認知(知っている)が最も高いのは「男性20代」の8.9%。
- 地域別では、大きな差は見られないが、東北の認知率(知っている + 名前は聞いたことがある)が20.0%と最も高く、東海北陸の17.6%が最も低い。
- 受診者別にみると、全体ベースで受診者の認知率(知っている + 名前は聞いたことがある)20.7%に対し、非受診者は12.7%。認知者ベースで受診者は33.5%。

Q7-1 あなたは、下記に挙げた健康被害救済制度をご存じですか。【医薬品副作用被害救済制度】（単一回答）

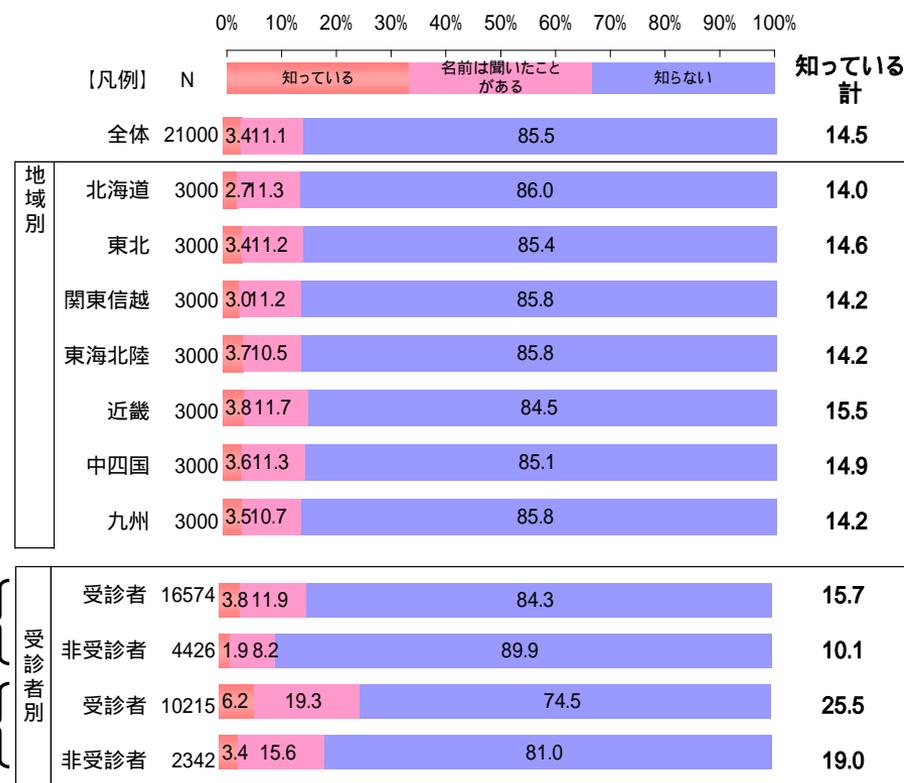
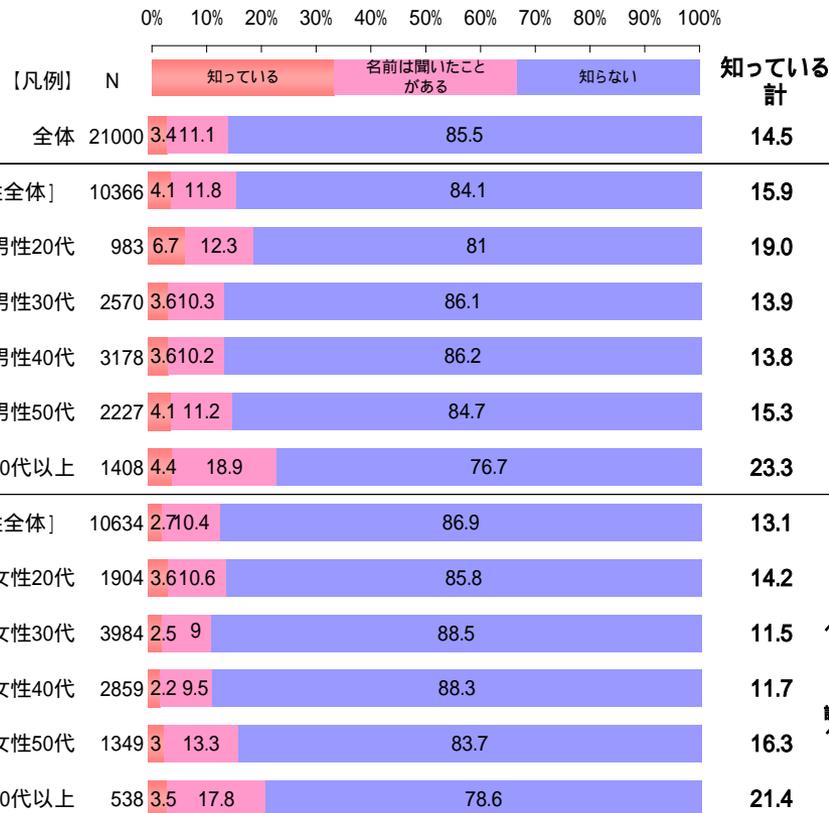


認知者ベースとは、平成22年度調査の全体21000人のうち各救済制度を1つでも「知っている」または「名前は聞いたことがある」人の総数に当たる。(以下頁、同)

4-2. 献血者健康被害救済制度の認知

- 献血者健康被害救済制度の認知は、「知っている」3.4%、「名前は聞いたことがある」11.1%で、合わせて14.5%である。
- 性別では、男性のほうが女性に比べて認知率(知っている + 名前は聞いたことがある)が2.8ポイント高い。
- 性年代別では、男女ともに「60代以上」の認知率(知っている + 名前は聞いたことがある)が20%超と高い。确实認知(知っている)が最も高いのは「男性20代」の6.7%。
- 地域別では、大きな差が見られないが、近畿の認知率(知っている + 名前は聞いたことがある)が15.5%と最も高く、北海道の14.0%が最も低い。
- 受診者別では、全体ベースで受診者の認知率(知っている + 名前は聞いたことがある)15.7%に対し、非受診者は10.1%。認知者ベースで受診者は25.5%。

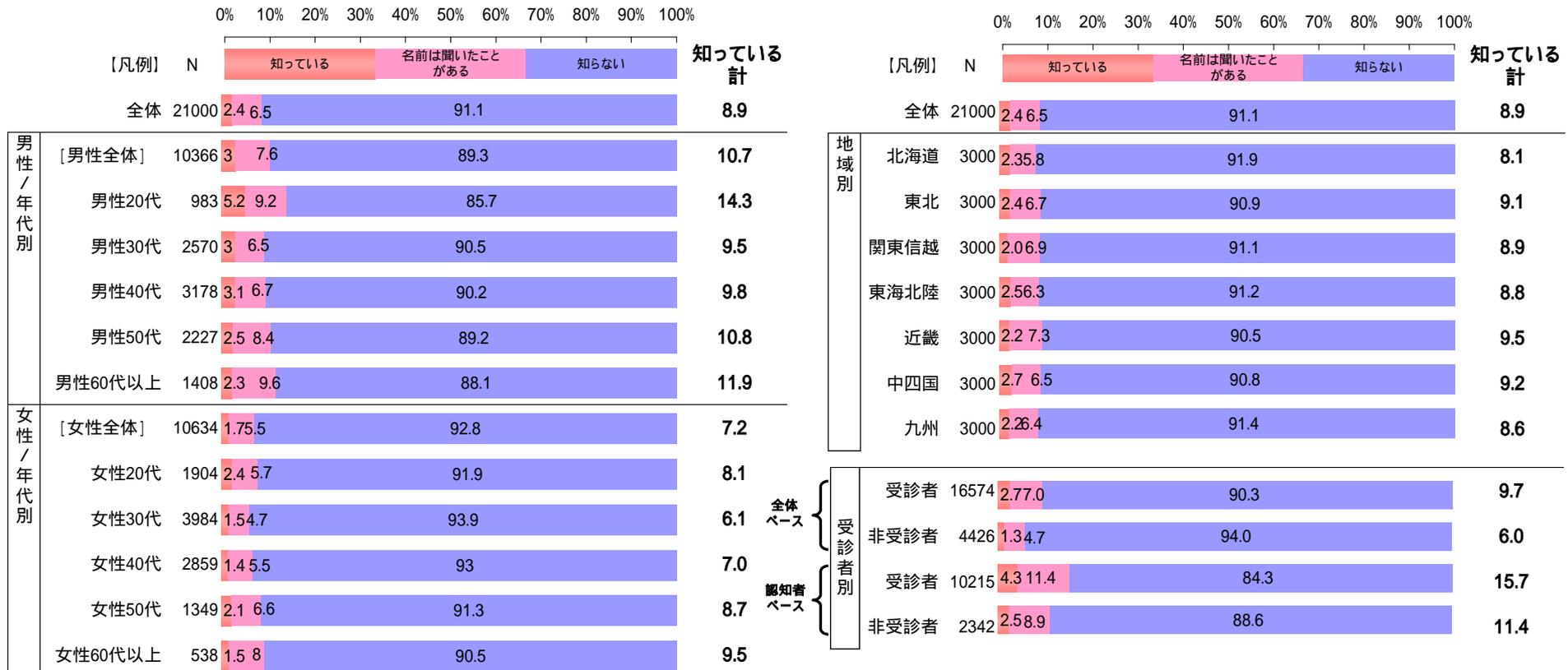
Q7-2 あなたは、下記に挙げた健康被害救済制度をご存じですか。【献血者健康被害救済制度】(単一回答)



4-3. 生物由来製品感染等被害救済制度の認知

- 生物由来製品感染等被害救済制度の認知は、「知っている」2.4%、「名前は聞いたことがある」6.5%で、合わせて8.9%である。
- 性別では、男性のほうが女性に比べて認知率(知っている + 名前は聞いたことがある)が3.5ポイント高い。
- 性年代別では、「男性20代」が14.3%と最も高く、「男性50代」10.8%、「男性60代以上」11.9%と続く。确实認知(知っている)が最も高いのは「男性20代」の5.2%。
- 地域別では、大きな差が見られないが、近畿の認知率(知っている + 名前は聞いたことがある)が9.5%と最も高く、北海道の8.1%が最も低い。
- 受診者別では、全体ベースで受診者の認知率(知っている + 名前は聞いたことがある)9.7%に対し、非受診者は6.0%。認知者ベースでは受診者は15.7%。

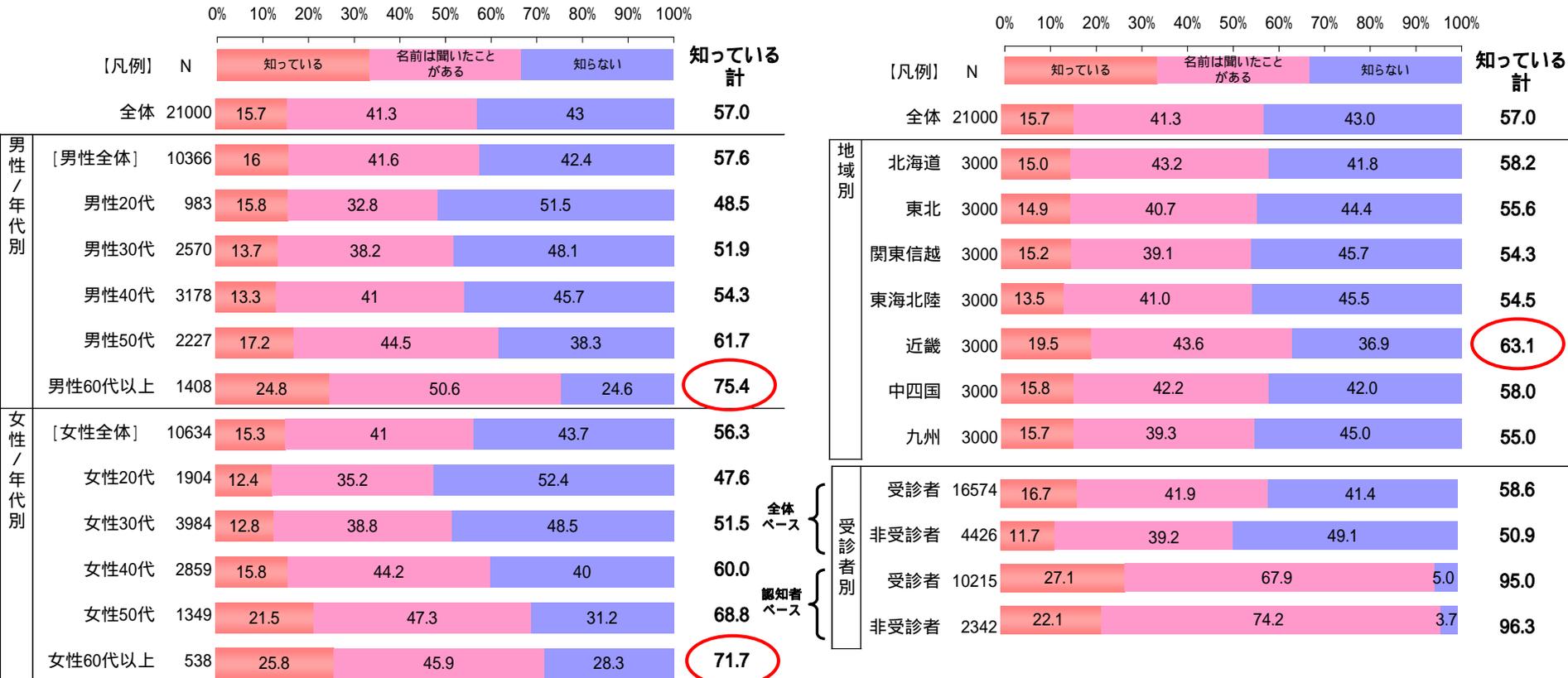
Q7-3 あなたは、下記に挙げた健康被害救済制度をご存じですか【生物由来製品感染等被害救済制度】（単一回答）



4-4. 石綿(アスベスト)健康被害救済制度の認知

- 石綿(アスベスト)健康被害救済制度の認知は、「知っている」15.7%、「名前は聞いたことがある」41.3%で、合わせて57%である。
- 性別では、男性のほうが女性に比べて認知率(知っている + 名前は聞いたことがある)が1.3ポイント高い。
- 性年代別では、男女ともに「60代以上」の認知率(知っている + 名前は聞いたことがある)が70%超と高い。一方、男女ともに「20代」の認知率はいずれも40%台と低い。
- 地域別では、近畿の認知率(知っている + 名前は聞いたことがある)が63.1%と最も高く、関東信越の54.3%が最も低い。
- 受診者別では、全体ベースで受診者の認知率(知っている + 名前は聞いたことがある)58.6%に対し、非受診者は50.9%。認知者ベースで受診者は95.0%、非受診者は96.3%

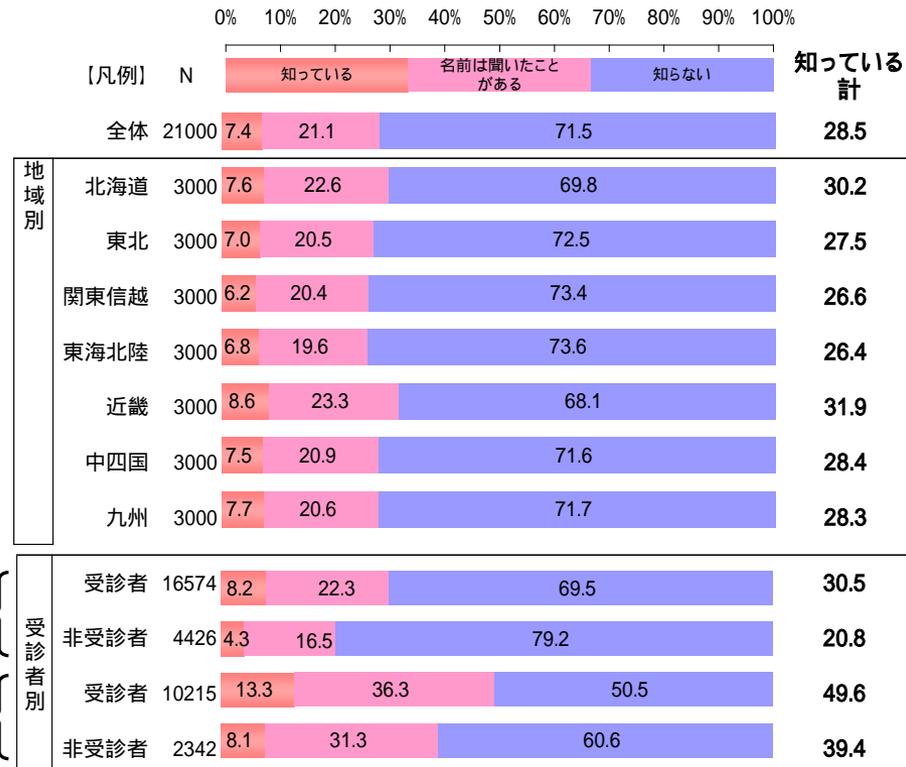
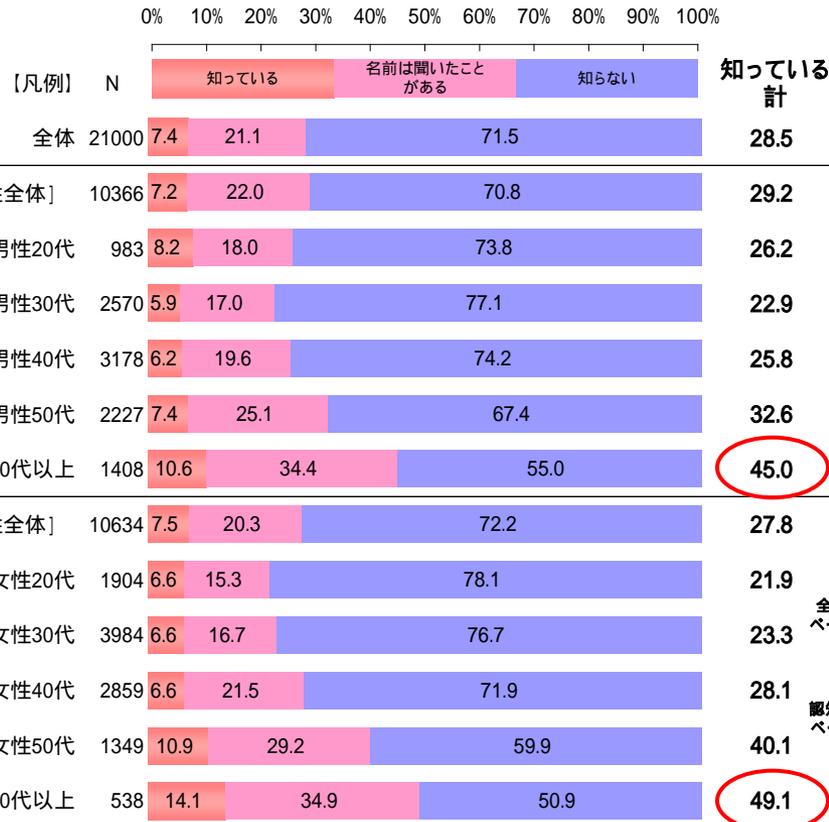
Q7-4 あなたは、下記に挙げた健康被害救済制度をご存じですか。【石綿(アスベスト)健康被害救済制度】(単一回答)



4-5. 予防接種健康被害救済制度の認知

- 予防接種健康被害救済制度の認知は、「知っている」7.4%、「名前は聞いたことがある」21.1%、合わせて28.5%である。
- 性別では、男性のほうが女性に比べて認知率(知っている + 名前は聞いたことがある)が1.4ポイント高い。
- 性年代別では、男性「60代以上」女性「50代以上」の認知率(知っている + 名前は聞いたことがある)が40%超と高い。一方、最も低いのは「女性20代」の21.9%。
- 地域別では、近畿の認知率(知っている + 名前は聞いたことがある)が31.9%と最も高く、東海北陸の26.4%が最も低い。
- 受診者別では、全体ベースでは受診者の認知率(知っている + 名前は聞いたことがある)30.5%に対し、非受診者は20.8%。認知者ベースでは受診者は49.6%、非受診者は39.4%。

Q7-5 あなたは、下記に挙げた健康被害救済制度をご存じですか。【予防接種健康被害救済制度】（単一回答）

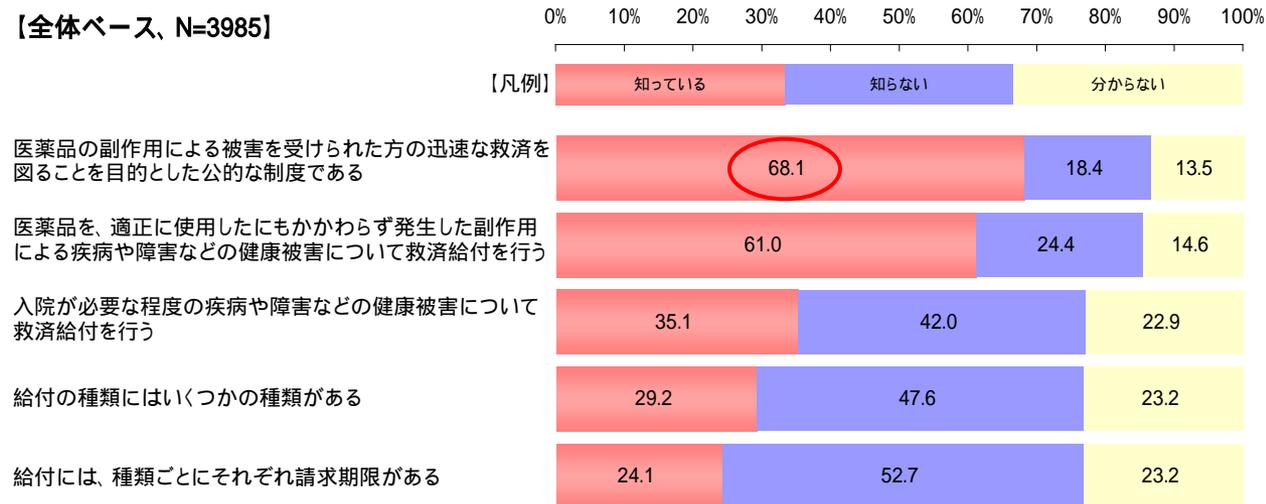


5. 医薬品副作用被害救済制度の内容理解（全体ベース）

- 「医薬品副作用被害救済制度」認知者の制度内容に対する理解は、「公的な制度である」が68.1%と最も高く、「副作用による健康被害について救済給付する」61.0%と続く。
- 一方、「給付の種類がある」「請求期限がある」の認知はともに20%台と、他項目に比べ低い。

【「医薬品副作用被害救済制度」を「知っている」「名前を聞いたことがある」の回答者のみ】
 Q8 「医薬品副作用被害救済制度」について、以下それぞれにあてはまるものをひとつお選びください。（単一回答）

【全体ベース、N=3985】

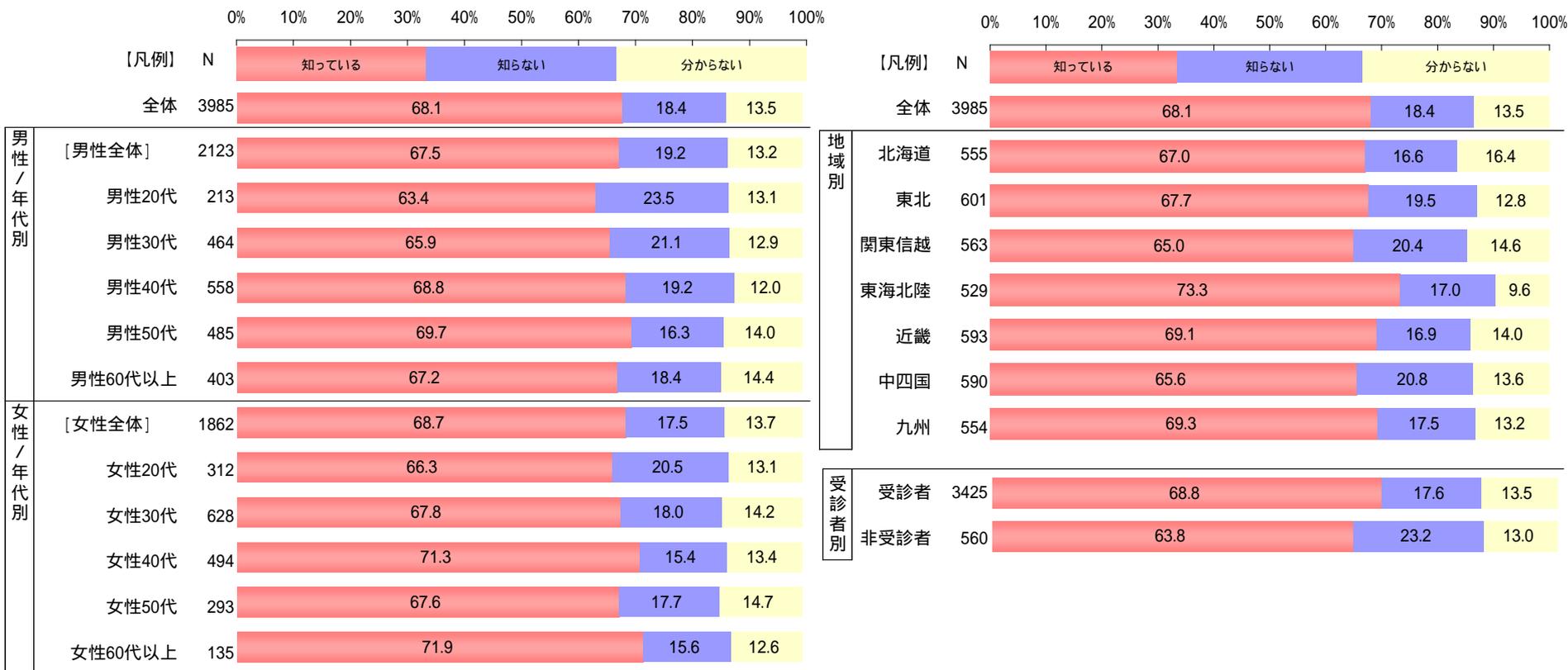


5. 医薬品副作用被害救済制度の内容理解（内容項目別）

- 『公的な制度』について、知っている人は68.1%である。
- 性別では女性のほうが男性に比べて1.2ポイント差で高い。性年代別では「女性60代以上」が71.9%と最も高い。
- 地域別では、「東海北陸」73.3%が最も高い。

【「医薬品副作用被害救済制度」を「知っている」「名前を聞いたことがある」の回答者のみ】
 Q8 「医薬品副作用被害救済制度」について、以下それぞれにあてはまるものをひとつお選びください。（単一回答）

医薬品の副作用による被害を受けた方の迅速な救済を図ることを目的とした公的な制度である



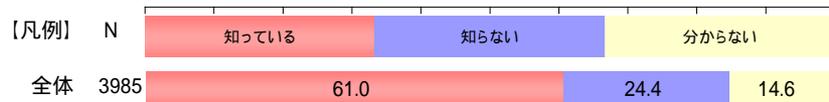
5. 医薬品副作用被害救済制度の内容理解（内容項目別）

- 『副作用による健康被害救済給付を行う』について、知っている人は61.0%である。
- 性別では、男性のほうが1.2ポイント差で高い。性年代別では、「男性50代」が64.3%と最も高い。
- 地域別では、「九州」63.7%と最も高い。

【「医薬品副作用被害救済制度」を「知っている」「名前を聞いたことがある」の回答者のみ】
 Q8 「医薬品副作用被害救済制度」について、以下それぞれにあてはまるものをひとつお選びください。（単一回答）

医薬品を、適正に使用したにもかかわらず発生した副作用による疾病や障害などの健康被害について救済給付を行う

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



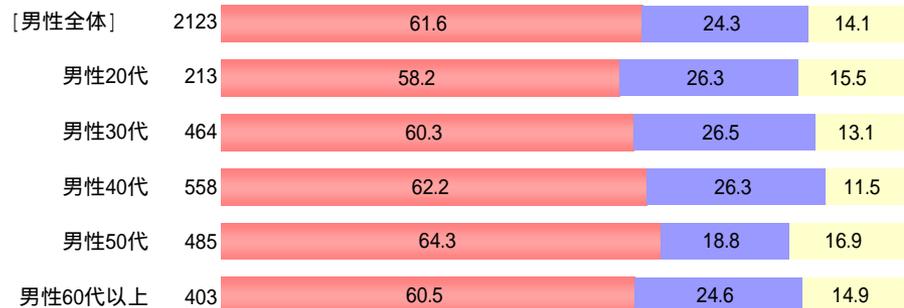
全体 3985

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



全体 3985

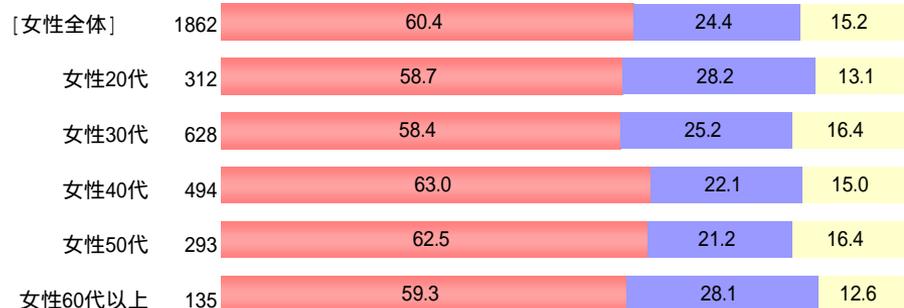
男性
/
年代別



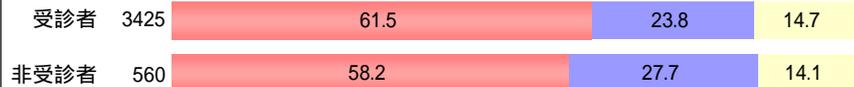
地域別



女性
/
年代別



受診者別

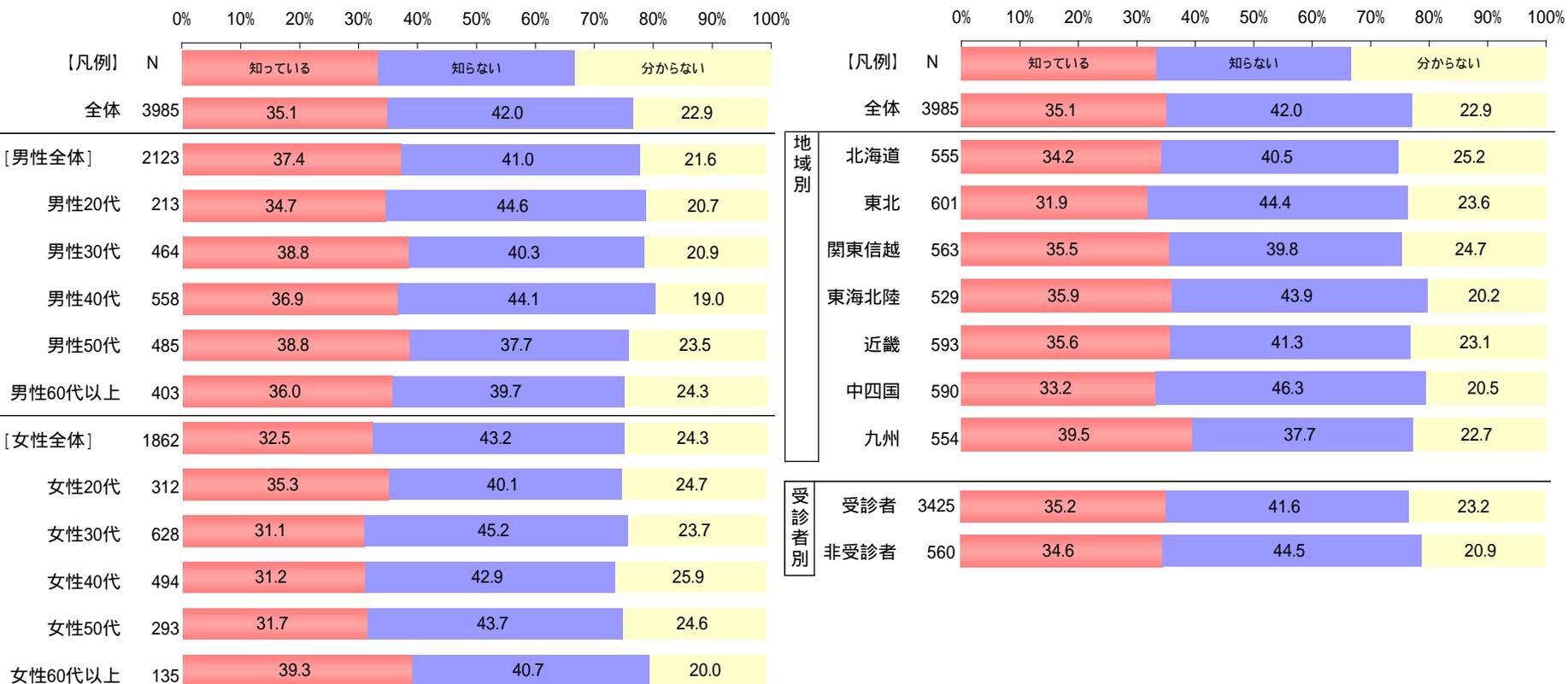


5. 医薬品副作用被害救済制度の内容理解（内容項目別）

- 『入院の伴う健康被害救済給付を行う』について、知っている人は35.1%である。
- 性別では、男性のほうが4.9ポイント差で高い。性年代別では「女性60代以上」39.3%と最も高いが、「男性30代」も38.8%と高い。
- 地域別では、「九州」39.5%と最も高い。

【「医薬品副作用被害救済制度」を「知っている」「名前を聞いたことがある」の回答者のみ】
 Q8 「医薬品副作用被害救済制度」について、以下それぞれにあてはまるものをひとつお選びください。（単一回答）

入院が必要な程度の疾病や障害などの健康被害について救済給付を行う

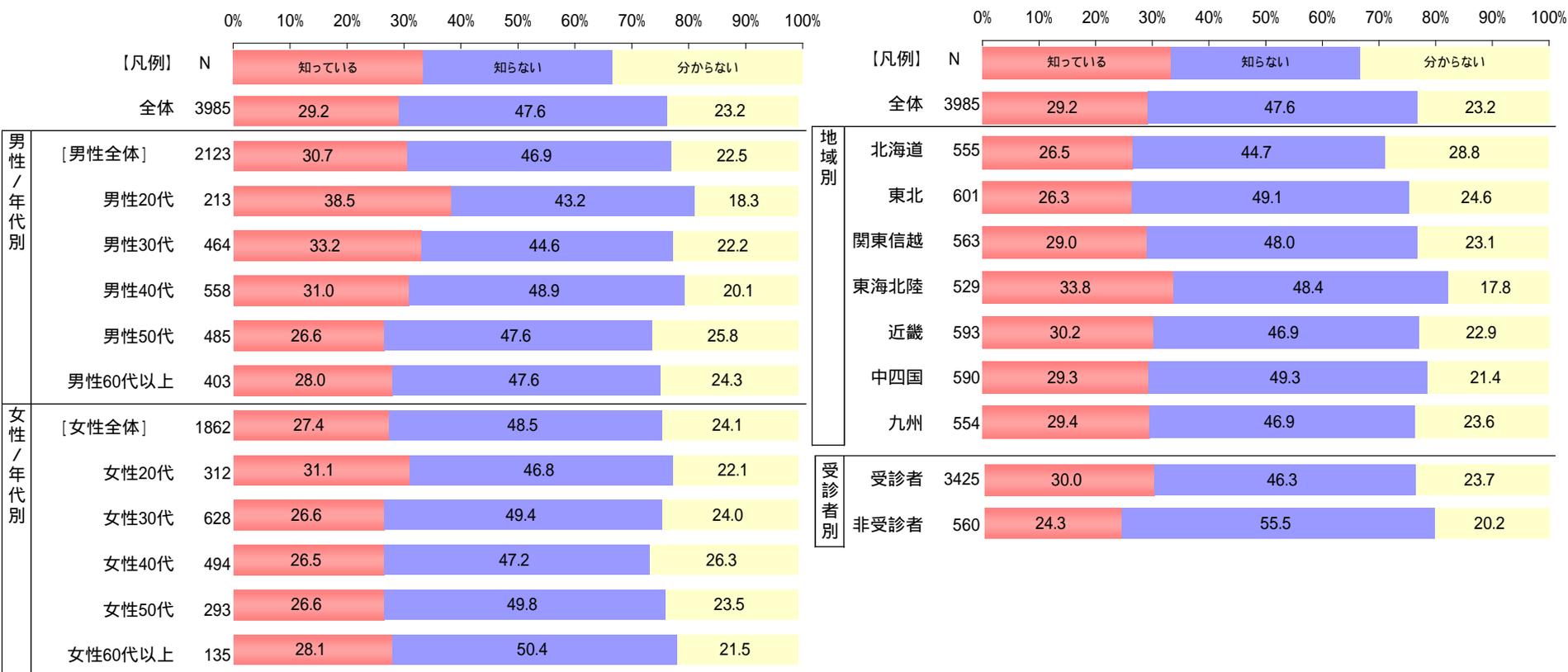


5. 医薬品副作用被害救済制度の内容理解（内容項目別）

- 『給付の種類はいくつかの種類がある』について、知っている人は29.2%である。
- 性別では、男性のほうが3.3ポイント差で高い。性年代別では「男性20代」が38.5%と最も高い。
- 地域別では、「東海北陸」33.8%が最も高い。

【「医薬品副作用被害救済制度」を「知っている」「名前を聞いたことがある」の回答者のみ】
 Q8 「医薬品副作用被害救済制度」について、以下それぞれにあてはまるものをひとつお選びください。（単一回答）

給付の種類にはいくつかの種類がある

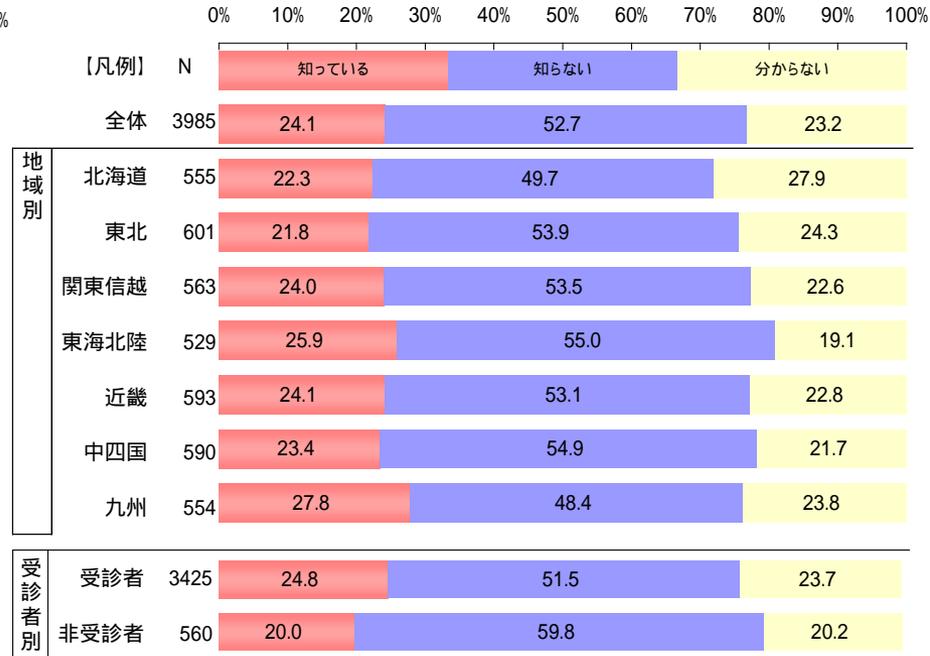
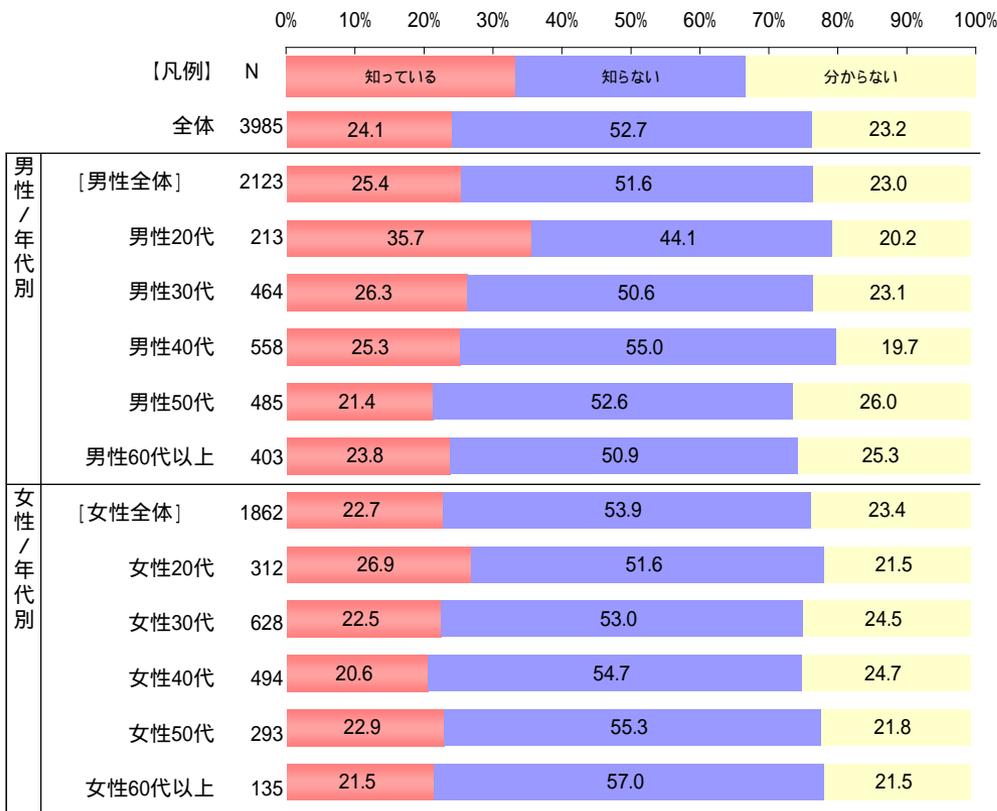


5. 医薬品副作用被害救済制度の内容理解（内容項目別）

- 『給付には種類ごとに請求期限がある』について、知っている人は24.1%である。
- 性別では男性のほうが2.7ポイント差で高い。性年代別では、「男性20代」35.7%が最も高い。
- 地域別では、「九州」27.8%が最も高い。

【「医薬品副作用被害救済制度」を「知っている」「名前を聞いたことがある」の回答者のみ】
 Q8 「医薬品副作用被害救済制度」について、以下それぞれにあてはまるものをひとつお選びください。（単一回答）

給付には、種類ごとにそれぞれ請求期限がある

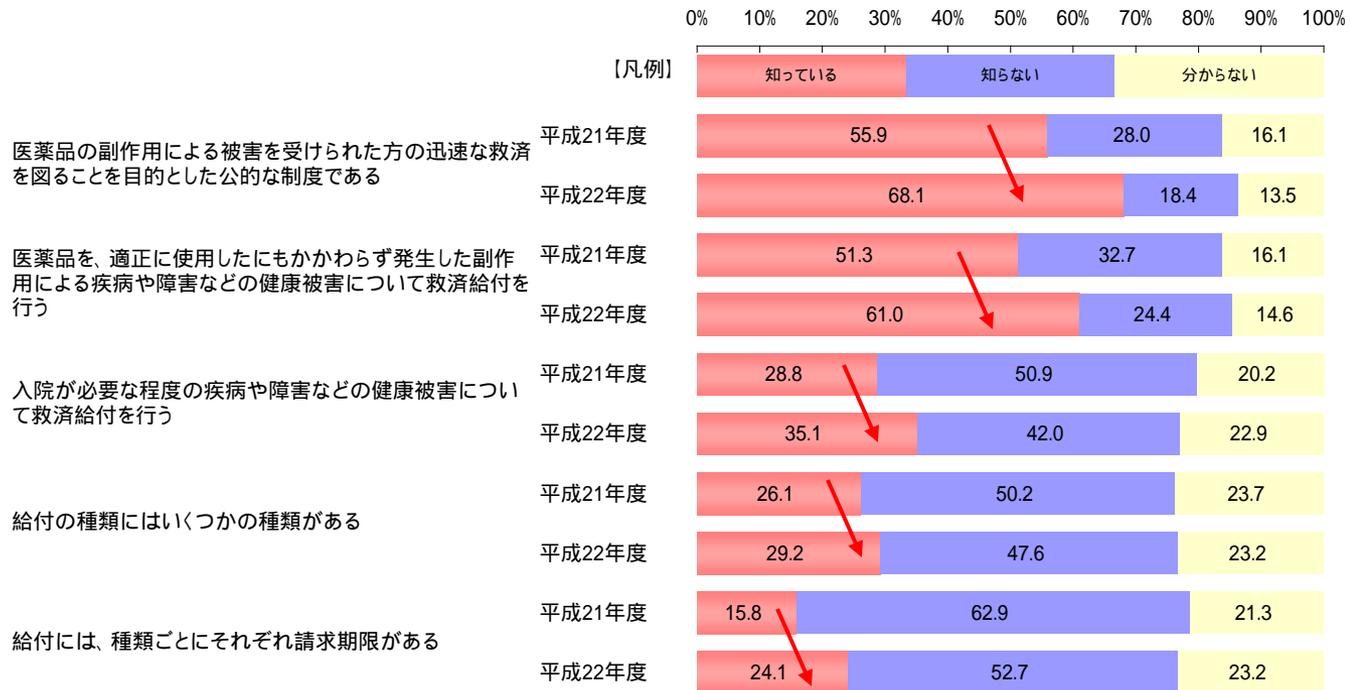


5. 医薬品副作用被害救済制度の内容理解

- 21年度との比較では、すべての項目で認知率が高まっている。
- 特に「公的な制度である」「副作用による健康被害について救済給付する」「請求期限がある」は、前年度比で10ポイント前後高くなっている。

【「医薬品副作用被害救済制度」を「知っている」「名前を聞いたことがある」の回答者のみ】
 Q8 「医薬品副作用被害救済制度」について、以下それぞれにあてはまるものをひとつお選びください。（単一回答）

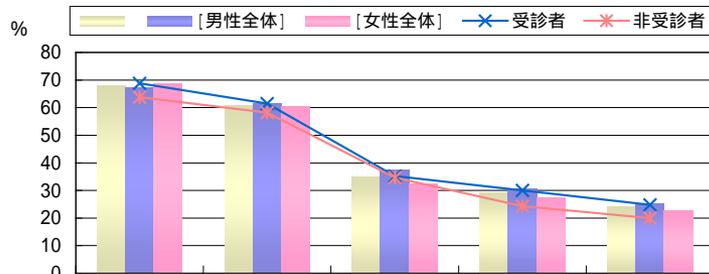
【全体ベース、平成21年度：N=1221、平成22年度：N=3985】



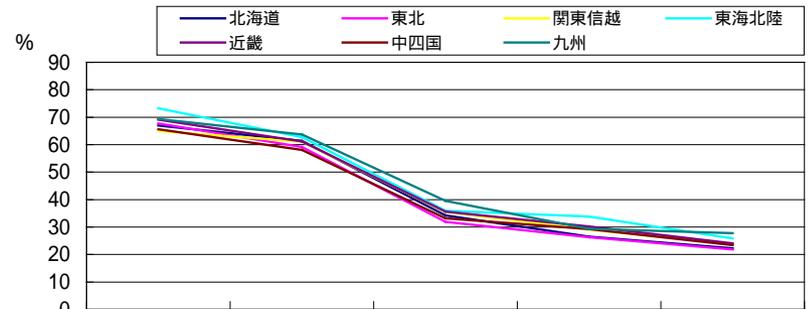
5. 医薬品副作用被害救済制度の内容理解 - 「知っている」ベース

- 性別では、「公的な制度である」以外は、男性のほうが女性に比べて認知率が多少高い。
- 地域別では、「公的な制度である」で東海北陸の認知率が73.3%と最も高いほかは、大きな差が見られない。

【「医薬品副作用被害救済制度」を「知っている」「名前を聞いたことがある」の回答者のみ】
 Q8 「医薬品副作用被害救済制度」について、以下それぞれにあてはまるものをひとつお選びください。（単一回答）



性別/年代別	N	回答項目				
		公的な制度である	速に救済を受けることができる	被害を受けた際に適切な救済を受けることができる	入院が必要ない程度に被害を受けることができる	給付の種類がいくつあるか
全体	3985	68.1	61.0	35.1	29.2	24.1
[男性全体]	2123	67.5	61.6	37.4	30.7	25.4
男性/年代別						
男性20代	213	63.4	58.2	34.7	38.5	35.7
男性30代	464	65.9	60.3	38.8	33.2	26.3
男性40代	558	68.8	62.2	36.9	31.0	25.3
男性50代	485	69.7	64.3	38.8	26.6	21.4
男性60代以上	403	67.2	60.5	36.0	28.0	23.8
[女性全体]	1862	68.7	60.4	32.5	27.4	22.7
女性/年代別						
女性20代	312	66.3	58.7	35.3	31.1	26.9
女性30代	628	67.8	58.4	31.1	26.6	22.5
女性40代	494	71.3	63.0	31.2	26.5	20.6
女性50代	293	67.6	62.5	31.7	26.6	22.9
女性60代以上	135	71.9	59.3	39.3	28.1	21.5
受診者	3425	68.8	61.5	35.2	30.0	24.8
非受診者	560	63.8	58.2	34.6	24.3	20.0

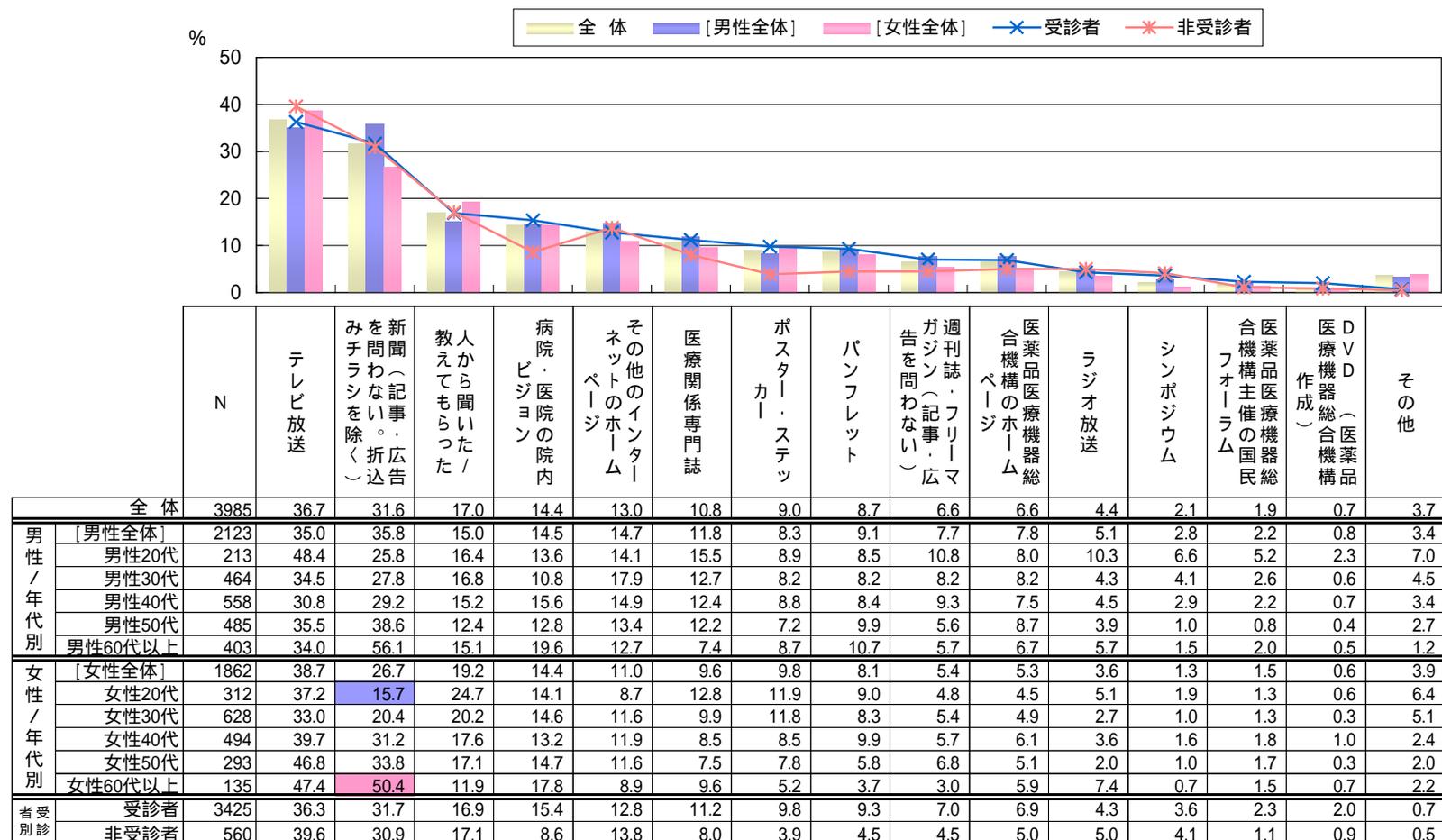


地域別	N	回答項目				
		公的な制度である	速に救済を受けることができる	被害を受けた際に適切な救済を受けることができる	入院が必要ない程度に被害を受けることができる	給付の種類がいくつあるか
全体	3985	68.1	61.0	35.1	29.2	24.1
地域別						
北海道	555	67.0	61.4	34.2	26.5	22.3
東北	601	67.7	59.1	31.9	26.3	21.8
関東信越	563	65.0	61.1	35.5	29.0	24.0
東海北陸	529	73.3	62.8	35.9	33.8	25.9
近畿	593	69.1	61.2	35.6	30.2	24.1
中四国	590	65.6	58.1	33.2	29.3	23.4
九州	554	69.3	63.7	39.5	29.4	27.8

6. 医薬品副作用被害救済制度の認知経路

- 「医薬品副作用被害救済制度」の認知経路は、「テレビ放送」36.7%、「新聞」31.6%で、上位二つをマスメディアで占めている。3位は「人から聞いた」17.0%で、口コミによる認知も比較的高い。
- 性別では、「テレビ」「口コミ」は女性のほうが、「新聞」「インターネット」は男性のほうがポイントが高い。性年代別で大きな差が見られたのは女性の「新聞」で、「20代」の15.7%に対し「60代以上」は50.4%。
- 受診者別にみると、いずれもが「テレビ放送」および「新聞」において30%超と高い。

Q9 あなたは「医薬品副作用被害救済制度」をどのようにして知りましたか。または、どのようにして名前を聞きましたか。あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答）

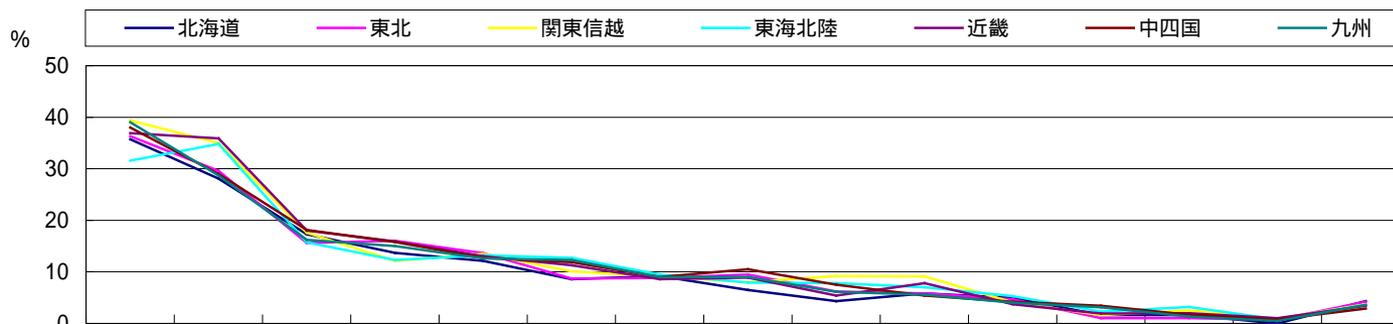


全体を降順にソート

6. 医薬品副作用被害救済制度の認知経路

地域別では、「テレビ放送」は関東信越、中四国、九州が40%近くで、他地域に比べ多少高い傾向にある。「新聞」は関東信越、東海北陸、近畿が35%前後で、他地域に比べ高い傾向にある。

Q9 あなたは「医薬品副作用被害救済制度」をどのようにして知りましたか。または、どのようにして名前を聞きましたか。あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答）



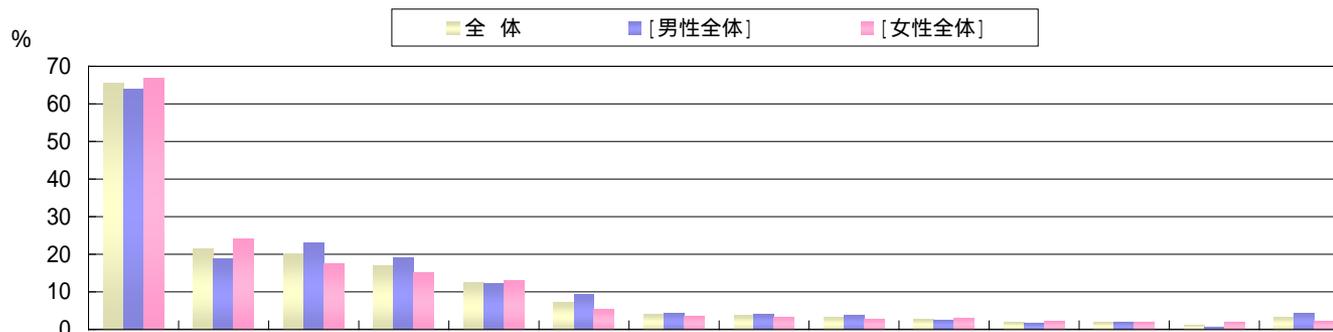
	N	テレビ放送	新聞（記事・広告を問わない。折込みチラシを除く）	人から聞いた/教えてもらった	病院・医院の院内ビジョン	その他のインターネットのホームページ	医療関係専門誌	ポスター・ステッカー	パンフレット	週刊誌・フリーマガジン（記事・広告を問わない）	医薬品医療機器総合機構のホームページ	ラジオ放送	シンポジウム	医薬品医療機器総合機構主催の国民フォーラム	DVD（医薬品医療機器総合機構作成）	その他	
全体	3985	36.7	31.6	17.0	14.4	13.0	10.8	9.0	8.7	6.6	6.6	4.4	2.1	1.9	0.7	3.7	
地域別	北海道	555	35.7	28.1	17.3	13.7	12.1	8.6	9.2	6.5	4.3	5.8	1.6	1.6	0.0	4.3	
	東北	601	36.3	29.6	15.6	16.0	13.6	8.7	8.8	9.5	6.2	5.8	4.7	1.0	1.0	0.7	4.2
	関東信越	563	39.4	35.0	17.6	12.1	13.5	10.1	9.1	8.0	9.2	9.1	4.1	1.6	2.5	0.9	3.7
	東海北陸	529	31.6	34.8	15.7	12.3	13.2	12.7	9.5	7.9	7.8	7.0	5.3	2.3	3.2	0.8	3.6
	近畿	593	36.9	35.9	18.0	15.9	13.0	11.3	8.6	8.9	5.4	7.8	3.7	1.9	2.0	1.0	3.4
	中四国	590	38.0	29.0	18.1	15.8	12.7	11.9	9.0	10.5	7.5	5.4	4.2	3.4	1.7	0.8	2.9
	九州	554	39.0	28.7	16.2	15.0	12.6	12.3	9.0	9.0	6.1	5.6	4.0	3.1	1.3	0.5	3.6

全体を降順にソート

6-1. 医薬品副作用被害救済制度の認知経路 -人から聞いた/教えてもらった

- 「口コミ」による認知者の認知経路は、「知人・友人」が65.5%と最も高く、「家族」21.6%、「医師」20.1%、「薬剤師」17.0%と続く。
- 性別では、「知人・友人」「家族」は女性のほうが、「医師」「薬剤師」「医療機関の事務担当者」は男性のほうがポイントが高い。
- 性年代別では、「女性60代以上」の「知人・友人」が87.5%で最も高い。

Q10 あなたは「医薬品副作用被害救済制度」について、誰から知りましたか。あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答）



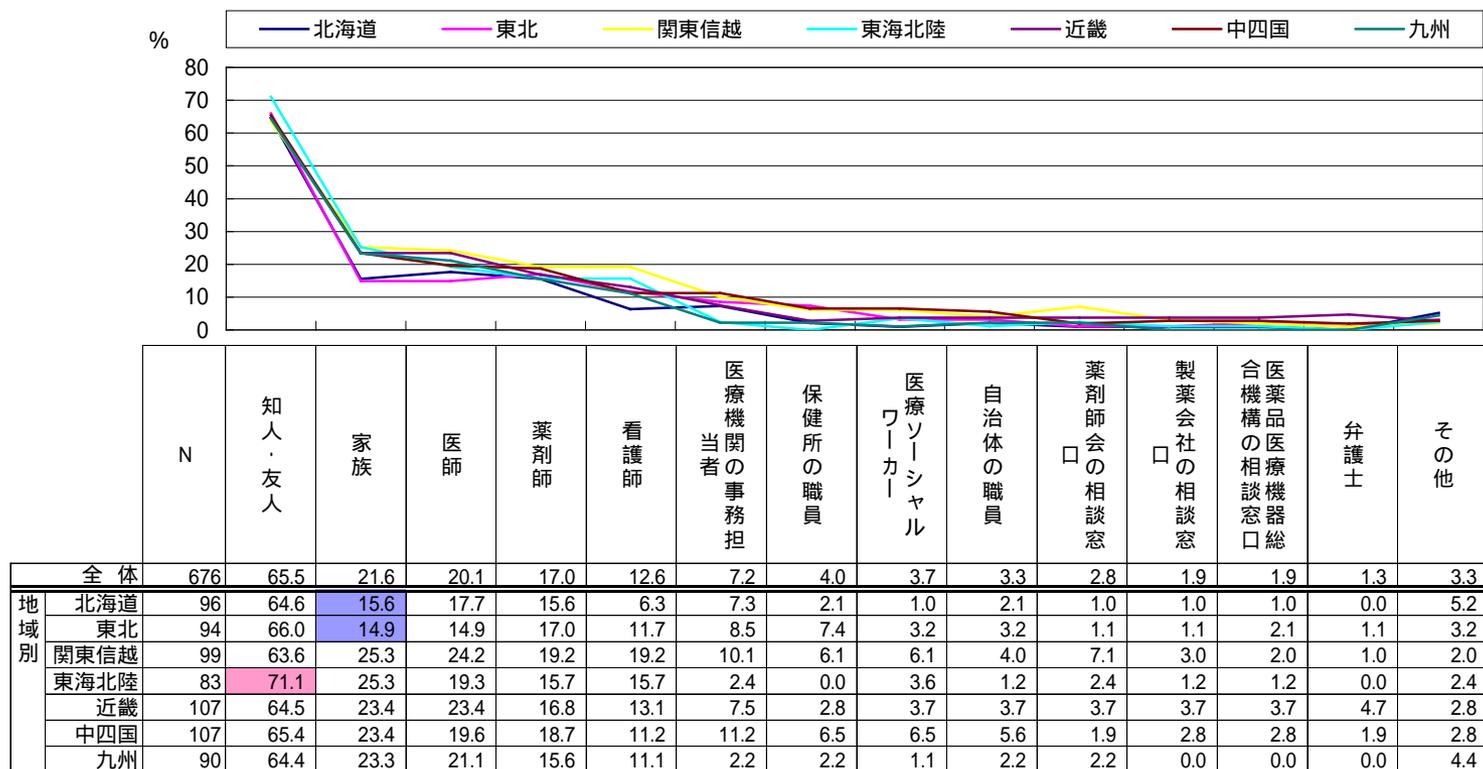
	N	知人・友人	家族	医師	薬剤師	看護師	医療機関の事務担当者	保健所の職員	医療ソーシャルワーカー	自治体の職員	薬剤師会の相談窓口	製薬会社の相談窓口	医薬品医療機器総合機構の相談窓口	弁護士	その他
全体	676	65.5	21.6	20.1	17.0	12.6	7.2	4.0	3.7	3.3	2.8	1.9	1.9	1.3	3.3
男性	[男性全体] 319	63.9	18.8	23.2	19.1	12.2	9.4	4.4	4.1	3.8	2.5	1.6	1.9	0.6	4.4
男性/年代別	男性20代 35	54.3	25.7	37.1	25.7	22.9	8.6	2.9	14.3	5.7	8.6	5.7	5.7	2.9	5.7
	男性30代 78	65.4	25.6	25.6	23.1	12.8	7.7	3.8	1.3	5.1	1.3	0.0	0.0	0.0	2.6
	男性40代 85	62.4	12.9	25.9	15.3	10.6	10.6	5.9	4.7	2.4	2.4	2.4	2.4	1.2	5.9
	男性50代 60	61.7	13.3	15.0	18.3	10.0	3.3	3.3	1.7	3.3	1.7	1.7	3.3	0.0	5.0
	男性60代以上 61	72.1	19.7	16.4	16.4	9.8	16.4	4.9	3.3	3.3	1.6	0.0	0.0	0.0	3.3
女性	[女性全体] 357	66.9	24.1	17.4	15.1	12.9	5.3	3.6	3.4	2.8	3.1	2.2	2.0	2.0	2.2
女性/年代別	女性20代 77	57.1	33.8	27.3	16.9	11.7	7.8	1.3	3.9	2.6	3.9	2.6	2.6	1.3	3.9
	女性30代 127	63.8	28.3	15.7	11.8	13.4	1.6	2.4	0.8	0.8	1.6	0.8	0.8	1.6	2.4
	女性40代 87	65.5	17.2	14.9	17.2	12.6	6.9	6.9	4.6	4.6	2.3	2.3	2.3	1.1	2.3
	女性50代 50	86.0	10.0	14.0	16.0	16.0	8.0	6.0	6.0	6.0	8.0	6.0	4.0	4.0	0.0
	女性60代以上 16	87.5	25.0	6.3	18.8	6.3	6.3	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0

全体を降順にソート

6-1. 医薬品副作用被害救済制度の認知経路 -人から聞いた/教えてもらった

○ 地域別では、「知人・友人」のポイントが最も高いのは東海北陸で71.1%。「家族」は、北海道、東北のポイントが低い。

Q10 あなたは「医薬品副作用被害救済制度」について、誰から知りましたか。あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答）

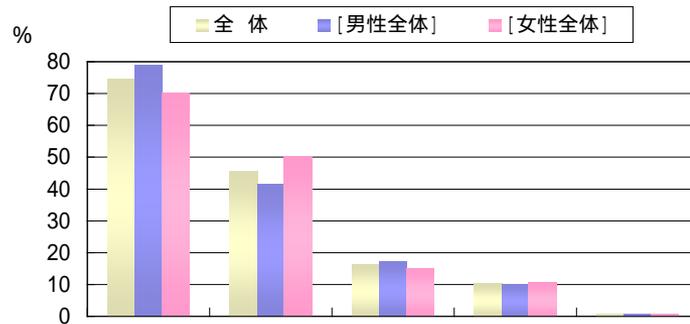


全体を降順にソート

6-2. 医薬品副作用被害救済制度の認知経路 - パンフレットまたはポスター・ステッカー

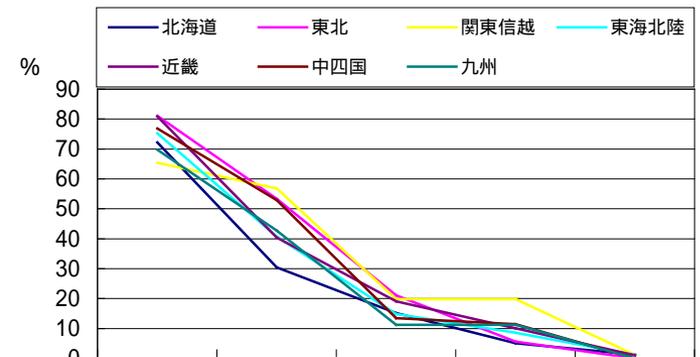
- パンフレット、ポスター・ステッカーの認知経路は、「病院・医院」が74.7%と最も高く、「薬局・薬店」45.7%と続く。
- 性別では、「病院・医院」は男性のほうが、「薬局・薬店」は女性のほうがポイントが高い。
- 地域別では、「病院・医院」のポイントが高いのは東北、近畿で80%前後、低いのは関東信越、九州の65.4、69.7%。「薬局・薬店」のポイントが高いのは関東信越の56.8%、低いのは北海道の30.4%。

Q11 あなたは「医薬品副作用被害救済制度」のパンフレット、ポスター・ステッカーをどこで見ましたか。あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答）



		N	病院・医院	薬局・薬店（含む）	自治体・保健所など	電車（JR、地下鉄など）	その他
全体		613	74.7	45.7	16.3	10.3	0.7
男性 / 年代別	[男性全体]	321	78.8	41.4	17.4	10.0	0.6
	男性20代	30	80.0	53.3	30.0	30.0	3.3
	男性30代	65	76.9	56.9	13.8	10.8	0.0
	男性40代	86	75.6	36.0	14.0	9.3	1.2
	男性50代	73	86.3	26.0	15.1	4.1	0.0
	男性60代以上	67	76.1	44.8	22.4	7.5	0.0
女性 / 年代別	[女性全体]	292	70.2	50.3	15.1	10.6	0.7
	女性20代	56	73.2	57.1	12.5	19.6	0.0
	女性30代	112	66.1	46.4	16.1	8.0	0.9
	女性40代	81	72.8	55.6	11.1	7.4	1.2
	女性50代	33	63.6	45.5	21.2	12.1	0.0
	女性60代以上	10	100.0	30.0	30.0	10.0	0.0

全体を降順にソート



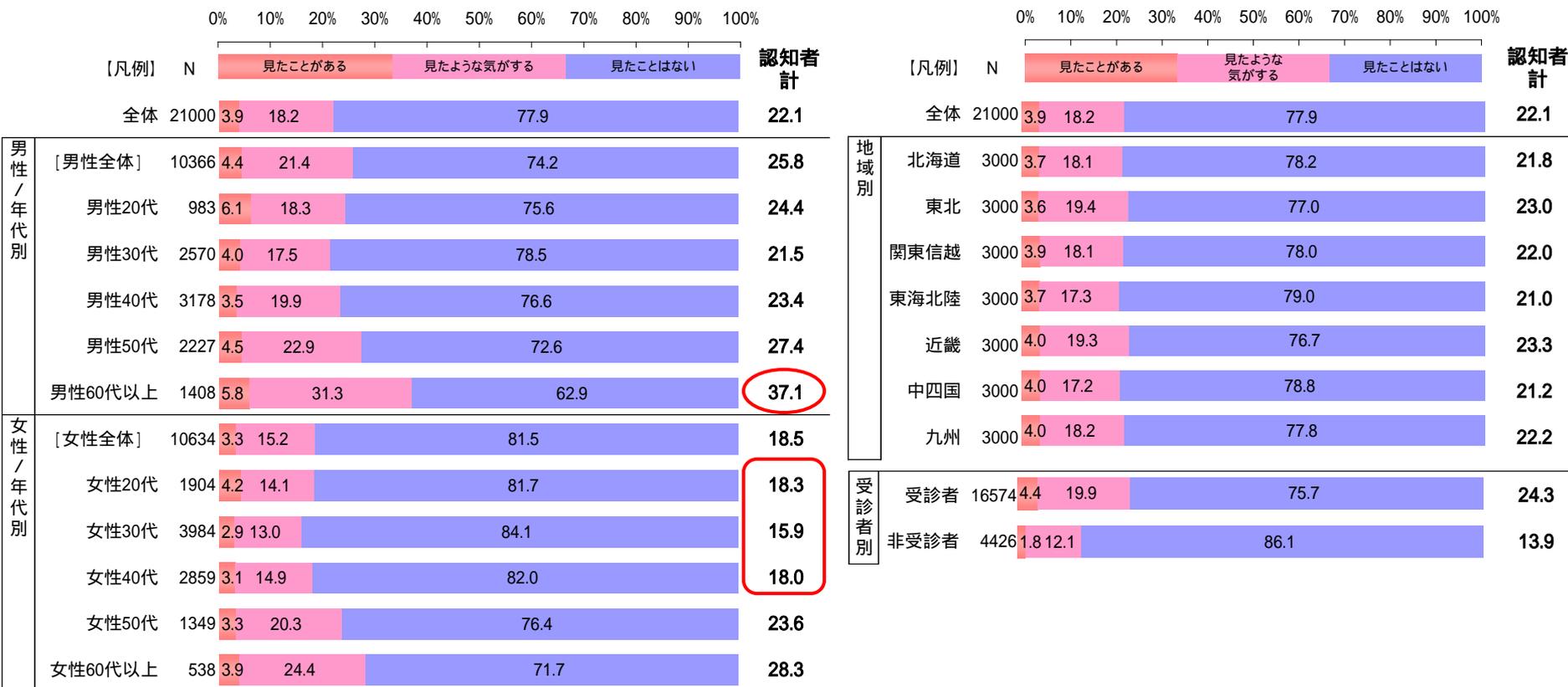
		N	病院・医院	薬局・薬店（含む）	自治体・保健所など	電車（JR、地下鉄など）	その他
全体		613	74.7	45.7	16.3	10.3	0.7
地域別	北海道	79	72.2	30.4	15.2	5.1	1.3
	東北	90	81.1	53.3	21.1	5.6	0.0
	関東信越	81	65.4	56.8	19.8	19.8	1.2
	東海北陸	81	75.3	40.7	14.8	8.6	1.2
	近畿	89	80.9	40.4	19.1	10.1	1.1
	中四国	104	76.9	52.9	13.5	11.5	0.0
	九州	89	69.7	42.7	11.2	11.2	0.0

全体を降順にソート

7. 広告の認知

- 広告の認知は、「見たことがある」3.9%、「見たような気がする」18.2%、合わせて22.1%である。
- 性別では、男性のほうが女性に比べて認知率(見たことがある + 見たような気がする)が7.3ポイント高い。
- 性年代別では、「男性60代以上」の認知率(見たことがある + 見たような気がする)が37.1%と最も高い。一方、「女性20代~40代」の認知率は15~18%台と低い傾向にある。
- 地域別では、大きな差が見られないが、近畿の認知率(見たことがある + 見たような気がする)が23.3%と最も高く、東海北陸の21.0%が最も低い。
- 受診者別では、受診者の認知率(見たことがある + 見たような気がする)24.3%に対し、非受診者は13.9%。

Q12 以下の画像(新聞・交通広告、ポスター)をご覧になってからお答えください。あなたは、この広告をひとつでも見たことがありますか。(単一回答)

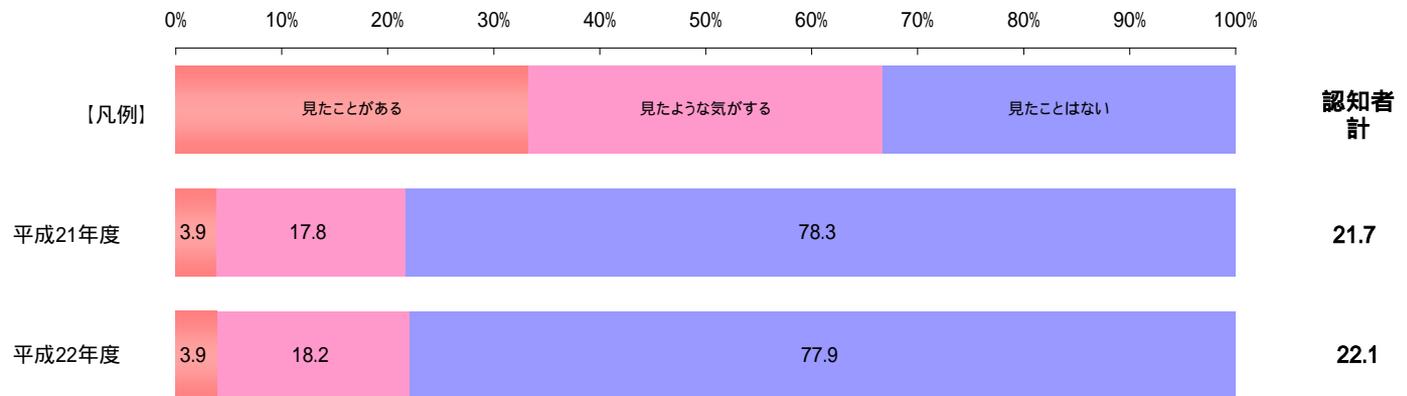


7. 広告の認知

ü 21年度との比較では、大きな差が見られない。

Q12 以下の画像（新聞・交通広告、ポスター）をご覧になってからお答えください。あなたは、この広告をひとつでも見たことがありますか。（単一回答）

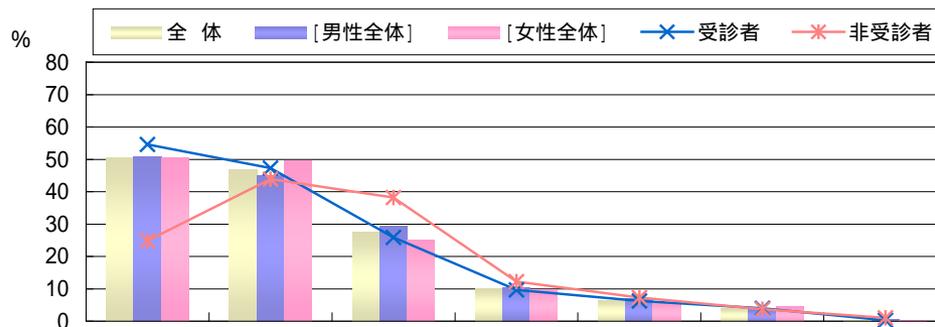
【全体ベース、平成21年度：N=3119、平成22年度：N=21000】



8. 広告の認知経路

- 広告の認知経路は、「病院・医院」が50.6%と最も高く、「薬局・薬店」46.9%、「新聞」27.5%と続く。
- 性別では、「薬局・薬店」は女性のほうが、「新聞」は男性のほうがポイントが高い。
- 受診者別にみると、「病院」においては受診者の方が高く、「新聞」や「電車」においては非受診者で高い傾向である。

Q13 あなたは、どこでこの広告を見ましたか。あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答）



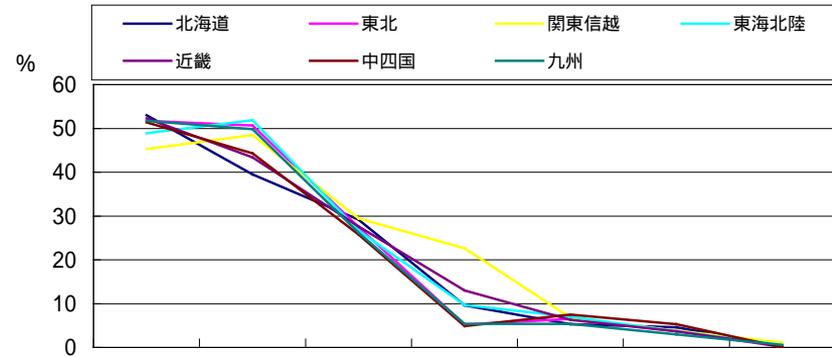
N		病院・医院	薬局・薬店(含む)	新聞	電車(JR、地下鉄など)	自治体・保健所などの公共機関	フリーマガジン	その他	
全体		4638	50.6	46.9	27.5	10.1	6.4	4.0	0.4
男性/年代別	[男性全体]	2671	50.7	44.9	29.3	10.3	6.9	3.6	0.5
	男性20代	240	47.5	36.3	30.0	21.7	5.4	12.1	0.8
	男性30代	553	46.5	49.4	25.1	12.3	7.4	4.9	0.4
	男性40代	745	54.4	44.6	21.9	10.1	6.6	3.6	0.5
	男性50代	610	53.9	46.2	29.7	7.4	5.7	1.6	0.8
	男性60代以上	523	47.6	43.2	43.4	6.5	8.8	0.6	0.2
女性/年代別	[女性全体]	1967	50.6	49.5	25.1	9.8	5.7	4.5	0.3
	女性20代	349	51.6	46.7	18.3	15.8	5.4	6.3	0.6
	女性30代	634	51.7	56.8	18.0	9.9	5.5	5.0	0.2
	女性40代	514	53.7	49.0	24.1	8.6	6.0	3.9	0.4
	女性50代	318	45.9	44.3	37.1	8.5	5.7	4.1	0.0
	女性60代以上	152	42.8	38.2	48.7	2.6	6.6	0.7	0.0
受診者別	受診者	4021	54.6	47.3	25.9	9.7	6.3	4.0	0.3
	非受診者	617	24.8	43.9	38.2	12.2	7.3	3.7	1.0

全体を降順にソート

8. 広告の認知経路

- 地域別では、差が見られたのは「薬局・薬店」で、東海北陸が51.9%と最も高く、北海道が39.5%と最も低い。
- 「電車」は関東信越が22.6%と最も高いが、この地域差は、広告の掲出場所等によるものと想定される。

Q13 あなたは、どこでこの広告を見ましたか。あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答）



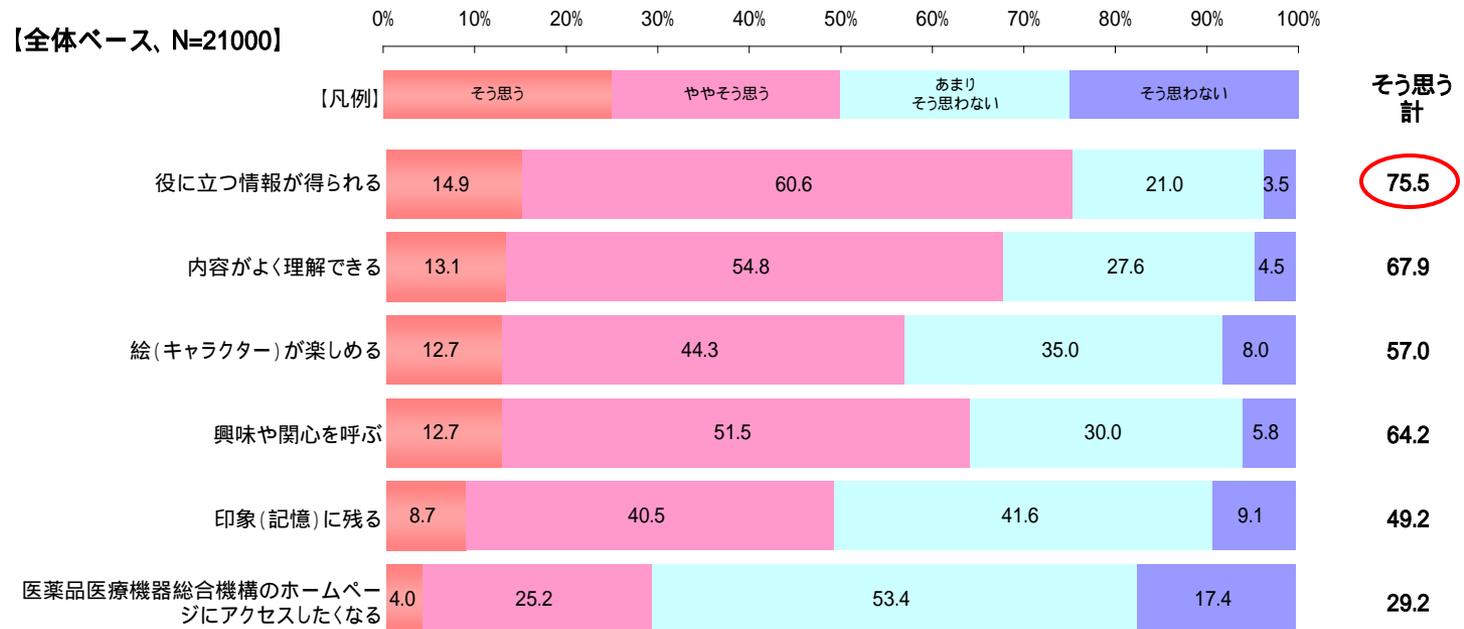
	N	病院・医院	薬局・薬店(含む)	新聞	電車(JR、地下鉄など)	自治体・保健所などの公共機関	フリーマガジン	その他	
全体	4638	50.6	46.9	27.5	10.1	6.4	4.0	0.4	
地域別	北海道	655	53.0	39.5	29.2	9.6	5.3	4.6	0.2
	東北	690	51.7	50.7	27.5	5.2	6.5	3.8	0.1
	関東信越	660	45.3	48.5	29.5	22.6	6.8	3.8	1.1
	東海北陸	630	48.9	51.9	26.7	9.7	7.0	3.7	0.6
	近畿	700	52.3	43.4	27.6	13.0	6.3	3.7	0.3
	中四国	636	51.4	44.3	25.8	4.9	7.5	5.3	0.0
	九州	667	51.7	49.8	26.2	5.4	5.4	3.0	0.6

全体を降順にソート

9. 広告の評価

- 広告に対する評価は、高かった順に「役に立つ情報が得られる」75.5%、「内容がよく理解できる」67.9%、「興味や関心と呼ぶ」64.2%。
- 一方で、「印象(記憶)に残る」は49.2%、「医薬品医療機器総合機構のホームページにアクセスしたくなる」は29.2%だった。

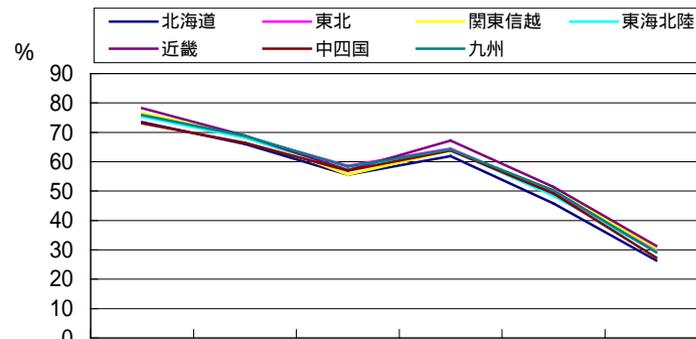
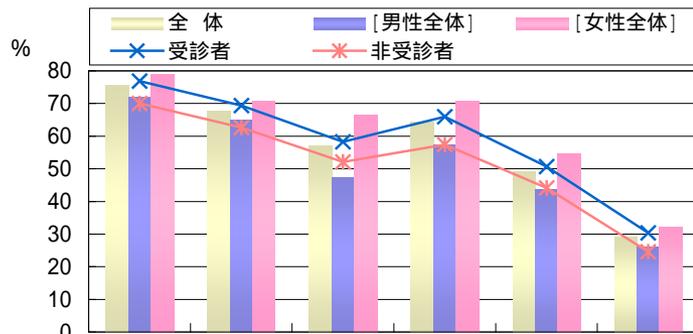
Q14-1 Q12でご覧になった「新聞・交通広告、ポスター」についての感想をおうかがいします。以下の項目について、それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。(単一回答)



9. 広告の評価 - 「そう思う 計」ベース

- 性別では、いずれの項目も、男性よりも女性のほうがポイントが高い。特に「絵が楽しめる」は20ポイント近い差が出ている。
- 地域別では、いずれも大きな差が見られない。

Q14-1 Q12でご覧になった「新聞・交通広告、ポスター」についての感想をおうかがいします。以下の項目について、それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。（単一回答）



性別/年代別	N	役に立つ情報が得られる	内容がよく理解できる	絵（キャラクター）が楽しめる	興味や関心を呼ぶ	印象（記憶）に残る	医薬品医療機器総合機 構のホームページにアクセスし たくなる	
		75.5	67.9	57.0	64.2	49.2	29.2	
全体	21000	75.5	67.9	57.0	64.2	49.2	29.2	
男性	[男性全体]	10366	71.9	64.9	47.4	57.4	43.8	26.1
20代	983	71.6	64.2	51.8	57.0	40.9	27.3	
30代	2570	71.2	66.2	50.8	57.5	43.8	26.3	
40代	3178	69.8	64.2	46.4	56.0	42.8	24.4	
50代	2227	72.9	64.7	44.7	57.1	44.0	26.4	
60代以上	1408	76.3	64.8	44.9	60.8	47.4	28.5	
女性	[女性全体]	10634	79.0	70.9	66.4	70.8	54.7	32.1
20代	1904	77.4	70.7	67.1	71.0	52.6	29.1	
30代	3984	78.0	69.9	67.9	70.3	53.3	31.2	
40代	2859	78.5	70.1	66.3	70.5	54.2	32.2	
50代	1349	84.5	73.8	62.4	72.2	59.6	38.0	
60代以上	538	83.0	77.1	62.3	72.1	62.2	35.3	
受診者	16574	76.9	69.4	58.3	66.0	50.7	30.4	
非受診者	4426	70.0	62.6	52.1	57.4	44.1	24.6	

地域別	N	役に立つ情報が得られる	内容がよく理解できる	絵（キャラクター）が楽しめる	興味や関心を呼ぶ	印象（記憶）に残る	医薬品医療機器総合機 構のホームページにア クセスしたくなる
		75.5	67.9	57.0	64.2	49.2	29.2
全体	21000	75.5	67.9	57.0	64.2	49.2	29.2
北海道	3000	73.5	66.0	55.5	61.9	45.8	26.4
東北	3000	76.0	68.5	58.6	64.4	49.5	30.0
関東信越	3000	76.5	68.9	55.6	63.8	50.4	30.5
東海北陸	3000	75.4	68.2	57.2	64.1	48.3	29.4
近畿	3000	78.2	68.9	57.1	67.2	51.4	31.4
中四国	3000	73.0	66.5	56.9	63.8	49.2	27.4
九州	3000	75.9	68.8	58.3	64.1	50.3	29.1

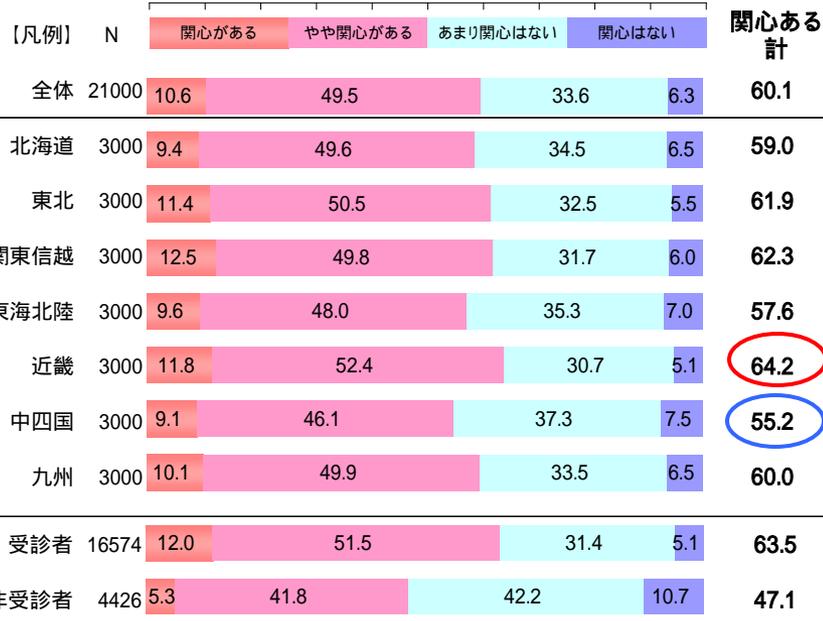
10. 医薬品副作用被害救済制度に対する関心

- 医薬品副作用被害救済制度に対する関心は、「関心がある」10.6%、「やや関心がある」49.5%で、合わせて60.1%が関心あり。
- 性別では、女性のほうが男性に比べて関心度(関心がある + やや関心がある)が9.1ポイント高い。
- 地域別では、近畿の関心度(関心がある + やや関心がある)が64.2%と最も高く、中四国の55.2%が最も低い。
- 受診者別では、受診者の関心度(関心がある + やや関心がある)63.5%に対し、非受診者は47.1%。

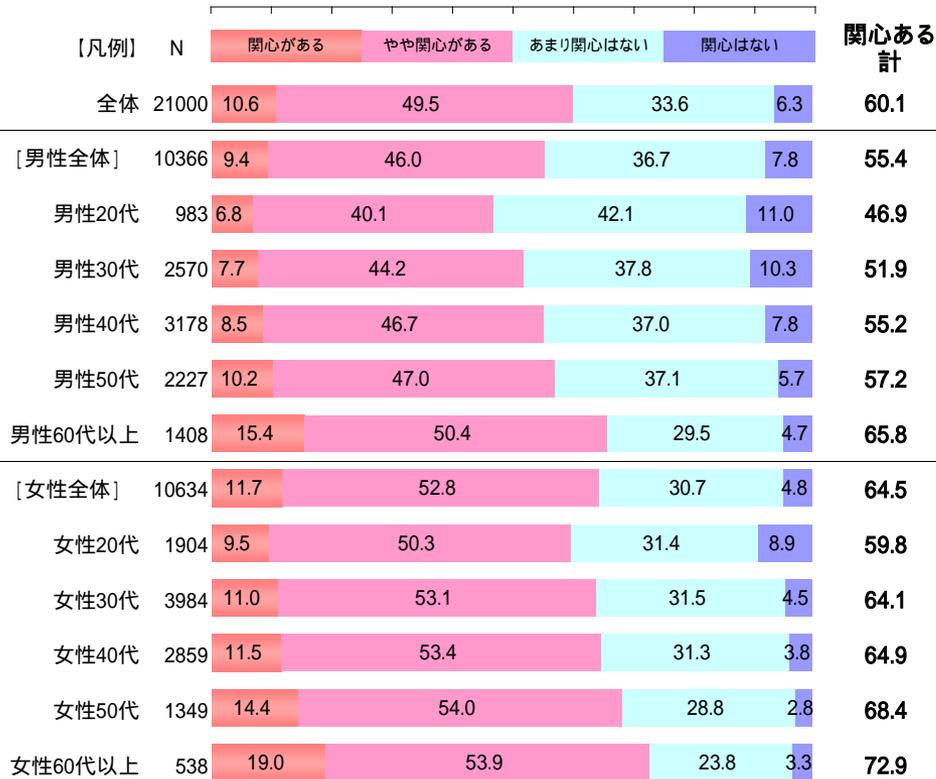
Q15 以下の「リーフレット」をよくお読みになってからお答えください。
あなたは「医薬品副作用被害救済制度」について、どの程度関心がありますか。(単一回答)



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

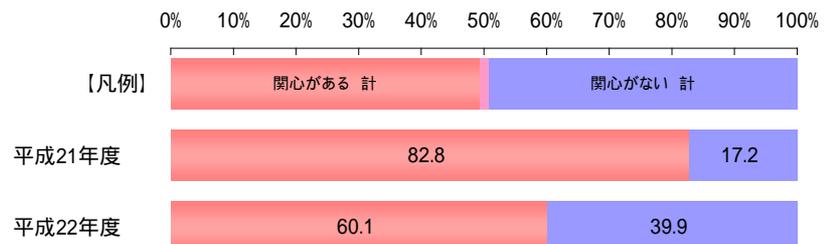


10. 医薬品副作用被害救済制度に対する関心

- 21年度との比較では、関心度は前年度比で22.7ポイント低くなっている。
- ただし、22年度調査は関心度を測る評価項目(回答項目)が4段階評価であるのに対し、21年度調査は6段階評価であったことから、評価尺度の差が結果に影響していると考えられる。

Q15 以下の「リーフレット」をよくお読みになってからお答えください。
あなたは「医薬品副作用被害救済制度」について、どの程度関心がありますか。(単一回答)

【全体ベース、平成21年度：N=3119、平成22年度：N=21000】



平成21年度：「非常に関心がある」9.1%、「関心がある」30.0%、「やや関心がある」43.7%、「あまり関心はない」13.5%、「関心はない」2.0%、「全く関心はない」1.7%

平成22年度：「関心がある」10.6%、「やや関心がある」49.5%、「あまり関心はない」33.6%、「関心はない」6.3%

11. 医薬品副作用被害救済制度に関する情報入手経路

- 医薬品副作用被害救済制度に関する情報の入手経路は、「(機構以外の)インターネットのホームページを見る」が57.2%と最も高く、「機構のホームページを見る」45.7%と続く。ネットからの入手傾向が高いが、「医療従事者に聞く」33.5%、「家族、知人に聞く」21.2%など、口コミによる入手もそれに続いている。
- 性別では、「機構のホームページ」「家族、知人・友人に聞く」は、女性のほうが男性よりポイントが高いものの、その他の項目ではあまり差は見られない。性年代別では、男女ともに50代までは年代が上がるほど「機構のホームページ」のポイントが高くなっている。一方、男女ともに「20代」は「医療関係専門誌」のポイントが高い。
- 受診者別では、「ホームページを見る」は大差ないものの、「医療従事者に聞く」「機構の相談窓口聞く」などは、受診者のポイントが高い。

Q16 あなたが「医薬品副作用被害救済制度」や「薬の副作用」について情報を収集する場合、どのような方法で情報を入手しますか。あてはまるものをすべてお選びください。(複数回答)

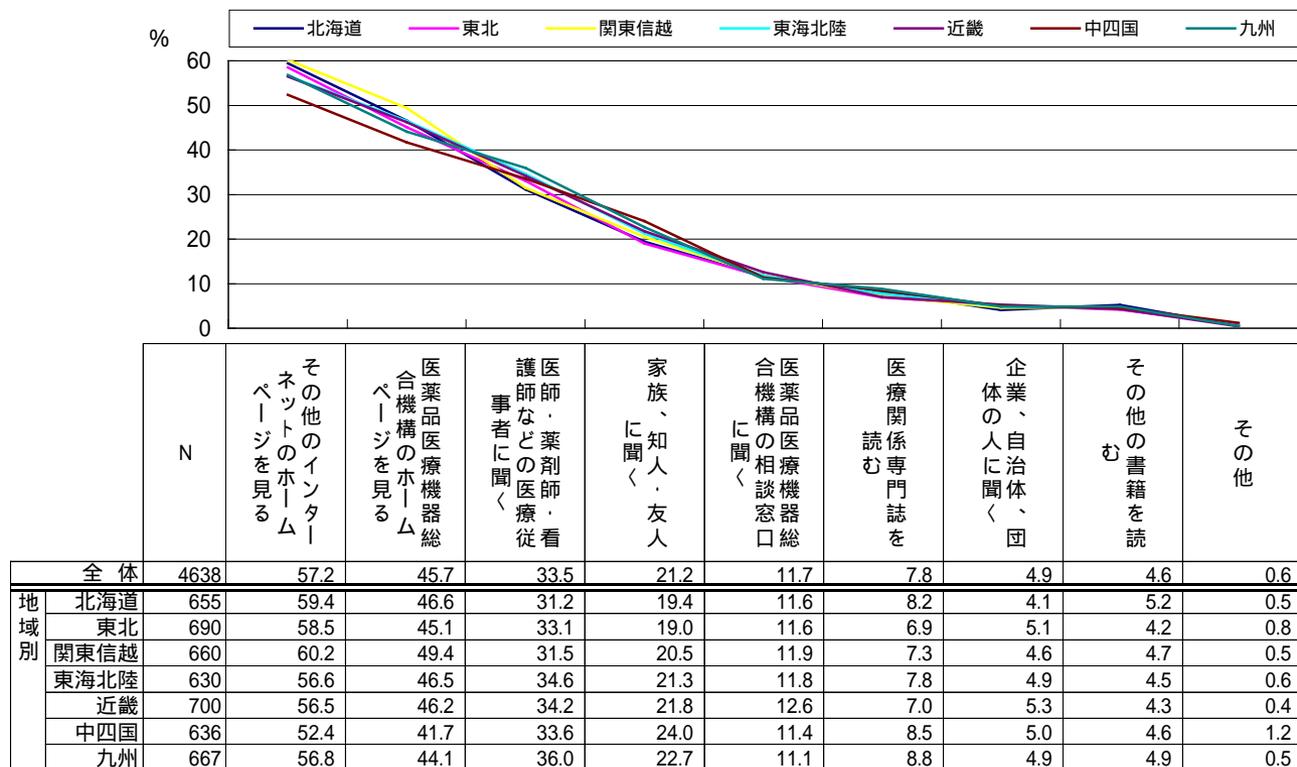


全体を降順にソート

11. 医薬品副作用被害救済制度に関する情報入手経路

ü 地域別では、「機構のホームページを見る」で、中四国が若干低いものの、大きな差が見られない。

Q16 あなたが「医薬品副作用被害救済制度」や「薬の副作用」について情報を収集する場合、どのような方法で情報を入手しますか。あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答）

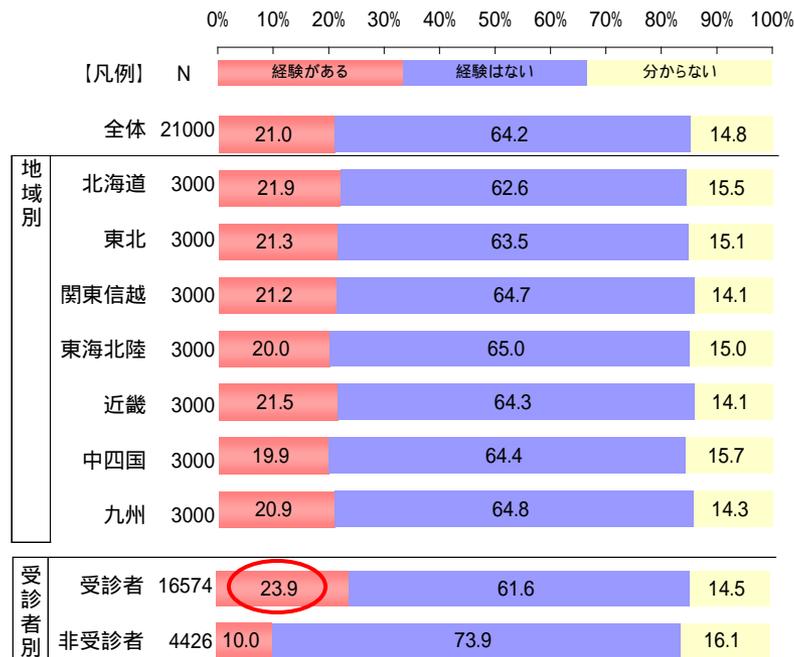
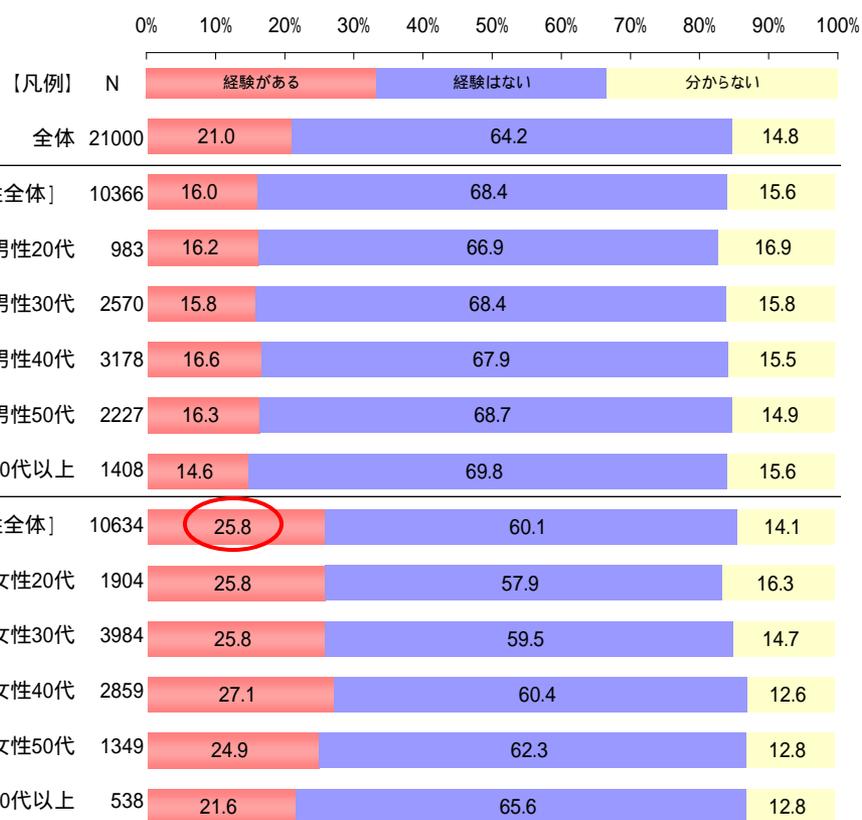


全体を降順にソート

12. 副作用の経験

- 医薬品による副作用の経験は、「経験がある」21.0%、「経験はない」64.2%。
- 性別では、女性のほうが男性に比べて経験者が9.8ポイント高い。性年代別では、最も経験者が多いのは「女性40代」27.1%、最も少ないのは「男性60代以上」14.6%。
- 地域別では、いずれも大きな差が見られない。
- 受診者別では、受診者の経験者23.9%に対し、非受診者は10.0%。

Q17 あなたは、これまでに医薬品による副作用または副作用と思われる経験をしたことがありますか。（単一回答）

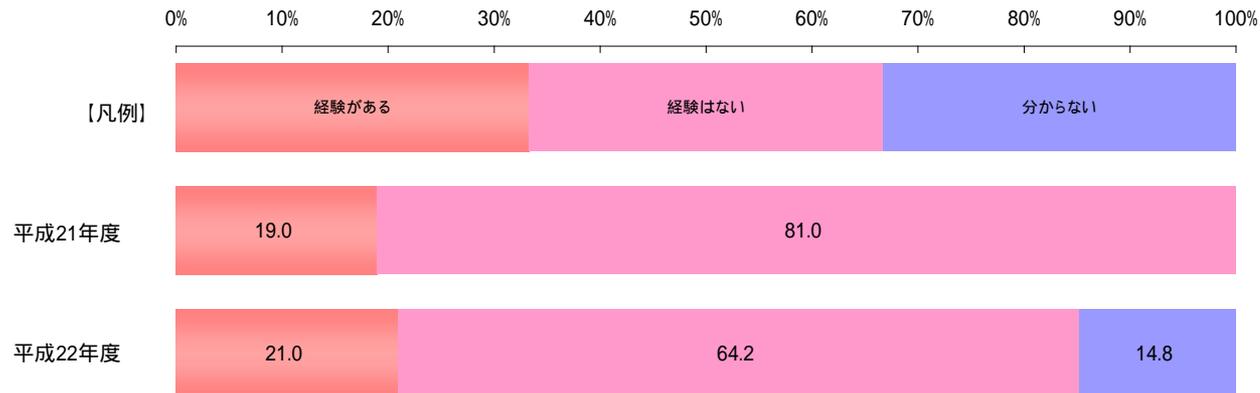


12. 副作用の経験

ü 21年度との比較では、経験がある人については大きな差が見られない。

Q17 あなたは、これまでに医薬品による副作用または副作用と思われる経験をしたことがありますか。（単一回答）

【全体ベース、平成21年度：N=3119、平成22年度：N=21000】

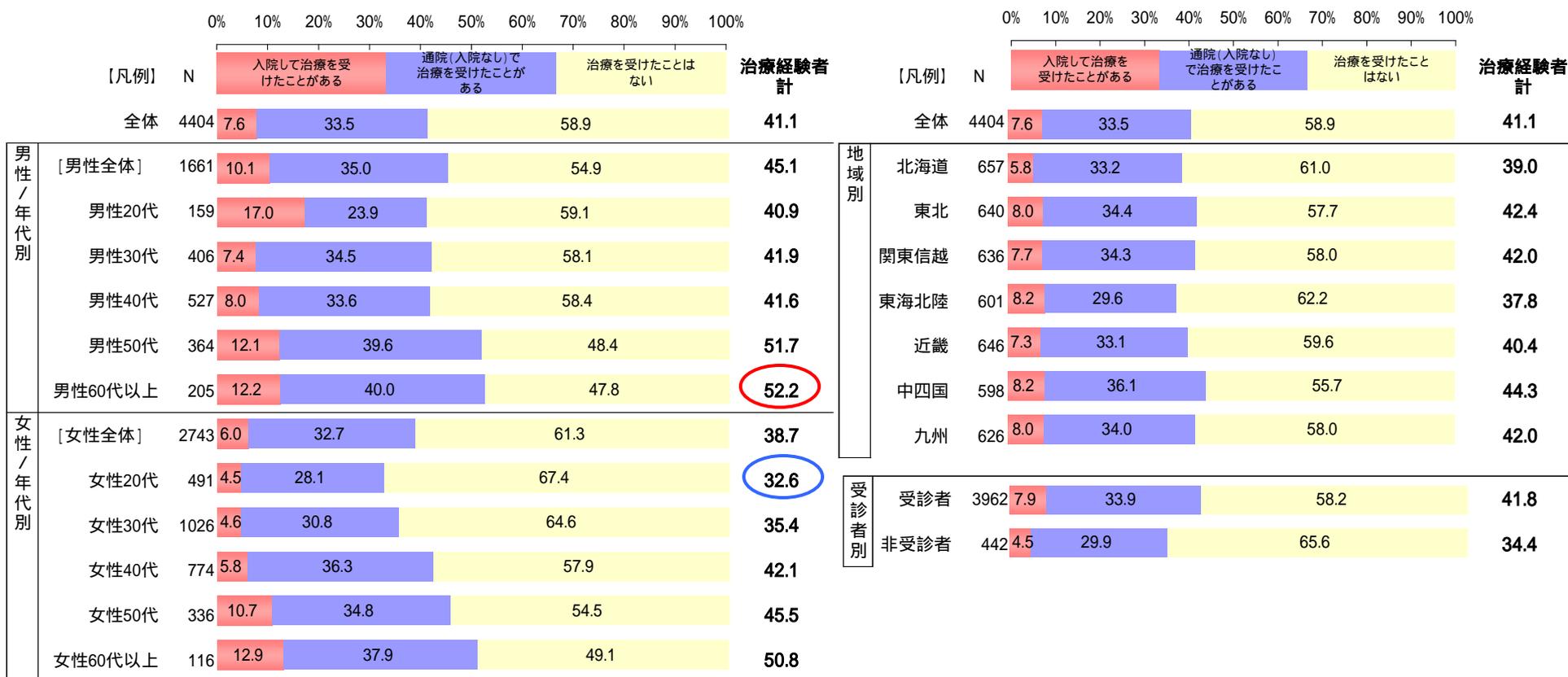


平成21年度調査では、「分からない」の選択項目はない

13. 副作用で治療を受けた経験

- 副作用経験者の中で、副作用によって治療を受けた経験は、「入院して治療」が7.6%、「通院して治療」が33.5%、合わせて41.1%である。
- 性別では、男性のほうが女性に比べて治療者(入院+通院)が6.4ポイント高い。性年代別では、最も治療者(入院+通院)が多いのは「男性60代以上」52.2%、最も少ないのは「女性20代以上」32.6%。
- 地域別では、北海道、東海北陸で、治療者(入院+通院)が若干低い傾向が見られる。
- 受診者別では、受診者の治療者(入院+通院)41.8%に対し、非受診者は34.4%。

Q18 あなたが医薬品による副作用にあった際に、医療機関で治療を受けたことがありますか。(単一回答)



14. 医薬品副作用被害救済制度の利用経験

- 医薬品副作用被害救済制度の利用経験は、「利用した」が5.6%。
- 性別では、男性のほうが女性に比べて利用者が2.6ポイント高い。性年代別では、最も利用者が多いのは「男性20代」26.2%、最も少ないのは「男性50代以上」1.6%。
- 地域別では、東海北陸の利用者が7.5%と最も高く、北海道の3.1%が最も低い。
- 受診者別では、受診者の利用者5.7%に対し、非受診者は3.9%。

Q19 あなたは医薬品の副作用の治療を受けた際に、「医薬品副作用被害救済制度」を利用したことがありますか。（単一回答）

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

【凡例】 N 利用したことがある 利用したことはない

【凡例】 N 利用したことがある 利用したことはない

全体 1810 5.6 94.4

全体 1810 5.6 94.4

男性/年代別 [男性全体] 749 7.1 92.9

地域別 北海道 256 3.1 96.9

男性20代 65 26.2 73.8

東北 271 7.0 93.0

男性30代 170 10.6 89.4

関東信越 267 4.1 95.9

男性40代 219 4.6 95.4

東海北陸 227 7.5 92.5

男性50代 188 1.6 98.4

近畿 261 6.5 93.5

男性60代以上 107 4.7 95.3

中四国 265 6.8 93.2

九州 263 4.2 95.8

受診者別 受診者 1658 5.7 94.3

非受診者 152 3.9 96.1

女性/年代別 [女性全体] 1061 4.5 95.5

女性20代 160 6.3 93.8

女性30代 363 5.0 95.0

女性40代 326 2.8 97.2

女性50代 153 5.2 94.8

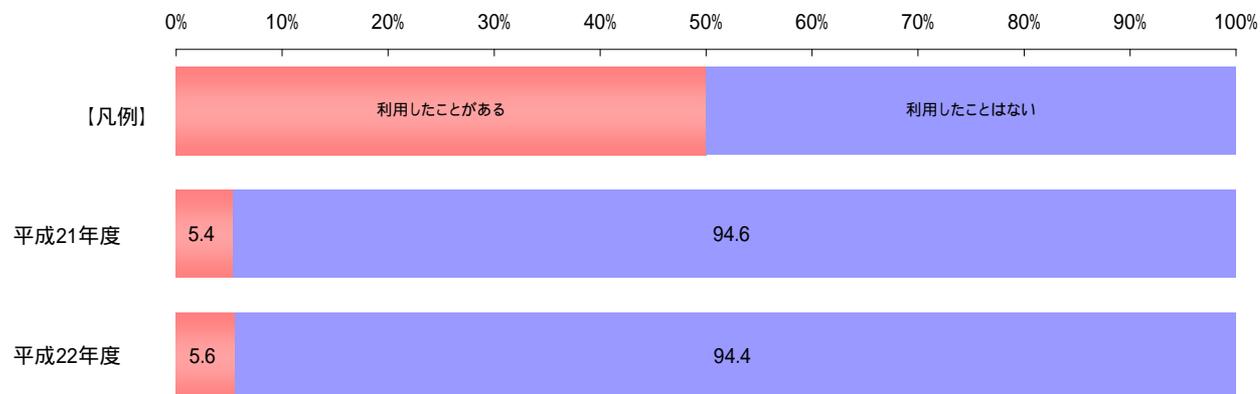
女性60代以上 59 5.1 94.9

14. 医薬品副作用被害救済制度の利用経験

ü 21年度との比較では、いずれも大きな差が見られない。

Q19 あなたは医薬品の副作用の治療を受けた際に、「医薬品副作用被害救済制度」を利用したことがありますか。（単一回答）

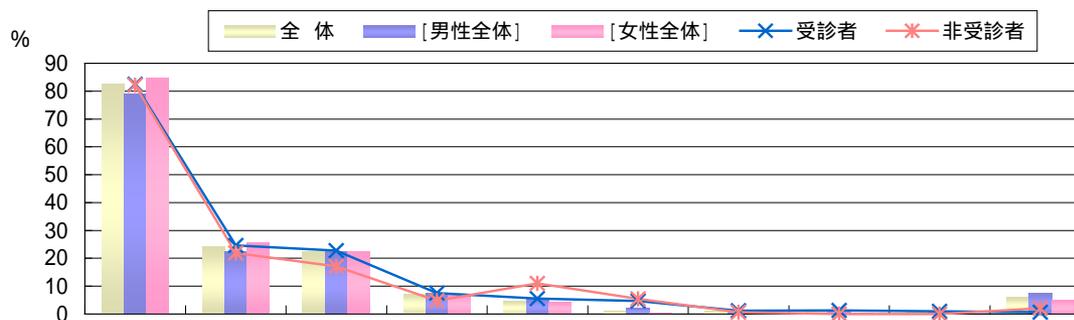
【全体ベース、平成21年度：N=129、平成22年度：N=1810】



15. 医薬品副作用被害救済制度を利用しなかった理由

- 医薬品副作用被害救済制度を利用しなかった理由は、「制度を知らなかった」が82.5%と最も高く、「入院する程ではなかった」24.4%、「医師等が教えてくれなかった」22.4%と続く。
- 性別では、「制度を知らなかった」「入院する程ではなかった」は女性のほうが若干ポイントが高いものの、他の項目では大きな差が見られない。性年代別では、「制度を知らなかった」で「女性30～40代」のポイントが高い。
- 受診者別では、「症状が入院する程のことではなかったから」および「医師や薬剤師、看護師などが教えてくれなかったから」においては受診者で2割超と高い。

Q20 あなたが「医薬品副作用被害救済制度」を利用しなかった理由について、あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答）



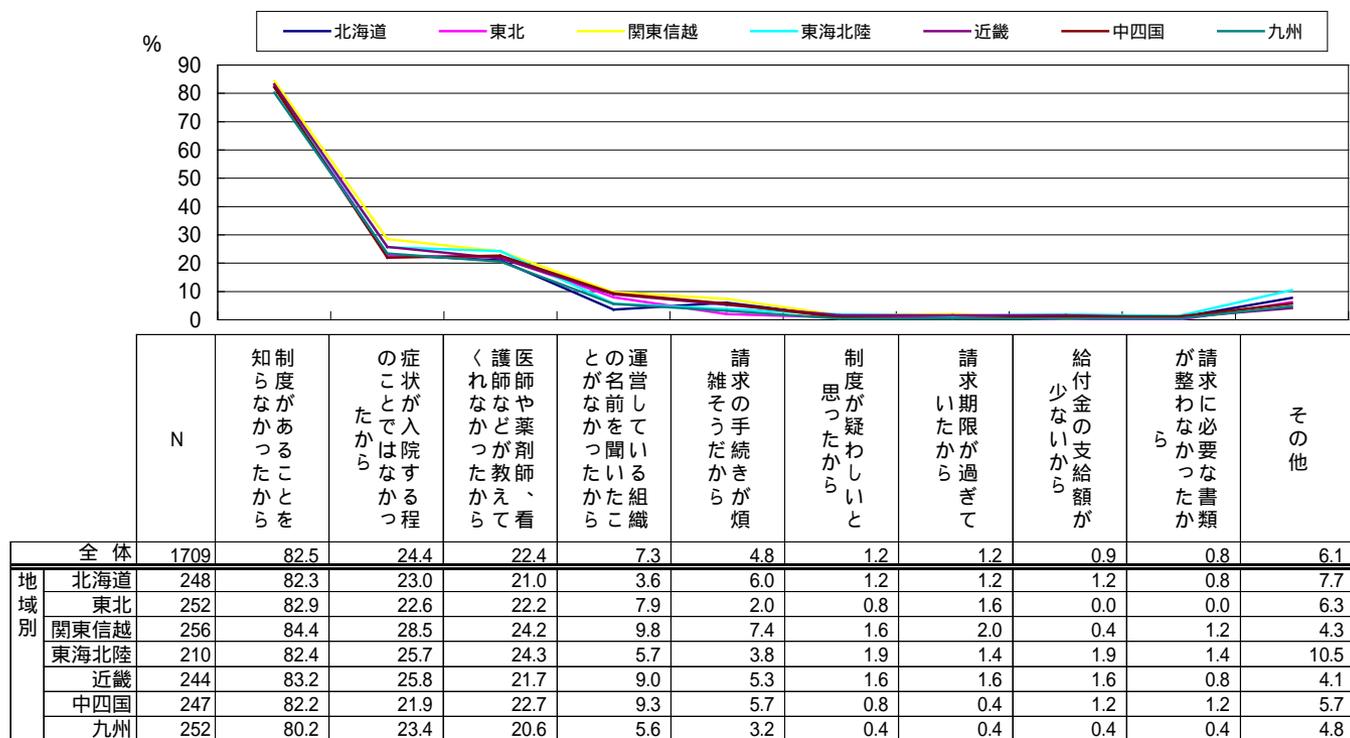
	N	制度があることを知らなかったから	症状が入院する程ではなかったから	医師や薬剤師、看護師などが教えてくれなかったから	運営している組織の名前を聞いたことがなかったから	請求の手続きが煩雑そうだから	制度が疑わしいと思ったから	請求期限が過ぎていたから	給付金の支給額が少ないから	請求に必要な書類が整わなかったから	その他
全体	1709	82.5	24.4	22.4	7.3	4.8	1.2	1.2	0.9	0.8	6.1
男性 / 年代別											
[男性全体]	696	79.0	22.6	22.4	7.5	5.6	2.2	1.4	1.6	1.1	7.6
男性20代	48	79.2	31.3	14.6	2.1	8.3	2.1	2.1	4.2	4.2	6.3
男性30代	152	84.2	20.4	19.1	8.6	5.9	3.9	0.0	2.6	0.0	4.6
男性40代	209	73.2	21.5	19.1	8.1	4.8	1.4	2.4	0.5	0.5	7.7
男性50代	185	82.7	20.0	25.9	5.9	3.8	1.6	1.1	0.5	1.1	6.5
男性60代以上	102	76.5	28.4	31.4	9.8	8.8	2.0	2.0	2.9	2.9	14.7
女性 / 年代別											
[女性全体]	1013	84.9	25.7	22.3	7.2	4.2	0.5	1.1	0.5	0.6	5.0
女性20代	150	82.7	29.3	20.7	4.7	4.7	0.7	0.7	1.3	0.7	1.3
女性30代	345	86.1	26.1	20.0	7.0	5.5	0.6	1.2	0.6	0.3	3.2
女性40代	317	87.4	22.7	23.7	6.0	5.0	0.6	1.6	0.3	1.3	5.4
女性50代	145	81.4	26.2	23.4	11.0	0.7	0.0	0.7	0.0	0.0	8.3
女性60代以上	56	78.6	28.6	30.4	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.1
受診者別											
受診者	1563	82.5	24.6	22.8	7.5	5.6	4.7	1.2	1.3	1.0	0.7
非受診者	146	82.2	21.9	17.1	4.8	11.0	5.5	0.7	0.0	0.0	2.1

全体を降順にソート

15. 医薬品副作用被害救済制度を利用しなかった理由

① 地域別では、いずれも大きな差が見られない。

Q20 あなたが「医薬品副作用被害救済制度」を利用しなかった理由について、あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答）

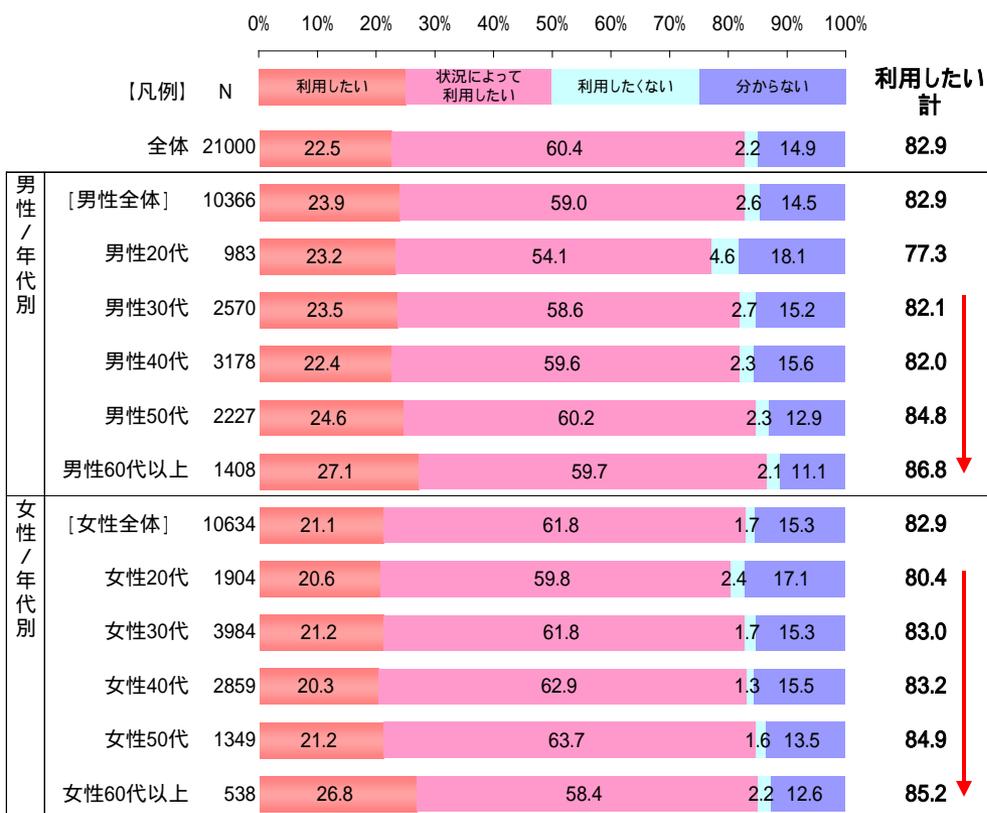


全体を降順にソート

16. 医薬品副作用被害救済制度の利用意向

- 医薬品副作用被害救済制度の今後の利用意向は、「利用したい」22.5%、「状況によって利用したい」60.4%で、合わせて82.9%である。
- 性別では、差が見られない。性年代別では、男女ともに概ね年代が上がるほど利用意向(利用したい+状況によって利用したい)意向のポイントが高くなっている。
- 地域別では、大きな差が見られないが、関東信越の利用意向(利用したい+状況によって利用したい)が84.9%と最も高く、北海道の79.8%が最も低い。
- 受診者別では、受診者の利用意向者(利用したい+状況によって利用したい)84.7%に対し、非受診者は76.0%。

Q21 今後、あなたが医薬品の副作用にあった場合、「医薬品副作用被害救済制度」を利用したいと思いますか。(単一回答)

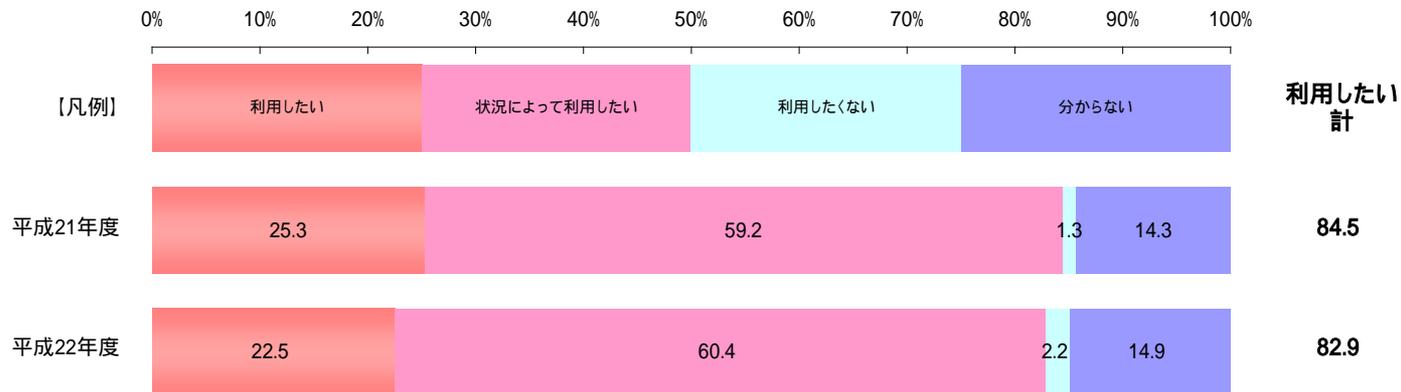


16. 医薬品副作用被害救済制度の利用意向

ü 21年度との比較では、利用意向者(利用したい+状況によって利用したい)は前年度比で1.6ポイント低くなっている。

Q21 今後、あなたが医薬品の副作用にあった場合、「医薬品副作用被害救済制度」を利用したいと思いますか。(単一回答)

【全体ベース、平成21年度：N=3119、平成22年度：N=21000】



17. 医薬品副作用被害救済制度の利用意向の理由 - 利用意向者ベース

- 医薬品副作用被害救済制度の利用意向の理由については、副作用の程度次第により利用したい理由が最多である。
- 20代、30代といった若年層ほど副作用に伴う治療負担などの経済的負担の軽減目的を挙げる傾向にある。
- 40代以上の中高年層では「あってしかるべき制度は当然利用したい」と公的制度ほど利用意向が強いことがうかがえる。

Q22 上記のお答えの理由を具体的に教えてください。（自由回答）

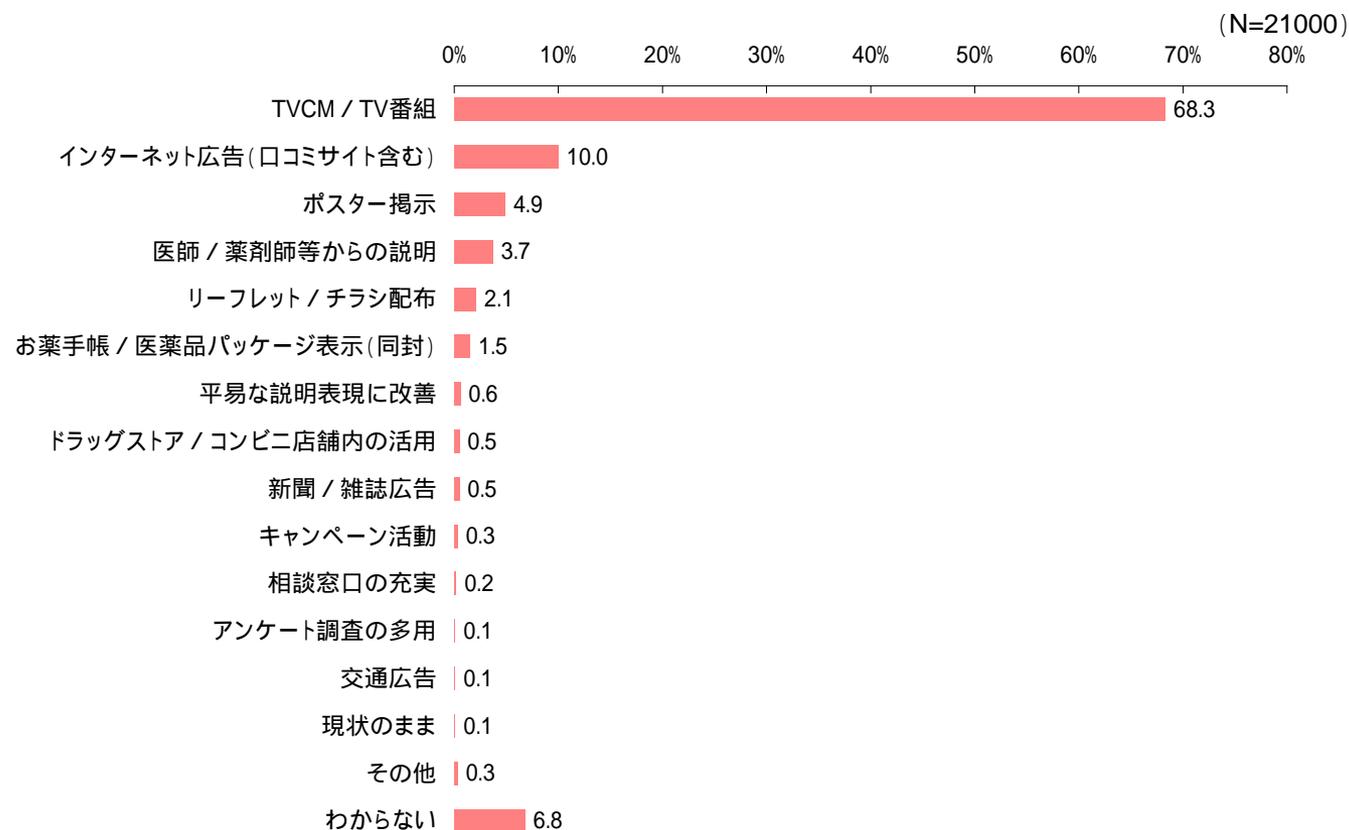
性年代	利用意向理由(一部抜粋)	性年代	利用意向理由(一部抜粋)
20代 男性	あきらかに副作用と認められる症状が出た場合、このような制度があって利用しないのは損であるから。	40代 女性	その時になってみないとわからない
20代 男性	何かあったときには利用したい	40代 女性	医師が処方した薬品の副作用で医療費がかかるのは納得できないから。
20代 女性	あまり医薬品の副作用がどのようなものかというのがわからない	40代 女性	医薬品の知識がないから
20代 女性	いつ副作用が出るかわからないので	40代 女性	公的な制度の安心感
20代 女性	子供がいるので 何かあったときには利用したい	40代 女性	通院しているので、薬の副作用があった場合に利用したい
20代 女性	入院するほどの重篤な副作用が出たなら、利用したい。	40代 女性	入院するほどの副作用があれば是非利用したい。
30代 男性	その後の生活が困らないようにするため	50代 男性	このアンケートでこの情報を知って有効な対応策と判断できたから。
30代 男性	救済されるのであれば利用したい	50代 男性	ジェネリック医薬品がどんどん増えてくと思うが、機能や効果の面で不安がある。副作用が増えると思う。
30代 男性	個人負担が軽減されるので	50代 男性	救済制度はあってしかるべきと思う。
30代 男性	子供の予防接種などに利用できたらと思いましたが、詳しく知ろうと興味が沸きました	50代 男性	泣き寝入りしないでいいので利用したい。
30代 女性	副作用の重さによって、必要であれば利用したいと思う。	50代 男性	当然の権利だと思う
30代 女性	家族が副作用になったときに、ぜひ利用したい	50代 女性	あるべき制度は利用すべきだと思うので
30代 女性	あまりにひどく、実費が沢山かかるなら考えたい。	50代 女性	いろんな情報が手に入りそうなので。
30代 女性	ひどい副作用なら利用したい	50代 女性	せっかくある制度だからぜひ利用したい
30代 女性	ひどい副作用の時には助かる制度だと思ったから。	50代 女性	医療費が高いので
30代 女性	副作用によって金銭的に困る場合は頼りたい。	50代 女性	副作用についての正しい知識が、よくわかると思うから。
40代 男性	2ヶ所以上から処方を受けている時。	60代以上 男性	この制度はあって当然。今までなかったことが不思議である。
40代 男性	いざというときの保障があると助かるから。	60代以上 男性	どのような症状が副作用なのか判らないから。
40代 男性	お金がかかりそうだから、救済されたい。	60代以上 男性	10年来の通院治療で、医薬品と切っても切れない繋がりがあがる為です。
40代 男性	経済的に助かるから	60代以上 男性	救済されるものであれば受けたい
40代 女性	症状がひどく大変な場合は利用すると思う	60代以上 男性	経済的負担の軽減のため
40代 女性	「医薬品副作用被害救済制度」というものを知らなかったので、よく理解した上で、自分が副作用にあった場合利用したいと思いました。	60代以上 男性	軽度の副作用であれば利用しないが、重度の場合は利用したい。
40代 女性	あまり手続きが難しければ 利用したくはないが 簡単な手続きなら利用してみようかと	60代以上 男性	原因をつかむため
40代 女性	アレルギー体質で、いつ薬の副作用被害に合うかわからないから。	60代以上 男性	個人では処理できないときがあるから
40代 女性	いい制度だと思う	60代以上 男性	手続きが簡単であれば使用する
40代 女性	このような制度があることを知ったので、相談できる窓口として利用したい。	60代以上 女性	あまり薬を使用しないので状況に応じて対処したい

利用意向者: 利用したい + 状況によって利用したい, N=12685

18. 医薬品副作用被害救済制度の周知方法

- 医薬品副作用被害救済制度の周知方法は、「TVCM / TV番組」の活用が68.3%と極めて高く、以下「インターネット広告」10.0%、「ポスター掲示」4.9%、「医師等からの説明」3.7%と続く。
- 最多の「TVCM / TV番組」においては、主に著名人が出演する番組の協賛をはじめ、それらの番組のスポット枠でのTVCM化を求めている。また、医療機関の待合室等で流れているテレビにVTR放送していく方法も挙げている。
- 次に、「インターネット広告（口コミサイト含む）」（10.0%）である。インターネット広告の中には、メールマガジンの発信などIT活用の提案も挙げている。
- また「医師 / 薬剤師等からの説明」（3.7%）については、「リーフレット / チラシ配布」および「お薬手帳 / 医薬品パッケージ表示（同封）」との併用策として挙げる傾向にある。

Q23 「医薬品副作用被害救済制度」を広く皆様に知っていただくためには、どのような方法が有効だと思いますか。（自由回答）



5. 考察

- 調査結果（21年度との比較）からうかがえること -

1. 健康被害救済制度に関する認知度について

- 健康被害救済制度に関する認知度について、平成22年度調査 (n=21000) においては「石綿(アスベスト)健康被害救済制度」57.0% (知っている人ベース) が最も高い。ほか、「医薬品副作用被害救済制度」18.9%、「献血者健康被害救済制度」14.5%、「生物由来製品感染等被害救済制度」8.9%、「予防接種健康被害救済制度」28.5%となっている。
- 同制度の「健康被害」の認識は、「石綿(アスベスト)被害」がイコールとなって高いものとなっている。
- 一方で、平成21年度調査 (n=3119) においては、第一に、健康被害救済制度そのものの認知度を測っている。その認知率は39.1%である。
- さらに認知者 (n=1221) に対して同制度に関する問いは、「医薬品副作用被害救済制度」77.4%、「生物由来製品感染等被害救済制度」35.1%に限られている。
- よって、21年度との比較で「医薬品副作用被害救済制度」にかぎってみると、知っている人の割合が平成22年度: 18.9%に対して、平成21年度: 77.4%と、58.5%もの大差の乖離が生じることとなるが、同設問の調査対象者の抽出法 (調査設計) の違いがあるとともに、前年度調査の調査項目に比して22年度調査は5項目と細分化され、その結果として石綿(アスベスト)被害がいわば健康被害とイコールと値するほどの認知度が高いことがうかがえることから、前年度調査の医薬品副作用被害救済制度の認知者 (77.4%) は石綿(アスベスト)健康被害救済制度の認知者をも含まれているものと推察される。

平成21年度調査

健康被害救済制度の認知 (N=3119)

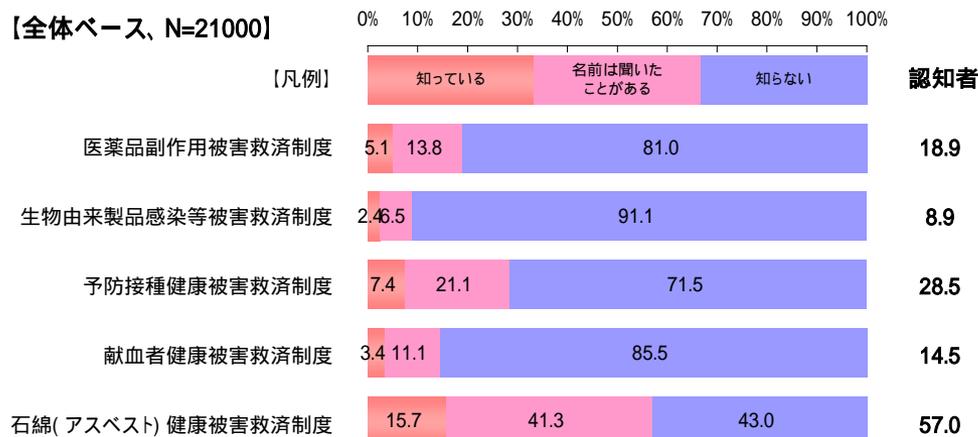


【健康被害救済制度の認知者ベース、N=1221】



平成22年度調査

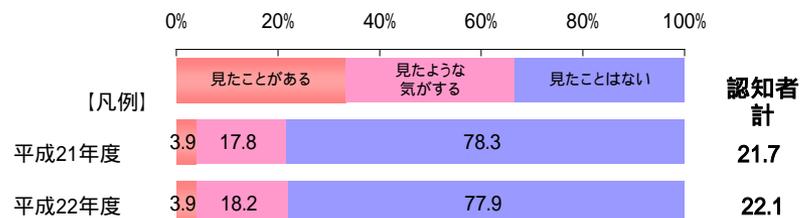
【全体ベース、N=21000】



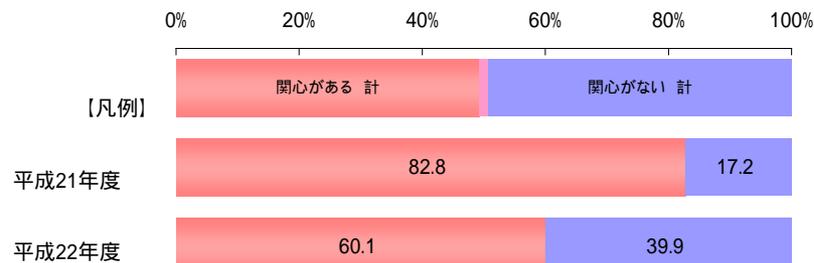
2. 広告の認知、効果について

- 広告の認知について、経年比較にみると、平成22年度調査では認知率は22.1%であり、前年度調査比で0.4ポイント伸ばしている。
- その認知の経路においては、「病院・医院」50.6%をトップに、「薬局・薬店(ドラッグストア含む)」46.9%が続いており、医療関係機関での貢献度が高い(いずれも複数回答)。
- 本調査対象者にリーフレットを見てもらった上で「医薬品副作用被害救済制度」への関心度を尋ねたところ、平成22年度調査では関心がある人は60.1%であるのに対して、前年度調査では82.8%である。
- 前年度調査比で22.7ポイントと大差の乖離があることは、以下のとおり、前年度調査の回答項目(評価項目6段階)に対して本調査の回答項目は4段階の評価項目となっているため、関心度合い(尺度)の差が左右されていることがうかがえる。
- 同制度の今後の利用意向について、平成22年度調査は82.9%と、前年度調査比で1.6ポイント減となっている。ただし、利用意向の理由について自由回答形式で尋ねてみると、その大半が「副作用の程度次第による」ところが高いことから、医薬品副作用被害救済制度の利用ニーズは(前年度調査が同設問に対する分析結果がないが)潜在的には高まってきていることと推察できる。

広告の認知



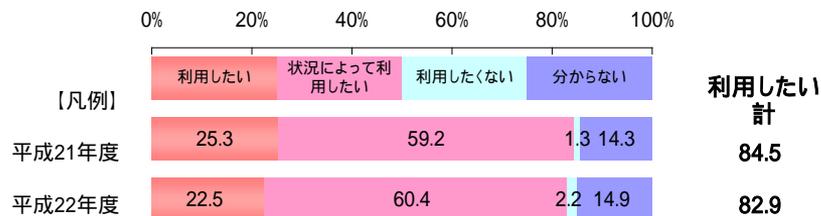
医薬品副作用被害救済制度に対する関心



平成21年度:「非常に関心がある」9.1%、「関心がある」30.0%、「やや関心がある」43.7%、「あまり関心はない」13.5%、「関心はない」2.0%、「全く関心はない」1.7%

平成22年度:「関心がある」10.6%、「やや関心がある」49.5%、「あまり関心はない」33.6%、「関心はない」6.3%

医薬品副作用被害救済制度の利用意向



卷末資料

WEB調査表

0%

くすりに関する調査

■アンケートにご回答いただく方へのお願い

モニター規約でもお願っていますが、本アンケートの内容や情報に関しては第三者に口外しないようお願いいたします。
(インターネットの掲示板やホームページ等にアップロードすることも含まれます)

アンケートにご参加いただく場合は、【アンケート開始】ボタンを押してお進みください。

閉じる

アンケート開始

くすりに関する調査

4/6

【Q01】
あなたの性別をお答えください。
(お答えはひとつ)

男性
 女性

【Q02】
あなたの年齢をお答えください。
(お答えはひとつ)

<input type="radio"/> 19歳以下	<input type="radio"/> 33歳	<input type="radio"/> 47歳	<input type="radio"/> 61歳
<input type="radio"/> 20歳	<input type="radio"/> 34歳	<input type="radio"/> 48歳	<input type="radio"/> 62歳
<input type="radio"/> 21歳	<input type="radio"/> 35歳	<input type="radio"/> 49歳	<input type="radio"/> 63歳
<input type="radio"/> 22歳	<input type="radio"/> 36歳	<input type="radio"/> 50歳	<input type="radio"/> 64歳
<input type="radio"/> 23歳	<input type="radio"/> 37歳	<input type="radio"/> 51歳	<input type="radio"/> 65歳
<input type="radio"/> 24歳	<input type="radio"/> 38歳	<input type="radio"/> 52歳	<input type="radio"/> 66歳
<input type="radio"/> 25歳	<input type="radio"/> 39歳	<input type="radio"/> 53歳	<input type="radio"/> 67歳
<input type="radio"/> 26歳	<input type="radio"/> 40歳	<input type="radio"/> 54歳	<input type="radio"/> 68歳
<input type="radio"/> 27歳	<input type="radio"/> 41歳	<input type="radio"/> 55歳	<input type="radio"/> 69歳
<input type="radio"/> 28歳	<input type="radio"/> 42歳	<input type="radio"/> 56歳	<input type="radio"/> 70歳以上
<input type="radio"/> 29歳	<input type="radio"/> 43歳	<input type="radio"/> 57歳	
<input type="radio"/> 30歳	<input type="radio"/> 44歳	<input type="radio"/> 58歳	
<input type="radio"/> 31歳	<input type="radio"/> 45歳	<input type="radio"/> 59歳	
<input type="radio"/> 32歳	<input type="radio"/> 46歳	<input type="radio"/> 60歳	

【Q03】
あなたが住まう都道府県をお選びください。
(お答えはひとつ)

<input type="radio"/> 北海道	<input type="radio"/> 東京都	<input type="radio"/> 滋賀県	<input type="radio"/> 香川県
<input type="radio"/> 青森県	<input type="radio"/> 神奈川県	<input type="radio"/> 京都府	<input type="radio"/> 愛媛県
<input type="radio"/> 岩手県	<input type="radio"/> 新潟県	<input type="radio"/> 大阪府	<input type="radio"/> 高知県
<input type="radio"/> 宮城県	<input type="radio"/> 富山県	<input type="radio"/> 兵庫県	<input type="radio"/> 福岡県
<input type="radio"/> 秋田県	<input type="radio"/> 石川県	<input type="radio"/> 奈良県	<input type="radio"/> 佐賀県
<input type="radio"/> 山形県	<input type="radio"/> 福井県	<input type="radio"/> 和歌山県	<input type="radio"/> 長崎県
<input type="radio"/> 福島県	<input type="radio"/> 山梨県	<input type="radio"/> 鳥取県	<input type="radio"/> 熊本県
<input type="radio"/> 茨城県	<input type="radio"/> 長野県	<input type="radio"/> 島根県	<input type="radio"/> 大分県
<input type="radio"/> 群馬県	<input type="radio"/> 岐阜県	<input type="radio"/> 岡山県	<input type="radio"/> 宮崎県
<input type="radio"/> 栃木県	<input type="radio"/> 静岡県	<input type="radio"/> 広島県	<input type="radio"/> 鹿児島県
<input type="radio"/> 千葉県	<input type="radio"/> 愛知県	<input type="radio"/> 山口県	<input type="radio"/> 沖縄県
<input type="radio"/> 東京都	<input type="radio"/> 三重県	<input type="radio"/> 徳島県	

回答内容が正しく確認できたら、「次へ」をクリックしてください。

[前へ戻る](#)

くすりに関する調査



【Q1】

あなたは、過去1年以内に医療機関にかかりましたか。
(お答えはひとつ)

- はい
- いいえ

回答内容をよくご確認のうえ、【次へ】ボタンを押してください。

次へ

前へ戻る

くすりに関する調査

 13%

【Q2】

前問で「はい」とお答えの方におたずねします。

あなたは、過去1年以内に医療機関をどのように利用(入院・通院)しましたか。
(お答えはひとつ)

- 入院した
- 入院はしていませんが、持病や体調不良やけがの診療などで通院した

回答内容をよくご確認のうえ、【次へ】ボタンを押してください。

次へ

前へ戻る

くすりに関する調査



【Q3】

あなたは、過去1年以内)どのような規模の医療機関をもっとも多く利用しましたか。
(お答えはひとつ)

医療機関をもっとも多く利用とは、利用頻度ももっとも多いことを指します。

- 病院(ベッド数20床以上)
- 診療所、クリニック、医院など

回答内容をよくご確認のうえ、【次へ】ボタンを押してください。

次へ

前へ戻る

くすりに関する調査

21%

【Q4】

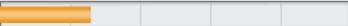
あなたが、過去1年以内にもっとも多く利用された病院はどこですか。
(お答えはひとつ)

- 1. 国立病院(独法・国立病院機構、ナショナルセンターなどを含む)
- 2. 大学病院
- 3. 自治体病院(都道府県立病院、市町村立病院)
- 4. 日本赤十字社(日本赤十字社医療センター、〇〇赤十字病院など)
- 5. 済生会(済生会〇〇病院、〇〇済生病院など)
- 6. 厚生連(厚生連〇〇病院、〇〇厚生病院など)
- 7. その他(1～6以外の病院)

回答内容をよくご確認のうえ、【次へ】ボタンを押してください。

[次へ](#)[前へ戻る](#)

くすりに関する調査

 26%

【Q5】

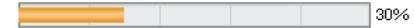
あなたは、過去1年以内に医薬品(薬)を使用しましたか。
(お答えはひとつ)

- 医療機関で処方された医薬品を使用した
- 市販されている医薬品を使用した
- 医療機関で処方された医薬品、市販されている医薬品ともに使用した
- 使用していない

回答内容をよくご確認のうえ、【次へ】ボタンを押してください。

[前へ戻る](#)

くすりに関する調査

 30%

【Q6】

前問で「**医療機関で処方された医薬品、市販されている医薬品ともに使用した**」とお答えの方におたずねします。

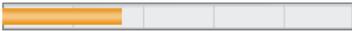
あなたは、その医薬品をどこで購入(入手)しましたか。あてはまるものをすべてお選びください。
(お答えはいくつでも)

- 1. 院内処方(医療機関の中にある薬局または調剤窓口)
- 2. 院外処方(医療機関の外にある薬局・薬店(ドラッグストア含む)など)
- 3. 薬局・薬店(院外処方を除く)
- 4. コンビニエンスストア
- 5. 通信販売
- 6. 置き薬(配置薬)
- 7. 勤務先・学校
- 8. その他()

回答内容をよくご確認のうえ、【次へ】ボタンを押してください。

[前へ戻る](#)

くすりに関する調査

 34%

【Q7】

あなたは、下記に挙げた健康被害救済制度をご存じですか。
それぞれにあてはまるものをひとつお選びください。
(お答えはそれぞれひとつ)

	知っている	名前は聞いたことがある	知らない
1. 医薬品副作用被害救済制度 →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 献血者健康被害救済制度 →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 生物由来製品感染等被害救済制度 →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 石綿(アスベスト)健康被害救済制度 →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. 予防接種健康被害救済制度 →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

回答内容をよくご確認のうえ、【次へ】ボタンを押してください。

[次へ](#)[前へ戻る](#)

くすりに関する調査

99%

【Q8】

前問で「医薬品副作用被害救済制度を、知っている」とお答えの方におたずねします。

「医薬品副作用被害救済制度」について、以下それぞれにあてはまるものをひとつお選びください。
(お答えはそれぞれひとつ)

		知 っ て い る	知 ら な い	分 か ら な い
1. 医薬品の副作用による被害を受けられた方の迅速な救済を図ることを目的とした公的な制度である	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 医薬品を、適正に使用したにもかかわらず発生した副作用による疾病や障害などの健康被害について救済給付を行う	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 入院が必要な程度の疾病や障害などの健康被害について救済給付を行う	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 給付の種類がいくつかの種類がある	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. 給付は、種類ごとにそれぞれ請求期限がある	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

回答内容をよくご確認のうえ、【次へ】ボタンを押してください。

次へ

前へ戻る

くすりに関する調査

43%

【Q9】

あなたは「医薬品副作用被害救済制度」をどのようにして知りましたか。
または、どのようにして名前を聞きましたか。
あてはまるものをすべてお選びください。
(お答えはいくつでも)

- 1. テレビ放送
- 2. ラジオ放送
- 3. 新聞(記事・広告を問わない。折込みチラシを除く)
- 4. 週刊誌・フリーマガジン(記事・広告を問わない)
- 5. 医療関係専門誌
- 6. シンポジウム
- 7. 医薬品医療機器総合機構主催の国民フォーラム
- 8. 医薬品医療機器総合機構のホームページ
- 9. その他のインターネットのホームページ
- 10. 人から聞いた/教えてもらった
- 11. パンフレット
- 12. ポスター・ステッカー
- 13. DVD(医薬品医療機器総合機構作成)
- 14. 病院・医院の院内ビジョン
- 15. その他()

回答内容をよくご確認のうえ、【次へ】ボタンを押してください。

次へ

前へ戻る

くすりに関する調査

47%

【Q10】

前問Q9で「人から聞いた/教えてもらった」とお答えの方におたずねします。

あなたは「医薬品副作用被害救済制度」について、誰から知りましたか。

あてはまるものをすべてお選びください。

(お答えはいくつでも)

- 1. 知人・友人
- 2. 家族
- 3. 医師
- 4. 薬剤師
- 5. 看護師
- 6. 医療機関の事務担当者
- 7. 医療ソーシャルワーカー
- 8. 自治体の職員
- 9. 保健所の職員
- 10. 弁護士
- 11. 薬剤師会の相談窓口
- 12. 製薬会社の相談窓口
- 13. 医薬品医療機器総合機構の相談窓口
- 14. その他〈 〉

回答内容をよくご確認のうえ、【次へ】ボタンを押してください。

次へ

前へ戻る

くすりに関する調査

 52%

【Q11】

前問Q9で「パンフレットまたはポスター・ステッカー」とお答えの方におたずねします。

あなたは「医薬品副作用被害救済制度」のパンフレット、ポスター・ステッカーをどこで見ましたか。

あてはまるものをすべてお選びください。

(お答えはいくつでも)

- 1. 電車(JR、地下鉄など)
- 2. 薬局・薬店(ドラッグストア含む)
- 3. 病院・医院
- 4. 自治体・保健所などの公共機関
- 5. その他()

回答内容をよくご確認のうえ、【次へ】ボタンを押してください。

[前へ戻る](#)

くすりにに関する調査

50%

【Q12】

以下の画像(新聞・交通広告、ポスター)をご覧になってからお答えください。
あなたは、この広告をひとつでも見たことがありますか。
(お答えはひとつ)

※ 画像をクリックして大きい画像を確認してからお答えください。

【新聞広告】



【スnakker(交通広告)】



【ポスター】



- 見たことがある
- 見たような気がする
- 見たことはない

回答内容をよくご確認のうえ、【次へ】ボタンを押してください。

次へ

前へ戻る

くすりに関する調査

60%

【Q13】

前問で「Q12で選択した項目を表示」とお答えの方におたずねします。

あなたは、どこでこの広告を見ましたか。

あてはまるものをすべてお選びください。

(お答えはいくつでも)

- 1. 新聞
- 2. フリーマガジン
- 3. 電車(JR、地下鉄など)
- 4. 薬局・薬店(ドラッグストア含む)
- 5. 病院・医院
- 6. 自治体・保健所などの公共機関
- 7. その他()

回答内容をよくご確認のうえ、【次へ】ボタンを押してください。

[前へ戻る](#)

くすりに関する調査

65%

【Q14】

Q12でご覧になった「新聞・交通広告、ポスター」についての感想をおうかがいします。
以下の項目について、それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。
(お答えはそれぞれひとつ)

【新聞広告】	【ステッカー（交通広告）】	【ポスター】
		

	とても いい	やや いい	あまり いいと思 わない	そ う思 わ ない
1. 役に立つ情報が得られる	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 内容がよく理解できる	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 絵（キャラクター）が楽しめる	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 興味や関心を呼ぶ	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. 印象（記憶）に残る	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6. 医薬品医療機器総合機構のホームページアクセスし たくなる	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

回答内容をよくご確認のうえ、【次へ】ボタンを押してください。

次へ

前へ戻る

くすりに関する調査

69%

【Q15】

以下の「リーフレット」をよくお読みになってからお答えください。
あなたは「医薬品副作用被害救済制度」について、どの程度関心がありますか。
(お答えはひとつ)

※ 画像をクリックして大きい画像を確認してからお答えください。

【リーフレット(表)】

【リーフレット(裏)】

- 関心がある
- やや関心がある
- あまり関心はない
- 関心はない

回答内容をよくご確認のうえ、【次へ】ボタンを押してください。

次へ

前へ戻る

くすりに関する調査

73%

【Q16】

あなたが「医薬品副作用被害救済制度」や「薬の副作用」について情報を収集する場合、どのような方法で情報を入手しますか。
あてはまるものをすべてお選びください。
(お答えはいくつでも)

- 1. 医療関係専門誌を読む
- 2. その他の書籍を読む
- 3. 医薬品医療機器総合機構のホームページを見る
- 4. その他のインターネットのホームページを見る
- 5. 医薬品医療機器総合機構の相談窓口へ聞く
- 6. 医師・薬剤師・看護師などの医療従事者に聞く
- 7. 企業、自治体、団体の人に聞く
- 8. 家族、知人・友人に聞く
- 9. その他()

回答内容をよくご確認のうえ、【次へ】ボタンを押してください。

次へ

前へ戻る

くすりに関する調査

 78%

【Q17】

あなたは、これまでに医薬品による副作用または副作用と思われる経験をしたことがありますか。
(お答えはひとつ)

- 経験がある
- 経験はない
- 分からない

回答内容をよくご確認のうえ、【次へ】ボタンを押してください。

[前へ戻る](#)

くすりに関する調査

82%

【Q18】

前問で「経験がある」とお答えの方におたずねします。

あなたが医薬品による副作用にあった際に、医療機関で治療を受けたことがありますか。
(お答えはひとつ)

- 入院して治療を受けたことがある
- 通院(入院なし)で治療を受けたことがある
- 治療を受けたことはない

回答内容をよくご確認のうえ、【次へ】ボタンを押してください。

次へ

前へ戻る

くすりに関する調査

 86%

【Q19】

前問で「入院して治療を受けたことがある」とお答えの方におたずねします。

あなたは医薬品の副作用の治療を受けた際に、「医薬品副作用被害救済制度」を利用したことがありますか。
(お答えはひとつ)

- 利用したことがある
- 利用したことはない

回答内容をよくご確認のうえ、【次へ】ボタンを押してください。

次へ

前へ戻る

くすりに関する調査

91%

【Q20】

前問で「利用したことがない」とお答えの方におたずねします。

あなたが「医薬品副作用被害救済制度」を利用しなかった理由について、あてはまるものをすべてお選びください。
(お答えはいくつでも)

- 1. 制度があることを知らなかったから
- 2. 制度が疑わしいと思ったから
- 3. 運営している組織の名前を聞いたことがなかったから
- 4. 医師や薬剤師、看護師などが教えてくれなかったから
- 5. 症状が入院する程のことではなかったから
- 6. 請求期限が過ぎていたから
- 7. 請求の手続きが複雑そうだから
- 8. 請求に必要な書類が整わなかったから
- 9. 給付金の支給額が少ないから
- 10. その他()

回答内容をよくご確認のうえ、【次へ】ボタンを押してください。

次へ

前へ戻る

くすりに関する調査

 95%

【Q21】

今後、あなたが医薬品の副作用にあった場合、「医薬品副作用被害救済制度」を利用したいと思いますか。
(お答えはひとつ)

- 利用したい
- 状況によって利用したい
- 利用したくない
- 分からない

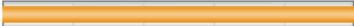
【Q22】

上記のお答えの理由を具体的に教えてください。

回答内容をよくご確認のうえ、【次へ】ボタンを押してください。

[前へ戻る](#)

くすりに関する調査

100%**【Q23】**

「医薬品副作用被害救済制度」を広く皆様に知っていただくためには、どのような方法が有効だと思いますか。
(お答えは具体的に)

以上でアンケートは終了です。回答内容をよくご確認のうえ、【送信】ボタンを押してください。

[前へ戻る](#)



ご回答ありがとうございました。

Myページへ戻る

前へ戻る